

第3章 教育サポーター制度に類する先進事例調査

3 - 1 . 先進的な事例の抽出

第1章では、国等の行政機関や大学・NPO等による「教育サポーター制度」に類似する取組・制度について文献調査を行い、整理した。また、第2章のアンケート調査では、「教育サポーター制度」に類する各地の類似事例についても収集・整理した。

これらの各地の取組事例の中から、「教育サポーター制度」の標準モデルを検討する上での知見を得るため、主に以下の視点に基づき、先進的な取組事例を抽出した。

〔事例抽出の視点〕

- 登録前の研修の必修化など一定の資質を有する登録者の確保策に特徴が見られる事例
- 登録者に対する定期的な研修や相談などのフォローアップが行われている事例
- 現場ニーズと登録者の活動ニーズとの的確なマッチングシステムが構築されている事例
- 教育サポーターとして退職後の人材や高齢者が経験や技術を活かして活動している事例
- 年間を通じた取組により教育サポーターの活動効果を上げている事例

図表3-1 先進的な事例調査の対象地域及び調査対象となる制度

アンケート調査からの抽出				
No	自治体名	制度名	実施主体	抽出視点
1	栃木県	栃木県生涯学習ボランティアセンター	栃木県教育委員会 栃木県総合教育センター	
2	栃木県 壬生町	学校地域支援ボランティア推進事業	壬生町教育委員会事務局 生涯学習課・小中学校	
3	千葉県 鎌ケ谷市	鎌ケ谷市まなびいネットワーク 養成・認定事業	鎌ケ谷市生涯学習推進センター	
4	神奈川 県川崎市	教育活動サポーター配置事業	川崎市総合教育センター カリキュラムセンター	
5	大阪府 大阪市	大阪市生涯学習インストラクターバン ク事業	大阪市教育委員会 大阪市立総合生涯学習センター	
6	東京都 あきる野市	市民解説員活動推進事業	あきる野生涯学習センター	
		生涯学習支援者バンク事業	あきる野市教育委員会	
類似事例からの抽出				
No	自治体名	制度名	実施主体	抽出視点
7	東京都 三鷹市	SA(スタディ・アドバイザー)制度	NPO法人 夢育支援ネットワーク	

3 - 2 . 各事例調査の結果

1	栃木県生涯学習ボランティアセンター
栃木県教育委員会・栃木県総合教育センター	
地域概要	<p>栃木県の人口は平成 17 年(国勢調査)現在 2,016,631 人で、65 歳以上人口は 19.4%(390,896 人)を占めている。</p> <p>栃木県では、各種の生涯学習推進施策により県民の生涯学習に対する意欲が高まってきたが、社会情勢や教育環境の変化に対応するため、中長期的な展望は「とちぎ教育振興ビジョン(二期計画)」に基づき、短期的には生涯学習推進計画に基づき、一層の生涯学習推進施策を展開している。</p>

(1) 事業の概要

<p>本事業は、ボランティア活動をしたい人や団体と、ボランティアを受入れたい施設や団体をコーディネートするために、栃木県総合教育センター内に設置された生涯学習ボランティアセンターが登録、情報管理、情報提供、相談等を行うものである。</p> <p>本事業の特徴は、第一に県内 8 教育事務所にも生涯学習ボランティアセンターを設置し、県総合教育センター内の生涯学習ボランティアセンターとネットワーク化して、一体的に「栃木県生涯学習ボランティアセンター」として機能していることであり、第二に平成 19 年から生涯学習ボランティア活動支援情報提供システム「とちぎかがやきネット」を導入し、登録者についてはボランティア活動したい人と受入側が直接接することができるような仕組みをつくっていることである。</p>

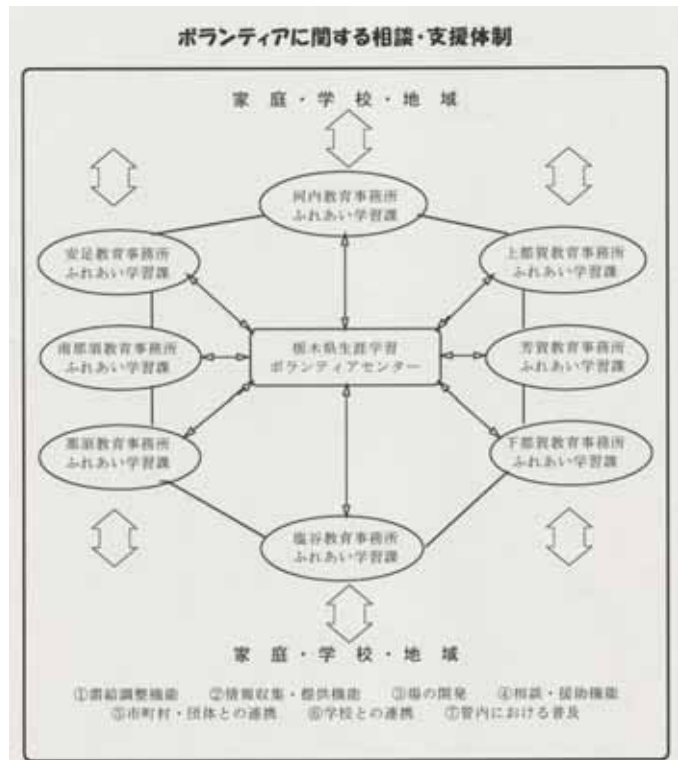
制度の名称		栃木県生涯学習ボランティアセンター									
教育サポート呼称		生涯学習ボランティア				認定数	402 人				
主体	実施主体	栃木県教育委員会、栃木県総合教育センター									
	実施主体の役割	登録 受付	登録 審査	登録情 報管理	利用 受付	人材 斡旋	活動 把握	研修 開催	相談 受付	その他	
	開始年度	平成 9 年									
登録	登録要件	特に登録するための要件は設けていない									
	登録方法	本人の申し出や推薦を受けて、事務局で書類審査を行い登録する									
	有効期限	1 年間	更新条件	本人に更新の意思があること							
活動	派遣先 :実績あり :実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年 教育施設	その他		
	対象と している 活動内容 :実績あり :実績なし	学校の授業・ 部活動での支援		放課後の子ども の活動の指導		社会教育施設の 講座での指導		社会教育施設で の各種団体の 活動の支援		その他	
	登録する 活動分野	スポーツ レクリエーション	芸術 文化	教養 生活	趣味 娯楽	医療 福祉	環境 地域	その他			
		登録申請時の自己申告により決定									
支援	謝金等	【実施主体】実施主体から支給するものはない 【受入施設】受入側の規定による									
	傷害保険	加入を勧めているが本人の判断による									

「栃木県生涯学習ボランティアセンター」創設の背景

栃木県では、平成4年に県生涯学習推進計画「とちぎ学ぶプラン」を策定し、「生涯学習社会“とちぎ”」の形成に向けて生涯学習推進施策を進めてきた。こうした中で、平成9年に「とちぎ県民カレッジ」が開学したため、そこで学んだ成果を地域づくりに活かすという考えに基づき、ボランティア活動をしたいと思う人と受入施設のマッチングを行うために、平成9年4月に「栃木県生涯学習ボランティアセンター」(以下、「ボランティアセンター」という)を栃木県総合教育センター内に創設した。現在ボランティアセンターには2名の専属の専門員(退職校長で社会教育にも精通)が配置され、PR、登録、相談、コーディネート等を行っている。

また、平成14年には、県内8教育事務所にもボランティアセンターを設置し、県総合教育センターとネットワークで結んだ。8教育事務所には社会教育主事が配置されており、この社会教育主事が当該地域におけるボランティアに関するPR、登録、相談、コーディネート等を行っている。これら8教育事務所と県総合教育センター内のボランティアセンターが一体となって「栃木県生涯学習ボランティアセンター」として機能している。

8事務所は地域内の市町村の生涯学習担当部署とつながっているため、生涯学習ボランティアに関する県からの連絡事項は8教育事務所を通じて行っている。



生涯学習ボランティアの募集・登録

募集

生涯学習ボランティアの募集は、県総合教育センター内のボランティアセンターをはじめ県内8教育事務所にパンフレットを配備したり、ボランティアセンターのホームページで掲示して、ボランティア活動をしたい個人や団体に知らせている。また、県総合教育センターによる研修の場などでも募集の広報活動を行っている。

一方、ボランティアの受入を希望する学校、公民館、市町村、県関係施設等にも募集に関する広報を行い、登録を呼びかけている。

募集分野は、以下のとおり生涯学習に関わるあらゆる分野にわたっている。

図表3-2 生涯学習ボランティアの募集分野

美術・工芸・書道	舞踊・演芸	音楽	語学	文学・文芸
生活・趣味	福祉	生涯学習	産業・政治・経済	
自然・社会科学	スポーツ	家庭教育	祭り・文化財	その他

登録

ボランティア登録を希望する人や団体は、書類による登録、平成19年7月に導入した生涯学習ボランティア活動支援情報提供システム「とちぎかがやきネット」による登録、の2つの方法のいずれかで登録することができる。

登録内容は個人と団体では若干異なるが、個人の場合を例示すると以下のとおりである。なお、下記の登録内容のうち下線項目については、インターネットによる情報公開を行うため、個人に対して情報公開についての希望の有無を確認し、公開にあたっての承諾を得ている。

図表3-3 個人の主な登録内容

個人の属性	氏名、性別、生年月日、所属、住所、電話番号、 <u>連絡方法</u>
活動に関する情報	<u>活動分野</u> 、 <u>活動可能日</u> 、 <u>主な活動地域</u> 、 <u>活動概要</u>

平成19年7月現在の登録者数は402人(男224人、女178人)であり、60歳代以上が170人を占めている。登録者には登録証を発行している。

一方、ボランティアの受入を希望する学校、公民館等の施設の情報も登録、管理している。受入施設としては100団体程度登録されており、この中では学校が多い。

なお、登録の更新は年1回5月に実施している。登録内容確認用紙を登録している人や団体に郵送し、更新の意思確認ができない場合には、登録から削除している。

生涯学習ボランティアの情報の提供方法

平成19年に導入した生涯学習ボランティア活動支援情報提供システム「とちぎかがやきネット」は、県内のボランティア活動をより活性化するために導入されたシステムである。「とちぎかがやきネット」にメール登録したボランティアに対しては、ボランティアセンターから当該ボランティアの活動分野に関するボランティア受入希望施設の情報をメールマガジンで発信している。

また、受入施設の学校、市町村、県関係施設、大学などにも「とちぎかがやきネット」に登録するよう依頼しており、登録時にはパスワードを与えている。受入施設はパスワードを用いて「とちぎかがやきネット」に入り、受入施設がネット上にボランティア募集案内を自ら書き込むことができるようになっている。その募集案内を、メール登録したボランティアは直接見ることができ、関心のあるボランティアはボランティアセンターを通さずに、直接受入施設に連絡して話し合うようにしている。書類や電話を通じたボランティアと受入施設のマッチングはボランティアセンターが行っているが、「とちぎかがやきネット」を通じたボランティアと受入施設のやりとりはボランティアセンターを通さずに直接行われている。

ただし、現状ではボランティアの中心が退職された60代の人でパソコンに強い世代ではないため、メール登録は70～80人程度にとどまっている。今の40代などのパソコンに強い世代がボランティアの中心を担う時代になると、「とちぎかがやきネット」はもっと活用されるようになると考えられている。

現状ではまだ書類によるマッチングが中心であるが、ボランティアセンターでは基本的には受入施設からボランティアに関する問い合わせがあった時に特定の人物を紹介するのではなく、受入希望分野に関するボランティア人材情報を提供して、その中から受入施設が受入れる人物を決定するようにしている。

生涯学習ボランティアの活動

a. 生涯学習ボランティアの活動範囲・内容

活動分野・活動場所

ボランティアの活動分野は前述の募集分野に示したとおり様々であり、活動場所は小学校、中学校、公民館などであり、主な活動分野と活動内容を示すと以下のとおりである。

栃木県では6・7年前から学校支援ボランティアの養成に力を入れてきたため、学校でのボランティア活動も活発に行われている。なお、学校にボランティアを受け入れる際には、学校側としては全てをボランティアに任せるのではなく、部分的にお願いすること、主導権は学校が握り、ボランティア側は学校が決めたルールに従うことが重要とされている。

図表3-4 生涯学習ボランティアの主な活動内容

分類	活動内容
学校支援活動 (学校)	・民話を聞こう ・読み聞かせ ・野外観察 ・学校祭の支援 ・学習支援 等
親子ふれあい活動 支援(公民館)	・紙飛行機づくり ・親子自然観察 ・天体観察 ・親子野鳥観察 ・クリスマス会のマジックショー 等
施設・企業支援	・広報誌の作成 ・車いす利用のお手伝い ・図書本棚の整理 ・棚田の保全 ・放牧場跡地での雑木の撤去や草刈り 等
県・市町村の公施設・職員支援	・バランスボールの指導 ・英会話の指導 ・パソコンの指導 ・親業について 等

活動支援(保険・活動経費等)

ボランティアの報酬等については、ボランティアと受入施設の話し合いで決めてもらっている。ボランティアセンターとして報酬等について指導することはない。

また、ボランティア保険についてはボランティア各自が必要に応じて加入するように伝えている。

栃木県生涯学習ボランティアセンターの今後の取組意向

a. 活動上の課題

県の役割として、広範囲のボランティアと受入施設の情報をマッチングさせることは意味のあることであるが、ボランティアと受入施設のニーズに対応したコーディネートを行うためには、市町村単位などもっと小さな地域単位にすることが重要である。このため、市町村でのボランティアセンター機能を整備することが今後の課題である。

b. 今後の方向性

栃木県では学校への社会教育主事有資格教員の配置を進めており、平均すると1校に一人以上配置されていることになっている。学校でのボランティア活動を推進するためには、学校教育と社会教育の相互理解を進めることが重要であり、社会教育主事有資格教員の全校配置や「学校支援ボランティアメッセ」等の施策を通じて、学校と地域相互の理解を深めていくための基盤整備を進めていくことが重要である。

また、市町村のボランティア活動を推進していくために、ボランティアコーディネーター等の人材を育成して市町村に送り出していくことも県の役割である。

(2) 生涯学習ボランティアの養成・資質向上について

登録後研修	講座名	生涯学習ボランティア活動交流会			
	実施主体	栃木県総合教育センター			
	内容	個人及び団体の方々が様々な分野をこえて意見交流をしながら、ボランティア活動の望ましい在り方と今後の方向性について考えるための交流会			
	総時間	延べ日数	2日	延べ時間	9時間
	必修要件	受講は任意であり必修ではない			
	受講者数	(H18年度) 46人			
登録後研修	講座名	生涯学習ボランティアコーディネートセミナー			
	実施主体	栃木県総合教育センター			
	内容	ボランティアの組織化、ボランティア活動の拡大が図れるよう人間関係の在り方や関係機関との連携、活動の場を開発していけるコーディネーターの資質について学ぶ。 1. ボランティアコーディネーターの役割について等 2. ボランティアコーディネーションにおけるリスクマネジメント等 3. 地域力を高める協働等 4. 未来を拓くボランティア！元気な地域をつくろう（シンポジウム）等 5. コーディネーターの資格を生かしたボランティア講座・研修の立案等			
	総時間	延べ日数	5日	延べ時間	22.5時間
	必修要件	受講は任意であり必修ではない			
		受講者数	(H18年度) 10人		

活動前の事前研修

平成15年度から17年度の3年間については、県内8教育事務所ごとにボランティア初心者の事前研修を行っていた。これはボランティアとしての心構え、学校や公民館等での注意事項等を学ぶもので、学校等の施設見学も含めて、1日2時間、5日間程度の研修を行っていた。

生涯学習を県全体で推進するためには、県と市町村の役割分担と連携も重要であり、研修の面でも当初からの予定で県が3年間初心者研修を行ったが、その後、初心者の事前研修については市町村で実施するよう依頼し、県は登録者のスキルアップ研修を実施している。

活動後の研修

a. 生涯学習ボランティア活動交流会

目的、参加者数

生涯学習ボランティア活動交流会は、ボランティアとして活動している個人や団体の人がボランティア活動の望ましいあり方等を考えるための情報交換の場である。受講は任意であり、平成18年には登録者数380人のうち、46人が受講した。

学習方法

生涯学習活動を実践している著名な講師による話を聞いた後、参加者による話し合いを行っている。日頃の悩みや効果等を話し合うことにより、ボランティア各人が反省したり、励まされたり、スキルアップのために有意義な時間を過ごしている。

なお、研修時間は平成18年までは2日間としていたが、平成19年は1日研修となった。

b. 生涯学習ボランティアコーディネートセミナー

実施目的・参加者数

生涯学習ボランティアコーディネーターセミナーは、ボランティアの組織化やボランティア活動の拡大を図ることができるような人間関係のあり方、関係機関等の協働を促進できるコー

ディネーターの資質について学ぶ。

平成 18 年には 10 人が受講したが、受講者はボランティアグループのリーダー、学校ボランティアコーディネーター、市町村のボランティア担当者等である。

研修プログラム

平成 19 年度の研修プログラムは以下のとおりであり、8 割以上の受講者には修了証を授与している。なお、研修時間は 10:00～15:30 である。

図表3-5 生涯学習ボランティアコーディネートセミナーの内容

回	期日	研修内容	講師
1	6/21	講話「ボランティアコーディネーターの役割」 事例発表「ボランティアコーディネーターの実際」 情報公開「語ろう！生涯学習ボランティア」	大学等職員 専門職員 総合教育センター職員
2	7/9	講話「学びを支える学校支援ボランティアコーディネーター」 演習「人と人をつなげるコミュニケーションを考えよう」 事例発表「ボランティア相談・情報提供の実際」	専門職員 総合教育センター職員
3	7/下旬	講話「地域力を高める協働」 事例発表「ボランティア活動に関する支援」 施設見学「ボランティア活動支援の実際」	大学等職員 専門職員 施設スタッフ
4	8/5	情報交換「みんなで語ろう 生涯学習ボランティア」 講話「生きがいとうるおいに満ちたボランティア講座・研修の立案」	活動実践者 センターボランティア 大学等職員
5	8/30	講話「コーディネーターの視点を生かしたボランティア講座・研修の立案」 演習「元気な地域をつくるために(ボランティア講座・研修プログラムの立案)」	総合教育センター職員

本事例のポイント

本事業では、栃木県総合教育センター内に設置された生涯学習ボランティアセンターと県内 8 教育事務所の生涯学習ボランティアセンターとを一体的に機能させて、ボランティア活動をしたい人や団体とボランティアを受入れたい施設や団体のマッチングを行っている。また、平成 19 年から生涯学習ボランティア活動支援情報提供システム「とちぎかがやきネット」を導入し、登録者についてはボランティア活動をしたい人と受入側が直接接触することができるような仕組みを作っている。

栃木県としての生涯学習ボランティア支援体制は整備されていると考えられるが、よりきめ細かなコーディネートを行うためには市町村との連携や市町村など地域におけるボランティアセンター機能の整備が課題である。

2

学校地域支援ボランティア推進事業

壬生町教育委員会事務局生涯学習課・小中学校

地域
概要

壬生町の人口は平成 17 年(国勢調査)現在 40,107 人で、65 歳以上人口は 18.1%(7,275 人)を占めている。
壬生町では、学校の教育活動、地域の教育活動において、地域の人たちが子ども支援ボランティアとして学校や地域を支援する活動を促進し、学校・家庭・地域社会が一体となって児童・生徒の「心の教育」の推進、「生きる力」の育成を図るため、学校地域支援ボランティア推進事業を行っている。

(1) 事業の概要

本事業は、総合的な学習の時間の導入を契機に、地域の人々がボランティアとして学校支援をすることを旨として開始された。当初は町がボランティアと学校のマッチングをしようとしたが、学校側からの受入要請が少なく、せっかく登録したボランティアが十分に活用されない状況となった。このため、町ではボランティアと学校が話し合うことができる「交流会」を開催するなどして、ボランティアが活用されるような取組を行った。この結果、今日では各学校のほとんどが独自にボランティアの登録バンクを持ち、学校区という小さな単位で学校とボランティアが直接接し、学校でのボランティア活動が活発に行われるようになっている。

制度の名称		学校地域支援ボランティア推進事業									
教育サポーター呼称	子ども支援ボランティア	認定数	663 人								
主体	実施主体	壬生町教育委員会事務局生涯学習課・小中学校									
	実施主体の役割	登録 受付	登録 審査	登録情 報管理	利用 受付	人材 斡旋	活動 把握	研修 開催	相談 受付	その他 (保険)	
	開始年度	平成 12 年									
登録	登録要件	無償で指導や活動ができること									
	登録方法	本人が町教育委員会または各学校に申し出て登録する。									
	有効期限	1 年間	更新条件	本人に更新の意思があること							
活動	派遣先 :実績あり :実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年 教育施設	その他		
	対象と している 活動内容 :実績あり :実績なし	学校の授業・ 部活動での支援		放課後の子ども の活動の指導		社会教育施設の 講座での指導		社会教育施設で の各種団体の 活動の支援		その他	
	登録する 活動分野	スポーツ レクリエーション	芸術 文化	教養 生活	趣味 娯楽	医療 福祉	環境 地域	その他			
		登録申請時の自己申告により決定									
支援	謝金等	【実施主体】保険料の負担のみ 【受入施設】施設からの謝金等の支給はなし									
	傷害保険	壬生町の負担で加入，保険料：定額（260 円）									

「学校地域支援ボランティア推進事業」創設の背景・経緯

平成12年に総合的な学習の時間が始まる時に、町教育長から学校の先生だけでは対応が難しいので、地域の人が学校支援のためにボランティアとして活動できる仕組みが作れないものかという話があり、これがきっかけとなり学校地域支援ボランティア推進事業が始まった。

町が町民に呼びかけてボランティアを募集したところ、現在の登録者数(663名)と変わらない程の多数の応募者があり、登録が行われた。しかし、学校からの受入要請が少なく、折角登録したボランティアが活用されない事態が生じた。

このため、町ではボランティアと各学校の代表者が一堂に会して話し合う「交流会」を設けた。いくつかのグループに分かれて、ボランティアはどんなことができるのか、学校側にはどのようなニーズがあるのかを話し合う場であり、マッチングの場でもある。交流会は町が年に1回主催して、平成13年から16年までの4年間行った。

こうして、今では町内の小中学校10校のほとんどが独自にボランティア人材バンクを持つようになり、ボランティアと学校が直接接してボランティア活動が行われている。このため、当初はボランティアと受入側のコーディネートを行っていた事業主体の町教育委員会は、ボランティア保険の加入手続きを行うこと等が主な業務になっている。登録者数は事業創設当初から横ばいであるが、ボランティアと各学校が直接接することにより、学校で活動しているボランティアの数は確実に増加している。

なお、本事業については、町教育長及び社会教育委員により構成される「学校地域支援ボランティア推進実施委員会」において事業の基本方針が、また町校長会代表や各小中学校の担当教員等で構成する「学校支援ボランティア研究会」において事業の成果と課題等がそれぞれ協議され、町全体でボランティア活動を通じて地域が学校を支援するあり方を検討する体制が整備されている。

子ども支援ボランティアの募集・登録

募集

以前は「子ども支援ボランティア」募集の紙を町内の全戸に配布していたが、現在では各学校が独自に募集するほか、町では広報誌及びホームページに募集要項を掲載している。町の平成19年度の募集要項の概要は以下のとおりである。

図表3-6 壬生町の子ども支援ボランティア募集要項の概要

<p>【募集対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無償で子どもたちを支援して頂ける方 <p>【支援分野】</p> <p>学校の教育活動(町内各小中学校の先生方の要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習字、そろばん、水中昆虫の生態についての話、英語指導、水泳指導補助、木版画指導、図書整理、本の読み聞かせ ・週1回のクラブ指導(卓球、囲碁、将棋)、福祉体験指導(点字、手話、車椅子)、「大杉ばやし」指導補助、昔の遊び ・小動物の世話、いちご作り、農作物栽培補助、農園・花壇の整備 ・校外活動の引率補助、登下校時の安全確保 <p>学校の教育活動以外(放課後や土・日曜日等)の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの遊び相手 ・趣味・特技の伝授 ・体験活動プログラムの立案及び運営 ・子どもたちの体験活動の場の整備等

募集要項を見てボランティアに関心のある人は登録申込書に記入して提出する。なお、登録申込書は町のホームページに掲載するとともに、公民館や生涯学習館に配備している。登録申込書の記載項目は以下のとおりである。

図表3-7 町の子ども支援ボランティア登録申込書の記載項目

個人の属性(団体名、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス) 支援できる場所(活動可能な小中学校、学校以外の場所) 支援内容(支援可能な具体的内容、時間帯、自己紹介等) ボランティア活動保険への加入について
--

登録

以前は町がボランティアの登録情報を管理していたが、今日ではほとんどの学校が独自にボランティア人材バンクを持っているので、町が入手する登録情報はボランティア保険に加入する人の名前程度である。このため、町では全てのボランティアの活動分野等に関する情報は登録していない。

また、各学校の人材バンクに登録するだけでなく、町の名簿にも登録するボランティアもいるが、町の名簿への登録を申請する人は年間 10 人以下であり、ほとんどのボランティアは各学校の人材バンクに登録している。

登録期間は 1 年である。各学校では年度内に来年度のボランティア活動の意思確認をして、確認できた人材の一覧表を町に提出することになっている。これにより、4 月当初にはボランティア保険に加入して、すぐに活動できるようにするためである。

子ども支援ボランティアの情報の提供方法

町の名簿に登録したボランティアの情報は、登録申込書の中で支援できると記載した小中学校やその地域の公民館等の受入施設に対して町から情報を提供して、ボランティアが活動できるように支援している。

子ども支援ボランティアの活動

活動分野

ボランティアの活動分野は、以下のとおりである。一例として、壬生町立睦小学校におけるボランティアの活動内容を示すと以下のとおりである。

図表3-8 睦小学校における子ども支援ボランティアの活動内容

(1) 学校の要望に応える支援 学習活動支援 体験活動支援 環境整備支援 安全支援	(2) 学校の教育活動以外(放課後や土日曜日等)の支援 体験活動支援(クラブ活動支援等) 環境整備支援
---	---

図表3-9 睦小学校におけるボランティアの活動内容

No.	実施月	支援領域	教科領域等	活動内容
1	通年	安全支援		通学路安全確認、児童下校安全支援
2	通年	学習支援		民話語り
3	通年	学習支援		読み聞かせ
4	通年	環境整備		図書館環境整備
5	通年	環境整備		教材園・花壇の整備
6	通年	環境整備		小鳥の世話
7	通年	環境整備		生け花
8	通年	部活支援		合唱指導
9	5月	学習活動	総合	福祉(車椅子、点字、手話)
10	5月	学習活動	音楽科	リコーダー
11	6月	学習活動	家庭科	裁縫
12	6月	学習活動	図工科	工作活動
13	6月	学習活動	理科	環境学習
14	6月	学習活動	社会科	古代の暮らし
15	7月	体験活動	伝統文化体験	礼法等
16	11月	体験活動	伝統文化体験	生け花
17	11月	体験活動	生活科	調理体験
18	1月	体験活動	図工科	5年絵手紙作成
19	1月	学習活動	理科	電気の実験
20	1月	学習活動	特別活動	生命尊重
21	1月	体験活動	生活科	昔の遊び体験
22	2月	学習活動	音楽科	琴と尺八演奏
23	2月	学習活動	理科	環境学習、発電
24	2月	体験活動	図工科	6年絵手紙作成
25	2月	学習活動	算数科	そろばん学習
26	2月	体験活動	生活科	調理体験
27	3月	体験活動	総合	伝統文化体験

資料:睦小学校だより(平成20年2月号)

注:睦小学校で通年活動した人は延べ86人、その他活動した人は延べ82人である。

活動場所

町内の小学校・中学校、公民館などを主な活動場所としている。

活動支援(保険・活動経費等)

ボランティア保険については、他の機会や団体で加入している人を除いて、町が保険料を負担して、加入手続きを行っている。

また、町ではボランティアとの連絡に係る経費、打合せ時の茶菓子等の経費として、会議費を各学校に配分している。

学校地域支援ボランティア推進事業の今後の取組意向

a. 活動上の課題

事業を推進する過程では様々な課題が生ずるが、各学校の担当教員や町教育委員会などで構成する「学校支援ボランティア研究会」で検討を行い、次年度に対応策を講じて課題を解決してきた。この結果、事業が軌道に乗り、ボランティアと学校が話し合う「交流会」が開催されなくなり、研究会が年3回開催から2回開催になるなど簡素化されてきているが、各学校の中心的な存在の教員が異動した場合に、各学校におけるボランティア活動に対する意識が低下していくことが懸念される。このため、中心的に活動している教員だけでなく、学校の教員全体にボランティア活動への認識度を高めていくことが課題である。

b. 今後の方向性

学校の教員の中には他の人に頼むのは面倒であると考えている人もいたが、ボランティアが学校で活動することにより、学校でのボランティア活動の有用性を理解する教員が増えてきている。自分でやった方が早いと考えていた教員でも、ボランティアと知り合うようになり、ボランティア活動をお願いすることが負担にならなくなってきている。また、ボランティアの活躍の場を増やしていくためにも、ボランティア活動を展開していくことが重要である。このため、町としては、今後も地域と学校の関わりを強めていくため、学校支援ボランティア推進事業を推進する意向である。

(2) 子ども支援ボランティアの養成・資質向上について

事業開始当初には、学校で知り得た情報の扱いなどについて研修が必要ではないかという意見もあったが、学校とボランティアの間で個別に話し合いを行うなどして解決してきた。また、当初はボランティアが活動終了後も学校で雑談をするため、学校の職務に影響するといった問題もあったが、ボランティアのモラルも改善されている。このため、ボランティアに対する研修は行っておらず、研修が必要であるという意見も出ていない。

(3) 壬生町立羽生田小学校における子ども支援ボランティアの活動実態

子ども支援ボランティアの受入実績

受入実績

平成 18 年度の羽生田小学校におけるボランティアの受入人数は 24 人で、延べ受入回数は 67 回(通年を除く)である。活動内容は、農園の指導、読み聞かせ、昔の遊び指導等である。

また、平成 19 年度には、放課後に月 1 回通年で「子ども科学クラブ」の指導者としてボランティアを受け入れている。全校児童 30 名のうち、10 名が参加し、放課後 1 時間ほどペットボトルを活用してロケットを飛ばしたり、子どもたちが興味を持つ化学の実験をしたり、星の観察会などを行っている。ボランティアは、60 代の元化学関連の企業経営者であり、元 PTA 会長である。



さらに、平成 19 年度では、総合的な学習の時間で行っている川や用水路の水質調査、生き物調査についてボランティアの支援を受けている。

受入のための打合せ

学校では教務主任がボランティア受入担当を行っている。

例えば読み聞かせについて教務主任から民話の会に学校の希望を伝えてボランティアの派遣を要請すると、民話の会からメニューと派遣内容が FAX で送られてくるので、それに基づいて担当の教員と調整して読み聞かせを実践している。

募集

平成 17 年度にボランティア募集のチラシをつくって学区内の各家庭に配布したことがあるという。これは、高齢者等に学校とのふれあいの機会を創出しようという考えからであった。しかし、この取組で新規の応募者が増えるというような効果は見られなかった。この地域では

登録していなくても、学校が困った時には助けようという気運が高いため、学校として特に子ども支援ボランティアを募集することはないという。特に羽生田小学校は地域密着型の学校なので、こうした地域性を大切に地域と関わっていくことが重要であると考えている。

受け入れる際の課題と対応策

学校に外部から人を招くことは、子どもたちにも教員にも有益である。人材を受け入れる際に学校側が留意することとしては、学校が常に「子どもたちのために」というねらいを持っていることを理解してもらい、その中でボランティアに支援を望む部分を明確にした上で依頼することである。そのねらいを忘れず、ただ単に体験で終わってしまうことにもなりかねない。

子ども支援ボランティアに求められる人材

この地域のボランティアは、50～60代の退職者や農業、自営業の人が多く、教員からは、子どもが喜ぶので若い人を派遣してほしいという声もあるが、平日の昼間にボランティア活動をする若者をこの地域で確保することは困難である。

また、子どもたちも学校の状況も常に変化しており、ボランティアへのニーズも変化する。例えば、今年はスペイン語圏の子どもが入学したため、スペイン語ができ、かつ平日の昼間支援してもらえるボランティアを探すのに苦労したという。

子ども支援ボランティアに対する評価

羽生田小学校は全校児童30人程度の小さな学校なので、普段の学校生活では決まった人と接することが多くなりがちである。地域の人に来て子どもたちと接してくれることは、子どもの成長にとっても大切であるため、子ども支援ボランティアの取組は学校としても意義を感じている。また、教員にとっても、自分の知らないことを学ぶことができるので勉強になるなど、学校側の評価は高い。

子ども支援ボランティアの受入による成果と課題

ボランティアの受入を通じて、子どもたちも楽しく学び、理科などへの関心が高まるとともに、教員も知らないことを学ぶ機会を与えられている。ボランティアも学校での子どもたちとのふれ合いを楽しみにしていて、道で子どもから声をかけられることなどを喜んでいる。3月には学校で「ありがとう集会」を開催するが、その時には子どもたちが農園で収穫した野菜等を調理してけんちん汁を作りボランティアをもてなしている。ボランティア活動を通じて、学校と地域の結びつきが強まり、地域密着型の学校づくりが一層進むことが期待される。

本事例のポイント

本事業は、平成12年の開始当初は、町のボランティア募集に伴い多くの登録者を確保したものの、学校からの受入要請が少ないために、十分な活用が図られなかった。このため、町ではボランティアと学校関係者などが一堂に会して話し合うことができる「交流会」を開催するなど、学校支援ボランティア活動を活用するために工夫、努力した。この結果、今日では町内のほとんどの小中学校が個別にボランティア登録バンクを持ち、学校がボランティアと直接接してボランティアの受入を行うようになり、町は学校やボランティアを支援する立場になっている。

壬生町では学校区単位で学校支援ボランティア事業が展開されており、今後さらに「地域密着型」の事業を進めるためには学校と地域双方のボランティア事業に関する意識を高めていくことが重要である。

3

鎌ケ谷市まなびいネットワーク養成・認定事業

鎌ケ谷市生涯学習推進センター

地域概要	鎌ケ谷市は都心から 25 km圏内にあることから、首都近郊の住宅都市として発展してきた市である。人口は増加傾向にあり、平成 17 年(国勢調査)現在、102,812 人で、65 歳以上人口は 17.2% (17,685 人)を占めている。 鎌ケ谷市では、昭和 50 年度から公民館講座の 100 単位取得を推進する運動(現「さわやかまなびい 100 単位取得事業」)に取り組んでいるほか、県内の大学との連携によりオープンカレッジを毎年開催(企画には市民も参加)するなど、各種生涯学習推進事業を展開しており、市民の生涯学習活動も高まりを見せている。
------	--

(1) 事業の概要

本事業は、公民館等において実施される市民の学習活動を企画の面から支援する人材(まなびいネットワーク)を養成・認定するものである。ネットワークは、「まなびいネットワーク養成講座」の受講・修了を要件として市で認定しており、平成 7 年の事業開始からこれまで 131 名を認定している。また、ネットワークを対象とした事後研修として「ボランティアスキルup講座」を実施し、資質向上を図っている。

これまでに認定されたネットワークは、各公民館で地域住民に関心の高い講座を企画・運営したり、様々な市民団体の相談・橋渡しをするなど、コーディネーターとして幅広く活動している。

制度の名称	鎌ケ谷市まなびいネットワーク養成・認定事業										
教育サポーター呼称	まなびいネットワーク					認定数	131 人				
主体	実施主体	鎌ケ谷市生涯学習推進センター									
	実施主体の役割	登録受付	登録審査	登録情報管理	利用受付	人材斡旋	活動把握	研修開催	相談受付	その他	
	開始年度	平成 7 年(養成・認定は平成 7 ~ 15 年度まで)									
登録	登録要件	「まなびいネットワーク養成講座」を受講・修了。年齢条件(18 歳以上)									
	登録方法	本人の申し出により登録									
	有効期限	無期限	更新条件	-							
活動	派遣先 :実績あり :実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年教育施設	その他		
	対象としている 活動内容 :実績あり :実績なし	学校の授業・部活動での支援		放課後の子どもの活動の指導		社会教育施設の講座での指導		社会教育施設での各種団体の活動の支援		その他	
	登録する活動分野	スポーツレクリエーション	芸術文化	教養生活	趣味娯楽	医療福祉	環境地域	その他			
	活動分野は登録申請時の自己申告により決定										
支援	謝金等	【実施主体】保険料の負担のみ									
	ボランティア保険	鎌ケ谷市の負担で加入、保険料:定額(300 円)									

「鎌ヶ谷市まなびいネットワーク養成・認定事業」創設の背景

鎌ヶ谷市では生涯学習の推進を図るため、昭和 50 年度から公民館講座の 100 単位取得を推進する運動（現「さわやかまなびい 100 単位取得事業」）を開始していたことから、各種講座に対する市民の受講も増えており、生涯学習活動に対する気運が高まりをみせていた。

そうした中、生涯学習は教育委員会だけのものではなく、広く市民全体で取り組むべきものとの考えから、平成 6 年度からボランティアの養成講座を始めた。当初は、川村学園女子大学（千葉県我孫子市）との共催事業として講師の派遣を受け、社会教育施設での事業の企画・運営などに関わる地域リーダーの育成を行った。

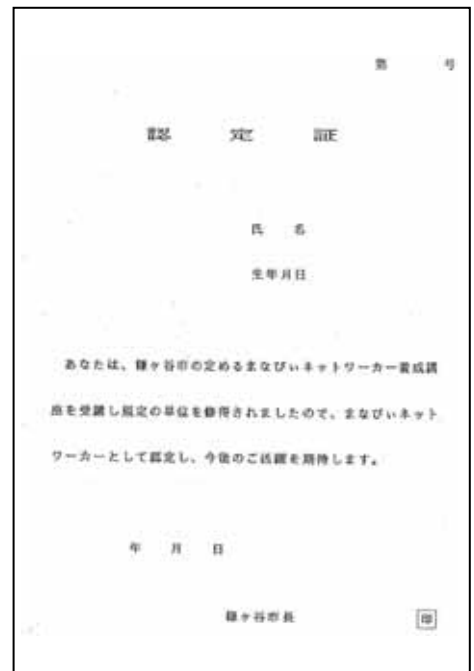
平成 7 年度には、『まなびいネットワークの認定及び活動に関する要綱（以下、「要綱」という。）』を定め、生涯学習社会の実現を目指し、鎌ヶ谷市のまちづくりに資するため、市内各地域や公共施設等において実施される市民の様々な活動を援助する『まなびいネットワーク（以下、「ネットワーク」という。）』として認定する事業を開始した。

まなびいネットワークの募集・登録

ネットワークの認定には、地域レベルでの市民の学習活動援助や団体活動の充実を図るため地域リーダーとして活動する人材の養成を目指した「まなびいネットワーク養成講座」の受講を要件としており、平成 7～15 年度まで計 131 人を養成し市長が認定している。ただし、ネットワークの活動が現在は、ほぼ固定化されていることから、平成 16 年度以降は、新規養成は行っていない。

ネットワークの認定を受けようとする場合は、まなびいネットワーク養成講座の単位修得を示した「まなびいネットワーク認定申請書」を市長に提出する必要があるが、申請時において 18 歳以上でなければならない。

申請に基づき、認定された者は、市長から認定証が交付されるとともに、「まなびいネットワーク登録者名簿」に記載される。



まなびいネットワークの情報の提供方法

「まなびいネットワーク登録者名簿」に含まれるネットワークの登録者情報は「認定年月日・氏名・性別・生年月日・住所・電話番号」であり、当名簿は関係各課や主要公共施設等に設置されている。また、ネットワーク同士も登録者情報を共有している。

教育委員会（生涯学習推進センター及び各公民館）では、これらの情報のほか、活動分野や指導できる内容などの情報も登録時に収集・把握している。

一方、市教育委員会が運営する『かまがやまなびいネット 生涯学習情報システム』では、まなびいネットワークに限らず広く講師ができる市民情報を紹介している（提供情報項目は、氏名・性別・経歴・資格等・主な指導内容・指導可能分野・指導実績・条件・希望曜日/時間・活動地域・費用・申込方法・所属団体等・書籍/論文）。

まなびいネットワーカーの活動

a. ネットワーカーの活動範囲・内容

活動分野

ネットワーカーの活動分野は要綱(第3条)に定められた以下の6つの活動から自己に適した活動を行うこととされている。

- 1) 市が実施する講座・イベント等の企画、運営及び学習相談に関すること
- 2) 生涯学習の啓発に関すること
- 3) 学習情報の収集及び提供に関すること
- 4) 生涯学習活動の援助に関すること
- 5) 団体が実施する生涯学習関連事業の企画運営に対する助言に関すること
- 6) 団体活動の活性化にかかわる助言に関すること

活動場所

ネットワーカーの活動場所は基本的には社会教育施設であり、中心的な活動場所となるのは市内5つの公民館である。各ネットワーカーは居住地に近い公民館で活動しているが、公民館毎に登録する訳ではなく、事業内容によっては他地域の公民館での活動へも積極的に参加している。また、図書館での活動もみられる。

なお、ネットワーカーの中には、生涯学習に限らず、福祉や環境など様々な分野で団体等に所属して活動しているため、首長部局の関係各課とも関わりを持って活動している人も見られる。

公民館での活動

これまでに131名が認定されているが、現在中心的に活動しているのは52名(各館6~13名)である。ネットワーカーのほとんどが60歳以上、平均年齢は70歳代で80歳代も数名いるなど、高齢化が進んでいる。

各ネットワーカーは、公民館の自主事業(講座等)の企画に参画したり、市民がサークルを作るときの支援、公民館ふれあいまつりの際の各団体間の調整などを主な活動としている。そのため、ネットワーカー自身が、講座等の講師として活動することはほとんどない。

ネットワーカーが公民館の企画に参加する際には、公民館から企画委員としてネットワーカーに声かけを行っている。例えば中央公民館が平成19年度に実施した市民セミナー「健康講座」では、講座のテーマ・内容やプログラム案の検討から実際の講座の運営(会場設営、受付、講師紹介など)までをネットワーカー(8名)に委ねて実施された。ただし、講師の依頼・交渉については公民館が行っている。

講座の広報は、市の広報誌やチラシ等で行っているほか、ネットワーカー自身が広報活動(学校の祭りでチラシを配るなど)を行う場合もある。

活動に際して必要となる情報は、ネットワーカーの日常的な公民館への来訪や、講座後の反省会等の中で共有化を図っている。また、行政としてはネットワーカーが一堂に会する機会は特に設けていないものの、ネットワーカー同士では交流が見られ、さらに様々な団体に参加して活動しているネットワーカーも多く、それぞれの活動で得た地域の情報を相互に共有している。

活動の評価

公民館での各講座では必ず受講者にアンケート調査を行っており、その結果も含めて講座終了後に公民館職員とネットワーカーが会議をもち、事業評価（ネットワーカー自身の反省点、カリキュラムの内容等について）を行っている。

活動支援（保険・活動経費等）

ネットワーカーに対しては、市が負担してボランティア保険（300 円/1人）に加入しているが、活動は無報酬である。企画講座の運営時においても交通費や食事代などの経費は自己負担となっているものの、ネットワーカー自身の責任感や活動への意欲が高いことから、これまでネットワーカーから活動経費への支援に対する要望はない。

b. ネットワーカーの活動の推進

認定後間もないネットワーカーは、当初は公民館の講座に参加したり、サークル活動に参加して経験を積む中で、公民館との関係を深めている。一方、公民館においても、ネットワーカーが公民館活動に参加できるように公民館事業を計画するよう配慮している。

また、生涯学習推進センターでは、ネットワーカーの活動のきっかけづくりとして、市内の新規転入者等がグループ活動を始める際の相談役としてネットワーカーの参加を募り、生涯学習センターの職員とともに、グループ結成や紹介を行った。

図表3-10 各学習センター（公民館）におけるまなびいネットワーカー企画事業

年度	中央公民館(12名)	北部公民館(6名)	南部公民館(13名)	東初富公民館(13名)	東部学習センター(10名)
19年度	健康講座(6回)	少年エコクッキング 北部劇場「親子ふれあい人形劇」	ファミリーマジックショー 新春初笑い寄席 市民講演会「山で遭難しない方法」 「一日だけのミニ移動動物園」	いきいき倶楽部(全11回)	市民セミナー 「環境・防災そして健康」(全4回) 市民セミナー 「歴史講座 郷土史を学ぶ」(全4回) いきいきライフ教室
18年度		流しそうめん クリスマスふれあいコンサート 北部劇場「日本と中国の四季名曲コンサート」	さわやかファミリーコンサート 食べもの日本の常識、世界の常識 新春初笑い寄席 「一日だけのミニ移動動物園」	いきいき倶楽部(全11回)	市民セミナー 「からだところの健康ライフ」(全4回) 市民セミナー 「歴史講座 郷土史を学ぶ」(全4回)
17年度		北部劇場「親子ふれあい人形劇」 クリスマスふれあいコンサート 自然とふれあい隊	「備えあれば憂いなし 巨大地震に対する心得と備え」 「新春落語会」 「一日だけのミニ移動動物園」	いきいき倶楽部(全11回)	市民セミナー 健康講座2005(全4回) 市民セミナー 「歴史講座」(全4回) いきいきライフ教室
16年度		北部劇場「日本と中国の四季名曲コンサート」 北部歴史講座「和楽器のルーツを探る」(全2回) 親子DE楽しむ木工(1回)	「子供たちと模型を作り遊ぶ」 「みんなでクッキーを作ろう」 「安心安全に食べられる食品の話」 「一日だけのミニ移動動物園」	いきいき倶楽部(全11回)	市民セミナー 「暮らしの講座」(全4回) 市民セミナー 「歴史講座」(全4回)
15年度		親子チャレンジスクール(全5回)	「一日だけのミニ移動動物園」	学校へ行こうよ(全3回) 地域と学校を考える バス見学会	市民セミナー 「歴史講座」(全4回) 市民セミナー 「みんなの健康講座」(全4回)
14年度		親子チャレンジスクール(全5回)		学校へ行こうよ(全4回) 子どもの成長を楽しもう(全4回)	
13年度		鎌ヶ谷の歴史(全6回)		学校へ行こう(全3回)	
12年度		パソコン1日体験講座(全3回)			

中央公民館は、公民館まつり、公民館主催事業等で活動

()内は、ネットワーカーの人数

まなびいネットワーク認定事業の今後の取組意向

a. 活動上の課題

ネットワークは、市長から認定されたことが活動の強い動機づけとなり、無報酬での活動にもかかわらず積極的に参加している人が多い。一方、「自分は市長に認定されたボランティアであり他のボランティアとは違う」との自負が強い人もおり、多くの市民への活動の広がりという点からは問題となりつつある。

ネットワークの中には「さわやかまなびい 100 単位取得事業」による 100 単位の取得を目的として養成講座を受講した人もおり、認定されてもネットワークの活動に積極的に関わっていない人もみられる。

b. 今後の方向性

元々ネットワークは社会教育事業の企画・運営への市民の参画を企図したものであったが、実際に認定後どのような組織体系でネットワークの参加する事業を実施するかまでは十分に検討されていなかった。そのため、これまでのネットワークの活動は公民館事業への個人の参加が主体であった。

今後の公民館活動のあり方としては、主催事業へのネットワークの参加だけではなく、市民の自主講座や生活課題に対する講座の開催等をネットワーク自身が自主運営することも重要となっている。そのためには、ネットワークの組織化が必要であるものの、ネットワークは認定者という立場から、新しい組織体制に踏み出すことに対して難しい意識を持つ人もいる。

そのため、平成 20 年度からは「まなびいネットワーク認定事業」の見直しを図り、登録者の再編成等を行う予定となっている。

具体的には、ネットワークにボランティアの育成に関わる講座の企画から講師までを全て任せるとすることによって組織化を図り、さらに、現在活動しているネットワークの経験を新しいボランティアに伝承し、新たなネットワークとして活躍してもらえようという人材育成の循環システムを構築できないかと検討が進められているところである。

(2) まなびいネットワークの養成・資質向上について

登録前 研修	講座名	まなびいネットワーク養成講座			
	実施主体	鎌ヶ谷市生涯学習推進センター			
	内容	地域レベルでの市民の学習活動援助や団体活動の充実を図るため地域リーダーとしての生涯学習指導者の養成を目的として実施する			
	総時間	延べ日数	20 日	延べ時間	40 時間
	必修要件	受講・修了は「まなびいネットワーク」の登録要件である			
	受講者数	(H19 年度)		平成 16 年以降未実施	
登録後 研修	講座名	ボランティアスキルUP講座			
	実施主体	鎌ヶ谷市生涯学習推進センター			
	内容	活動実践者を対象にボランティア活動における知識の再認識を深めることにより、さらにボランティア活動の意欲向上を図る機会とする			
	総時間	延べ日数	4 日	延べ時間	9 時間
	必修要件	受講は任意であり必修ではない			
	受講者数	(H19 年度)		44 人	

登録要件となっている「まなびいネットワークー養成講座」

a. 研修の実施概要

カリキュラム・規定単位数

「まなびいネットワークー養成講座(以下「養成講座」という。)」は5ステージに分かれており、ステージ毎に4講座(4単位)で構成されている。1講座は2時間であり、受講者は、計20講座(20単位、40時間)の規定単位数を3年間のうちに修得する必要がある。

ただし、養成講座は1年間を通して各ステージ順に開催されるため、実際には3年間かけて修了する人は少なく、1年間で全て受講・修了した人が多い。

平成15年の養成講座は「鎌ヶ谷市の理解」「生涯学習の理解」「団体活動とまちづくり」「ネットワークづくり」「ネットワークーの役割」の5ステージのカリキュラムで実施された。

開催場所・日程

各養成講座とも受講者が参加しやすい体制として、生涯学習推進センター(まなびいプラザ)にて、土曜日開催、受講料は無料とした。

学習方法

養成講座は講義形式のほか、学習テーマによって演習やグループ討議なども含まれている。「かまがやウォッチング」ではグループ討議、「話し合いの進め方」「事業の企画と運営」では演習、「ネットワークー活動体験」では実習が実施されている。

講師

講師は「鎌ヶ谷市の理解」などの市の現状に関わる学習テーマは市職員が行ったが、このほか学習テーマは主に、川村学園女子大学から講師の派遣を受け実施した。

b. カリキュラム設定

養成講座で設定されている講座数の20講座は、ネットワークーの養成に必要な内容を積み上げていった結果、導き出された講座数である。養成講座のメニュー(規定単位数)は主に教育委員会で検討しつつも、川村学園女子大学から様々なアドバイスを受け毎年更新していった。

図表3-11 平成15年「まなびいネットワークー養成講座」カリキュラム・規定単位数

学習ステージ	単位	学習テーマ	学習方法
1 鎌ヶ谷市の理解	4	鎌ヶ谷市の現状 かまがやウォッチング1 かまがやウォッチング2 かまがやウォッチング3	講義 地域発見 グループ討議 体験発表とまとめ
2 生涯学習の理解	4	鎌ヶ谷市の生涯学習 高齢化社会と生きがい 生涯学習における社会的課題 生涯学習とボランティア	講義 講義 講義 講義
3 団体活動とまちづくり	4	グループリーダーの役割 団体活動と社会参加 話し合いの進め方1・2	講義 講義 講義・演習
4 ネットワークづくり	4	情報化社会と生涯学習 事業の企画と運営1 事業の企画と運営2・3	講義 講義 講義・演習
5 ネットワークーの役割	4	人間発見の楽しさ ネットワークーの役割 ネットワークー活動体験 豊かな人生を送るために	講義 講義 実習 講義
		合計規定単位 20単位	

(備考)学習テーマ毎に1回の出席で1単位修得とする。ただし、学習テーマの内一つのセットととらえられる「かまがやウォッチング1・2・3」「話し合いの進め方1・2」「事業の企画と運営1・2・3」については、それぞれ連続して受講した場合のみ単位取得と認められる。

図表3-12 「まなびいネットワークー養成講座」カリキュラム

回	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
1	「鎌ヶ谷市の生涯学習」 (鎌ヶ谷市の生涯学習の現状と課題・展望)	鎌ヶ谷市政の現状 (市の現状と将来像をテーマに)	鎌ヶ谷市の生涯学習とネットワークーの役割 鎌ヶ谷市の生涯学習の現状とネットワークーに期待するもの	「鎌ヶ谷市の生涯学習」 (鎌ヶ谷市の生涯学習の現状)
2	かがやウォッチング1 (人生と教育・地域と生活)	かがやウォッチング1 (人生と教育・地域と生活)	鎌ヶ谷市政の現状 (市の現状と将来像をテーマに)	鎌ヶ谷市政の現状(鎌ヶ谷市レイクホーテラ) (市の現状と将来像をテーマに)
3	かがやウォッチング2 (地域に出て鎌ヶ谷らしさの発見)	かがやウォッチング2 (グループ毎に鎌ヶ谷ウォッチング)	かがやウォッチング1 (人生と教育・地域と生活)	かがやウォッチング1 (人生と教育・地域と生活)
4	鎌ヶ谷市政の現状 (市の現状と将来像をテーマに)	かがやウォッチング3 (グループ毎にウォッチング体験発表)	かがやウォッチング2 (グループ毎に鎌ヶ谷ウォッチング)	かがやウォッチング2 (グループ毎に鎌ヶ谷ウォッチング)
5	事業の企画と運営1 (団体における事業の企画・立案・運営)	「鎌ヶ谷市の生涯学習」 (鎌ヶ谷市の生涯学習の現状と課題・展望)	かがやウォッチング3 (グループ毎にウォッチング体験発表)	かがやウォッチング3 (グループ毎にウォッチング体験発表)
6	かがやウォッチング3 (グループ毎にウォッチング体験発表)	集団の合意づくりと意志決定	生涯学習における社会的課題 (現代的課題を中心に)	生涯学習における社会的課題 (現代的課題を中心に)
7	事業の企画と運営2 (イベントの企画・立案・運営)	生涯学習とボランティア (ボランティアは生涯学習、自己実現として)	高齢化社会と生きがい (ライフスタイルの確立・生涯各期の学習課題)	高齢化社会と生きがい (ライフスタイルの確立・生涯各期の学習課題)
8	事業の企画と運営3 (学習プログラムの作り方)	団体活動と社会参加 (団体活動の必要性や利点、社会還元など)	生涯学習とボランティア (ボランティアは生涯学習、自己実現として)	生涯学習とボランティア (ボランティアは生涯学習、自己実現として)
9	グループリーダーとしての役割 リーダーとしての任務と役割	グループリーダーとしての役割 リーダーとしての任務と役割	生涯学習とボランティア (ボランティアは生涯学習、自己実現として)	団体活動と社会参加 (団体活動の必要性や利点、社会還元など)
10	団体活動と社会参加 (団体活動の必要性や利点、社会還元など)	生涯学習の意義と社会的問題 (現代的課題を中心に)	団体活動と社会参加 (団体活動の必要性や利点、社会還元など)	グループリーダーとしての役割 リーダーとしての任務と役割
11	生涯学習とボランティア (ボランティアは生涯学習、自己実現として)	生涯学習における社会的課題 (現代的課題を中心に)	グループリーダーとしての役割 リーダーとしての任務と役割	「情報化社会と生涯学習」 (情報の整理法を含め情報の活用方法)
12	異文化コミュニケーション (国際化社会をむかえて)	人間発見の楽しさ (自己理解・他者理解、よりよい人間関係)	話し合いの進め方1 (司会・話し方)	話し合いの進め方1 (司会・話し方)
13	人間発見の楽しさ (自己理解・他者理解、よりよい人間関係)	「情報化社会と生涯学習」 (情報の整理法を含め情報の活用方法)	話し合いの進め方2 (集団の合意づくりと意志決定)	話し合いの進め方2 (集団の合意づくりと意志決定)
14	高齢化社会と生きがい (ライフスタイルの確立・生涯各期の学習課題)	事業の企画と運営1 (団体における事業の企画・立案・運営)	「情報化社会と生涯学習」 (情報の整理法を含め情報の活用方法)	事業の企画と運営1 (団体における事業の企画・立案・運営)
15	ネットワークー活動体験 (公民館等において事業の企画・立案の実習)	事業の企画と運営2 (イベントの企画・立案・学習プログラムの作り方)	事業の企画と運営1 (団体における事業の企画・立案・運営)	事業の企画と運営2 (イベントの企画・立案・学習プログラムの作り方)
16	集団の合意づくりと意志決定	事業の企画と運営3 (生涯学習事業の実際)	事業の企画と運営2 (イベントの企画・立案・学習プログラムの作り方)	事業の企画と運営3 (生涯学習事業の実際)
17	ネットワークーの役割 (ネットワークーとしての活動の具体例)	ネットワークーの役割 (ネットワークーに期待するもの)	事業の企画と運営3 (生涯学習事業の実際)	ネットワークーの役割 (ネットワークーに期待するもの)
18	「情報化社会と生涯学習」 (情報の整理法を含め情報の活用方法)	異文化コミュニケーション (国際化社会をむかえて)	ネットワークー活動体験 (公民館等での活動体験発表)	ネットワークー活動体験 (公民館等での活動体験発表)
19	生涯学習における社会的課題 (現代的課題を中心に)	ネットワークー活動体験 (公民館等での活動体験発表)	人間発見の楽しさ (自己理解・他者理解、よりよい人間関係)	人間発見の楽しさ (自己理解・他者理解、よりよい人間関係)
20	豊かな人生を送るために (地域推進者ネットワークーに期待を込めて)	豊かな人生を送るために (地域推進者ネットワークーに期待を込めて)	豊かな人生を送るために (地域推進者ネットワークーに期待を込めて)	豊かな人生を送るために (地域推進者ネットワークーに期待を込めて)

登録後のスキルアップ講座「ボランティアスキル up 講座」

a . 研修の実施概要

実施目的・参加者数

平成 16 年度以降、新規のネットワークーの養成は行ってないものの、既に認定されたネットワークーを対象に、ボランティア活動における知識の再認識を深め意欲向上を図る機会として「ボランティアスキル up 講座～見つけよう新しいボランティア活動(以下「スキル up 講座」という。)」を毎年実施している。

ネットワークー全員に文書で講座の案内を送り参加を呼びかけており、現在活動中のネットワークー40～50人程度が受講している。

開催場所・日程

スキル up 講座は、生涯学習推進センター(まなびいプラザ)にて、毎年10月～12月にかけて計4回、集中的に実施される。1回あたり2～3時間の講座であり、受講は任意である。



学習方法

平成 19 年のスキル up 講座では、講義形式のほか、グループ討議が行われている。グループ討議を行った講座では、「ふりかえり」として、「自分の意見を述べるのができたか」「他人の意見を素直に聴けたか」「人を理解することについての思い」等についてアンケート調査を行っている。

講師

平成 19 年の講師は、川村学園女子大学の斉藤哲瑯教授及び NPO 法人あだち学習支援ボランティア「楽学の会」が行った。

b. 研修の評価

講座に対する感想・意見の把握

第 4 回目のスキル up 講座の最後に、受講者にアンケート調査を実施し、「講座内容のわかりやすさ」、「講師の満足度」、「今後のボランティア活動への有用度」、「今後実施してほしい講習」に対する感想や意見を把握している。

平成 19 年度講座への評価

近年、「ネットワーカーの組織化」が課題となっていたため、平成 19 年度は組織化を促す目的で、団体でのボランティア活動の意義などに関するスキル up 講座を開催したが、実際に受講したネットワーカーからはもっと高次の活動をしたいとの要望も聞かれている。

図表3-13 平成 19 年「ボランティアスキル up 講座」カリキュラム

日程	学習テーマ	学習方法	講師
11/29 (木)	ボランティアのあるべき姿 - ボランティアの現状と課題 -	講義	川村学園女子大学 斉藤哲瑯教授
12/6 (木)	ボランティア活動と人間関係 - 新たな発見、個人と集団の違い -	グループ討議	川村学園女子大学 斉藤哲瑯教授
12/13 (木)	魅力ある活動を目指して - グループ活動の楽しさ -	講義	NPO「楽学の会」
12/20 (木)	期待されるボランティア像 - 新しいボランティア活動へのチャレンジ -	グループ討議	川村学園女子大学 斉藤哲瑯教授

本事例のポイント

本事例は、直接的に講師や指導者となる教育サポーターの育成・派遣ではなく、むしろ市民の生涯学習ニーズと公民館事業とのマッチングを図るコーディネーター（まなびいネットワーカー）を養成・認定しているものである。20 単位、40 時間の講座を修了することを認定の条件とするとともに、認定後も毎年スキル up 講座を開催し、ネットワーカーの資質の確保と向上を図っている点が特徴的である。適格な人材を育成・確保するために養成講座は複数年かけて単位を取得することが可能となっており、さらに市長による認定制度も活動の強い動機づけとして働いて、無報酬ながら様々な事業の企画・運営に積極的に参画するなど、具体的な成果に結びついている。

一方、認定されたネットワーカーの高齢化や固定化などに伴い、他のボランティアとの連携や活動の広がりなどの面で様々な問題も見え始めていることから、今後は事業の企画・運営だけでなく講師もネットワーカーが務めたり、あるいは新たな人材の参加を促進しネットワーカーの裾野を広げるなど、制度の全体的な見直しが課題となっている。

4

教育活動サポーター配置事業

川崎市総合教育センター カリキュラムセンター

地域
概要

川崎市の人口は平成 17 年(国勢調査)現在 1,327,011 人で、65 歳以上人口は 14.6%(194,176 人)を占める。川崎市では平成 14 年度に策定された「川崎市行財政改革プラン」や新たな総合計画との整合を図るため、平成 16 年度に「かわさき教育プラン」を策定して全ての市民が様々な分野でいきいきと学びあうことができる学習社会の実現を目指している。

(1) 事業の概要

本事業は、小中学生に対する補充的学習等学力向上支援やその他学習活動支援、外国人生徒に対する日本語指導を行うため「教育支援サポーター」を配置するものである。(この事業では、発足当初、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒に対して支援も行っていたが、平成 19 年度よりこの部分については「特別支援教育サポーター」として別途配置する事業化をしている。)

本事業の特徴は、第一に教員を目指している大学生等をサポーターとして派遣していることであり、第二に事業を川崎市の教職員 OB 等でつくる「NPO 法人教育活動総合サポートセンター」に委託していることである。

制度の名称		教育活動サポーター配置事業										
教育サポーター呼称		教育活動サポーター					認定数	102 人				
主体	実施主体	川崎市総合教育センター カリキュラムセンター										
	実施主体の役割	登録 受付	登録 審査	登録情 報管理	利用 受付	人材 斡旋	活動 把握	研修 開催	相談 受付	その他 (保険)		
	開始年度	平成 16 年										
登録	登録要件	川崎市立の小中学校で学級担任の補助として児童生徒への学習支援や個別指導にあたる意思がある人										
	登録方法	NPO 法人教育活動総合サポートセンターの面談の結果、適性があると判断された後に登録										
	有効期限	1 年間	更新条件	本人に更新の意思があること								
活動	派遣先 :実績あり :実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年 教育施設	その他			
	対象と している 活動内容 :実績あり :実績なし	学校の授業・ 部活動での支援		放課後の子ども の活動の指導		社会教育施設の 講座での指導		社会教育施設で の各種団体の 活動の支援		その他		
	登録する 活動分野	小中学校での学習支援のみ										
支援	謝金等	【実施主体】謝金：定額 3,000 円(交通費を含む) 【受入施設】受入施設からの支給はなし										
	傷害保険	自己負担で任意加入(500 円)										

「教育活動サポーター配置事業」創設の背景

川崎市の小学校では、担任一人だけでは個別指導が必要な子どもや発達障害のある子ども、問題行動が目立つ子ども等への対応が困難で、学習活動の面で学級担任をサポートする人材の確保などが大きな課題となっていた。しかし、行財政改革により市の職員定数も削減の方向に向かうなどしており、新たに学級担任の補助の人材を確保することは財政上難しい状況にあった。

こうした中で、川崎市の公立学校で退職した教職員が平成16年に「NPO法人教育活動総合サポートセンター（以下、「NPO法人」という）」を設立した。これは、家庭や地域、学校に居場所が得られずに不登校、非行などの不適應を起こしている子どもたちがいる一方で、学校現場は多くの問題を抱えて不適應の子どもたちに十分に対応できずにいる現状を考え、これまで川崎市の学校でお世話になった恩返しとして、不適應を起こしている子どもたちへの指導・援助を行うために設立されたものであった。

川崎市では、NPO法人が市内の学校の状況に精通し、人材も豊富であることなどから、子どもたちの学習支援にも協力してもらうことを依頼して、学級担任の補助人材の派遣を委託することとした。事業は平成16年10月に発足し、小学校にNPO法人から教育活動サポーター（以下、「サポーター」という）を派遣することとなった。

教育活動サポーターの募集・登録

募集

川崎市では毎年4月末に開催する合同校長会議でサポーターの募集について小中学校に対して案内を行い、サポーターによる支援を受けたい学校は具体的な支援の内容、支援の回数、支援時期等を記載してNPO法人に配置事業申込書を提出する。NPO法人は3月に新規の人材募集を行う。募集方法は、将来教員になることを目指している学生等を対象として神奈川県、東京都、千葉県、埼玉県の大学に募集用紙を配布して掲示してもらうとともに、NPO法人のホームページでも募集を行っている。また、NPO法人のメンバー10数人が講師として大学で教えているため、これら大学でも学生に応募への働きかけを行っている。

登録

サポーターとしての活動を希望する人は申請書をNPO法人に提出するとともに、川崎市内にあるNPO法人に出向いて面談を受けて、適性等がチェックされる。サポーターとしての活動を希望する人の中には、将来学校の先生ではなく、福祉関連の特別支援のための心理士等を目指している人もいるため、面談の時に将来の意向等が確認される。こうして、適性があると判断された人にはNPO法人から委嘱状が授与される。

登録者は102名（男38名、女64名）であり、このうち30代以下が82名を占めている。

なお、申請書の記載内容は下記のとおり比較的簡素なものであるが、これはあまり細かくすると応募者が限定される懸念があるためであり、適性等は上述のとおり面談で判断している。

図表3-14 教育活動サポーターの申請書の主な記載項目

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 氏名、住所、性別、生年月日、電話場号、写真貼付 ・ 学歴、職歴 ・ 勤務できる曜日、時間帯、希望する地域 |
|--|

教育活動サポーターの派遣

サポーターとしてNPO法人に登録された人は、サポーターの派遣を希望する学校の校長による面談を受け、校長の同意が得られた場合に、派遣先の学校が決定し、NPO法人が主催する事前研修会でサポーターとしての心構え、児童生徒への接し方、学校運営の概要、その他学習支援に当たっての留意点等を学び、学校への派遣が決まる。

NPO法人では派遣を希望する学校とサポーターの適性等を判断して派遣先を決めるようにしている。サポーターが各学校に派遣されるのは5月中旬頃から年度末までの約1年間である。

教育活動サポーターの活動

活動分野

サポーターには「教育支援」と「特別支援」としての2つのパターンがある。「教育支援」は小中学生の学力向上や日本語指導に向け、学級担任の補助として活動する。また、「特別支援」は通常の学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等の特別な教育的ニーズのある児童生徒に対して、個別のニーズに応じて週に数時間、学級内及び学級外において個別的な学習や社会性の育成などの支援を行う。（平成19年度より「特別支援」は別に事業化した。）

活動場所

サポーターの活動場所は川崎市立の小・中学校である。平成19年度の場合（平成20年2月現在）小学校については市内114校のうち県事業の対象となっている学校を除く98校に派遣され、中学校については日本語指導のため市内51校のうち6校に派遣されている。

活動

「教育支援サポーター」及び「特別支援教育サポーター」の支援内容は以下のとおりである。また、教育活動サポーター配置事業は平成16年10月から始まり、下記のとおり実績を伸ばしてきている。

サポーターは毎日指導援助した内容や感想、反省、他の先生から指導を受けたこと等を活動報告用紙に記入して、校長からの感想記入・検印を受けた後、活動報告を出勤簿とともに毎月NPO法人に提出することになっている。

なお、各学校では、サポーターが将来教員として同じ教壇に立つ人材であるとの意識に基づいて、指導に協力的であると言われている。

図表3-15 「教育支援サポーター」及び「特別支援教育サポーター」の支援内容

教育支援サポーター	・学級担任の補助として授業中の学習支援 ・教育相談	・不登校等の適応指導支援 ・日本語指導
特別支援教育サポーター	・通常の学級内で、担任の補助として支援 ・特別支援教育コーディネーターの指導助言に基づく支援 ・その他教育活動支援	

図表3-16 教育活動配置事業の実績の推移

	小学校		中学校	
	派遣学校数	派遣サポーター数	派遣学校数	派遣サポーター数
平成16年度	31	34	-	-
平成17年度	58	66	4	1
平成18年度	67	73	4	4
平成19年度	85	178	15	20

活動の評価

派遣された学校長からは、問題行動を起こす児童をサポートが個別に指導・援助してくれるので、学級担任が授業に集中できるようになり学級全体が落ち着いてきたとか、学級担任一人では無理な面をサポートに補助してもらい感謝しているなどの意見がNPO法人に寄せられている。

また、児童生徒もサポーターの来る日を楽しみにしており、学習だけではなく、遊びを通して楽しく学校生活を送ることができるようになったと言われている。

さらに、サポーターは概ね一年間学級担任の補助を行うことにより、教員に向けての学びを学校現場で実践的に行うことができるため、教員を目指す学生等にとっては貴重な場となっている。特に通信制の学生にとっては、教育実習の受け入れ先となる学校が見つけないという事情もあるため、サポーターとして学校現場とつながることができるメリットは大きいと言われている。



活動支援（保険・活動経費等）

サポーターに支払われる手当は1日4時間で交通費を含めて3,000円である。また、希望者は500円で保険に加入することができる。

教育活動サポーター配置事業の今後の取組意向

a. 活動上の課題

現状では川崎市が市内の小中学校に対して教育活動サポーター配置事業の説明を行うのが、毎年4月末に開催される合同校長会議である。その後、NPO法人が神奈川県、東京都、千葉県、埼玉県の大学にサポーターの募集を行い、各小中学校にサポーターを派遣するのが5月中旬頃になっている。しかし、学校では4月当初からのサポーター派遣を希望しており、人材発掘の面からは大学生が大学に履修届を提出する4月下旬前に募集を行うことが有利である。このため、事務手続き等を前倒しして、4月当初からサポーターの派遣をすることができるようにすることが求められている。

また、せっかく川崎市でサポーターの人材養成をしても、教員として川崎市に残らず、東京や横浜など他都市の教員となる場合もあるため、関係者からは川崎市の教員への就職率の向上を望む声も聞かれる。

b. 今後の方向性

教育活動サポーター配置事業は、学校にとっても、児童生徒にとっても、将来教員を目指す学生等のサポーターにとってもメリットがある事業であり、川崎市の学力向上、教育力の向上等に役立っていることから、川崎市では平成20年度には予算上小学114校、中学校52校の合計166校を対象に教育活動サポーター配置事業を展開する予定である。

(2) 教育活動サポーターの養成・資質向上について

登録後 研修	講座名	教育活動サポーター基礎研修			
	実施主体	事業委託先である NPO 法人			
	内容	教育活動サポーターとしての心構え、児童・生徒への接し方、学校運営の概要、その他学習支援に当たっての留意点			
	総時間	延べ日数	5 日	延べ時間	25 時間
	必修要件	受講は任意であり必修ではない			
	受講者数	(H18 年度)	39 人		

登録後（活動前）研修の内容について

a. スキルアップ講座「教育活動サポーター基礎研修」

開催場所・日程

事業を委託している NPO 法人では、サポーター派遣対象者に対する事前研修及び活動後のスキルアップ等を目的として、1年に5回程度研修会を実施している。実施場所は川崎市教育会館、川崎市総合教育センターである。

学習方法

第1回目の研究会は派遣前の事前研修会として位置づけられ、以下の研修内容について講義・演習形式で研修が行われている。

また、第2回目以降の研修会については、サポーターの質の向上を図るための研修であり、事前に先生との連携で感じたこと、担当の児童生徒の成長の様子、サポーター活動で工夫、努力したこと等をアンケート用紙に記入してNPO法人に提出した上で、研修当日はグループ毎に川崎市総合教育センター指導主事の指導助言のもとに話し合いを行い、最後にNPO法人役員等が今後の活動を充実させるために講話を行うなどしている。

活動後の研修では、具体的な事例に基づいて、サポーターが話し合い、指導主事の指導助言を受ける手法で効果をあげている。

図表3-17 「教育活動サポーター基礎研修」第1回研究会での研修内容

1. 学校の状況とサポーターのサービス 地方公務員法のサービス規定に準じて 学校現場の状況.....小学校の学校経営等 学校現場の状況.....中学校の教科経営、学級経営
2. 特別支援教育の状況 軽度の発達の遅れの子ども
3. 事務連絡 勤務について サポーターの連絡方法 活動報告書、出勤簿の扱い 欠席、退職の連絡

b. 輝け 明日の先生の会

NPO 法人では、小中学校の教員になる人材の研修を実施してきたが、平成 18 年度からは発展して、川崎市総合教育センターが主催、NPO 法人が主管という形態で、川崎市の教員を

志している人を育成するための「輝け 明日の先生の会」が発足した。平成 19 年度の概要は以下のとおりである。

募集人員

定員が講話 120 名、ゼミ 70 名である。この中には教育活動サポーターとして活動しながら、勉強している人も含まれている。

資格

- ・大学生、社会人等で、将来川崎市の教員を志す人
- ・川崎市立学校に在籍する臨時的任用職員、非常勤講師、経験 3 年未満の正規職員
- ・「教育活動サポーターは一事業」のサポーターとして登録し、教育活動の支援に当たっている、または当たる予定がある学生、大学院生
- ・川崎市教育委員会が研修受講を認めた者



受講料

講話のみ 13,000 円、ゼミのみ 7,000 円、講話とゼミの両方 19,000 円

選考方法

定員を超えた時は、大学 3 年生以上、臨時的任用教員、非常勤講師を優先する。

研修の日程

平成 19 年 5 月～20 年 3 月までの第 2、第 4 土曜日、
講話 15 日間（30 講話）、ゼミ 7 日間

研修の内容

講話（15 日間、30 講話）	ゼミ（7 日間）
1. 教師という仕事（4 講話）	1. 児童生徒理解の変化
2. 教師としての基礎的教養（7 講話）	2. 教科指導のポイント
3. 教師としての指導力（8 講話）	3. 学習指導案の作成
4. 今日的課題（6 講話）	4. 論文、作文作成能力の向上
5. 日々の教育活動の中で生まれてくる悩み（5 講話）	5. 体験学習
	6. カウンセリングの実際と事例研究
	7. 受講者の気になっていることを先輩に尋ねる

講師

川崎市総合教育センター指導主事、元校長、現役教諭、PTA 会長等

本事例のポイント

本事業は、川崎市が児童生徒の学力向上や日本語指導等のために小中学校に教育活動サポーターを派遣するものである。本事業の第一の特徴は、派遣されるサポーターが教員になることを目指している大学生等であり、概ね一年間の学校現場でのサポーター活動を通じて教員としての資質、能力等を学ぶことができる貴重な場となっている。第二の特徴は、川崎市が事業を川崎市の教職員 OB 等で作る NPO 法人に委託していることであり、市内の学校の実情や学校長等を良く知る NPO 法人が取り組んでいるため、サポーターを派遣する側と派遣される側の意思疎通がうまく図られている。

サポーターとなることを希望する大学生等の確保と、育成したサポーターが川崎市の教員として定着することが課題である。

5

大阪市生涯学習インストラクターバンク事業

大阪市教育委員会・大阪市立総合生涯学習センター

地域
概要

大阪市は平成 17 年(国勢調査)現在、2,628,811 人で、65 歳以上人口は 20.1% (529,692 人)を占めている。大阪市では、昭和 63 年から生涯学習推進会議(平成 18 年度に「生涯学習大阪計画」プロジェクト会議に改編)を設け、今日まで生涯学習に関する施策の総合的かつ効果的な推進を図ってきた。平成 18 年からは、新しい「生涯学習大阪計画」として、市民が、習得した知識や技術をまちづくりに活かし、その過程で生じる新たな課題に関してさらに学習するという循環型の「生涯学習社会」の形成を目指している。

(1) 事業の概要

本事業は、市民グループの学習会や生涯学習ルーム等で開催される講座に対して講師となる人材(市民ボランティア講師：生涯学習インストラクター、高齢者リーダー)を登録・紹介するものである。登録に際しては、審査委員会による書類審査を実施し、登録予定となった人を対象に「登録前講座」を行い、一定の資質を持った人材の確保が図られている。

これまで市民ボランティア講師は 25 ジャンル 266 科目・約 600 人が登録されており、生涯学習ルームや P T A、女性会などの学習会等で活躍している。

制度の名称		大阪市生涯学習インストラクターバンク事業									
教育サポーター呼称		生涯学習インストラクター・高齢者リーダー					認定数	608 人			
主体	実施主体	大阪市教育委員会・大阪市立総合生涯学習センター									
	実施主体の役割	登録 受付	登録 審査	登録情 報管理	利用 受付	人材 斡旋	活動 把握	研修 開催	相談 受付	その他	
	開始年度	高齢者リーダー(S54~)と生涯学習インストラクター(H6~)の事業を平成 14 年度から統合して実施									
登録	登録要件	一定の指導できる知識や経験を有すること。「登録前講座」を受講し修了すること。20 歳以上(高齢者リーダーは 60 歳~75 歳)。居住地(在住・在勤)。無償又は低廉な謝礼で活動できること									
	登録方法	本人の申し出により審査委員会で書類審査を行い、登録する									
	有効期限	1 年間	更新条件	本人に更新の意思があること。							
活動	派遣先 :実績あり :実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年 教育施設	その他		
	対象と している 活動内容 :実績あり :実績なし	学校の授業・ 部活動での支援		放課後の子ども の活動の指導		社会教育施設の 講座での指導		社会教育施設で の各種団体の 活動の支援		その他	
	登録する 活動分野	スポーツ レクリエーション	芸術 文化	教養 生活	趣味 娯楽	医療 福祉	環境 地域	その他			
	登録申請時の自己申告により決定										
支援	謝金等	【実施主体】なし【受入施設】謝金 1 回 2 時間 5,000 円を上限(交通費込み)									
	傷害保険	自己負担で加入									

「大阪市生涯学習インストラクターバンク事業」創設の経緯

大阪市生涯学習インストラクターバンク事業は、仕事や趣味で培った優れた経験・知識・技術を持ち、ボランティア活動に意欲を持った人たちを、生涯学習の市民ボランティア講師として登録し、身につけた成果を社会に還元できるような機会や場を提供することによって、市民相互の自発的な学習活動を支援し、生涯学習の振興に寄与することをめざした事業である。

現在、市民ボランティア講師には、高齢者リーダーと生涯学習インストラクターの2つの登録部門があるが、その設立は別々であった。

高齢者の知識・経験を活かしていくため、昭和54年に「高齢者人材養成セミナー」が大阪市立北市民教育ルーム(H17.7.1廃止)で開催された。そのセミナー修了者を「高齢者リーダー」に委嘱したのが始まりである。

また、平成4年に「生涯学習大阪計画」が策定され、生涯学習に関する施策の総合的かつ効果的な推進を図ることとなった。その中で「ボランティアの育成とグループ活動への援助」の方向が示され、平成6年より「生涯学習インストラクターバンク事業」が開始された。

その後、平成14年に市内全域の生涯学習活動を総合的に支援する広域型の中核施設として「大阪市立総合生涯学習センター(以下、「総合生涯学習センター」という。)」が開設され、市の生涯学習事業の整理が行われ、高齢者リーダーと生涯学習インストラクターが「市民ボランティア講師」として統合され現在に至っている。

市民ボランティア講師の募集・登録

募集・審査

市民ボランティア講師は、毎年7～8月に募集(年1回)される。登録希望者は、所定の応募用紙に必要事項を記入して、総合生涯学習センターに申し込む。

募集に対して「審査委員会」が書類審査を行う。書類審査は、生涯学習インストラクター、高齢者リーダーの応募条件を基に指導歴や指導内容、意欲等により総合的に判断される。平成18年度は応募者数128人(生涯学習インストラクター113人、高齢者リーダー15人)に対して、選考人数は30人(生涯学習インストラクター22人、高齢者リーダー8人)となっている。

審査委員会は市教育委員会市民学習振興担当、総合生涯学習センター企画推進課が事務局となり、生涯学習の専門など学識経験者等8人の委員で運営されている。

審査委員会に先立ち、各委員は事前に書類(応募用紙)の採点を行い、当日は委員全員の合議により決定している。

また、高齢者リーダーに対しては、これまで書類審査とともに面接を実施していたが、生涯学習インストラクターの審査方法と同一にするため、平成19年度より実施していない。

登録

審査委員会により登録予定者となった人を対象に「登録前講座」を行い、その修了者を「大阪市生涯学習インストラクターバンク」に登録している。平成18年度現在、登録者数は608人となっている。登録期間は1年間で、その後、継続を希望する場合には登録更新を行う。

登録に際しては、応募用紙に記された「登録を希望するジャンル・科目」に登録される。なお、応募時に審査しているため、登録後の科目変更は更新時を含めできない。

現在、登録の多い分野は、書道、健康体操、コーラス、社交ダンス、歴史等となっている。

高齢者リーダー協議会

高齢者リーダーには、学習ボランティア活動や情報交換等を目的とした「高齢者リーダー協議会」の組織があり、ほぼ全員が参加している。教えるだけでなく、自分達で市民のために生涯学習の講座を開催する活動を行っている。

図表3-18 応募条件・登録状況

部門	生涯学習インストラクター	高齢者リーダー
応募条件	市内在住、在勤で20歳以上の人 市民を対象に指導できる内容について、各種師範免許、資格等を持っているか、それに相当する専門的な技術、能力、知識がある人 市民を対象に指導経験がある人 ボランティア活動に意欲がある人	市内在住、在勤の60歳以上75歳までの人 市民を対象に指導できる内容について、各種師範免許、資格等を持っているか、それに相当する専門的な技術、能力、知識がある人。または、市民を対象に指導できる内容で、仕事等で培った知識や経験を活かして、指導できる人 市民を対象に指導経験がある人。または、指導経験がなくても指導が可能と見込まれる人 ボランティア活動に意欲がある人
登録者数	(H18年度)491人	(H18年度)117人
登録者の多い科目	書道(23人)、健康体操(20人) コーラス・社交ダンス(14人) 編み物(12人)、手話・英語(11人)等	歴史(14人)、健康・高齢者の社会参加(8人) 書道・パソコン・伝承遊び(7人)等

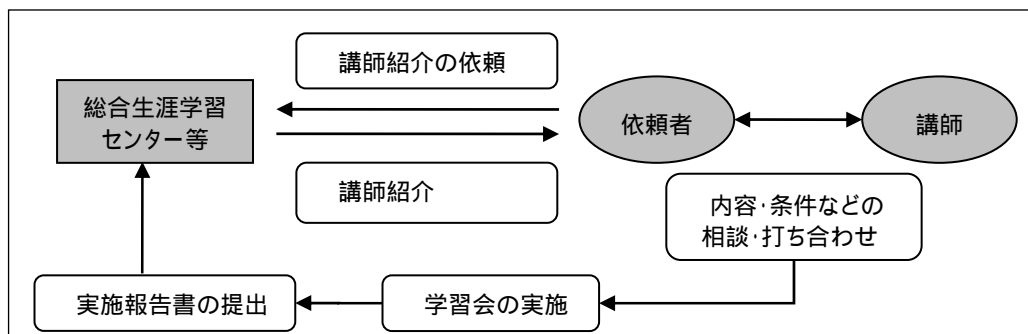
図表3-19 書類選考の資料となる応募用紙の記載事項(全3頁)

頁	記載内容
1	部門(生涯学習インストラクター・高齢者リーダー) 氏名、生年月日、性別、年齢、顔写真 住所(電話、FAX)、勤務先(電話、FAX) 登録を希望するジャンル・科目 指導できる具体的な内容 指導内容についての知識・技術を習得するために学んだ教育機関・団体(名称・内容・期間) 講師として公的資格がある場合、資格を授与された機関・団体名と取得年月
2	応募する指導科目のこれまでの指導歴：生涯学習インストラクターは必須項目 (活動場所又は主催団体・機関名、内容、期間、回数、対象・参加者層、参加人数) 応募の動機とインストラクターバンクに登録するにあたっての期待・抱負など ボランティア活動への意欲 明確な資格のないジャンル・科目に応募する人で、知識・技術を習得した教育機関・団体・指導者からの推薦を受けることのできる場合、推薦書
3	企画案 ・講座名、講座の趣旨・ねらい、回数と1回あたりの時間、対象、定員、内容 ・講座プログラム、教材、教材費、会場の条件・必要な設備

生涯学習インストラクターバンクの仕組み

生涯学習インストラクターバンクは、「講師紹介の依頼」「講師紹介」「内容・条件などの相談・打ち合わせ」「学習会の実施」「実施報告書の提出」の流れで進められる。

図表3-20 生涯学習インストラクターバンクの流れ



講師紹介の依頼

市民ボランティア講師を依頼できるのは、主に大阪市内で活動する市民グループ・サークル・団体が開催する営利・宗教・政治活動を目的としない学習会で、1回につき5人以上の参加者が見込まれるものを開催する場合である。また、生涯学習ルーム（市内小学校の特別教室等を活用した地域住民を対象とした講座）事業でも依頼する場合がある。

総合学習センターでは、講師の名前、居住地（区）、指導科目、主な内容を記載した「市民ボランティア講師名簿」を毎年度発行し、区役所やグループ活動の行われている公共施設、希望者に配布している。

講師紹介の希望者は、「市民ボランティア講師名簿」を見て紹介窓口に連絡を取り依頼する。紹介窓口は、総合生涯学習センター内のインストラクターバンク事務局を始め、市民学習センター（4ヶ所）、各区役所の市民活動推進担当（24ヶ所）、こども文化センター、中央青年センターに設けられている。

講師紹介

依頼を受けた窓口では、講師の連絡先（電話番号）を依頼者に紹介し、その後は依頼者から講師に直接交渉を行ってもらう仕組みとなっている。窓口担当者は「生涯学習情報提供システム（大阪市）」を活用して、講師の連絡先（担当課のみが閲覧可能）を検索している。

講師の問合わせ人数は1件当たり2～3人を挙げる依頼者が多い。問合わせ人数が多い場合は、個人情報の問題があるため人数を絞ってもらっている。名簿を持っていない人に対しては、希望する科目や詳しい活動内容を確認の上、近隣の市民ボランティア講師を紹介している。

また、インストラクターバンク事務局では、市民ボランティア講師毎のファイルに「実施報告書」を整理しており、市民ボランティア講師の活動歴や対象層などの詳しい情報が集積されている。現状として、担当職員は2年程度で変わることから600人近い登録者を全て把握することは困難である。そのため、実施報告書の整理は大変役立っており、講師依頼の相談に対しても実施報告書を参考にしながら、これまでの活動内容や参加者の感想、同様の団体の指導を行っているか等の判断が可能となっている。なお、講師紹介に際して生涯学習インストラクターと高齢者リーダーの区別はなく、あくまで依頼内容に対応した科目の講師を紹介している。

また、窓口毎に講師の紹介を行っているため、講師のスケジュールが重複することもある。原則として講師への事前確認は行っていないため、スケジュール等が合わない場合は講師と利用者で調整することとなっている。

講師と利用者で内容・条件などの相談・打ち合わせ

窓口で市民ボランティア講師の連絡先を教えてもらった依頼者が講師へ直接連絡する。

指導内容、日時、回数、会場、対象、参加予定人数、謝礼（1回2時間5,000円以内）などの条件について相談を行い、条件が合えば活動が実施される。紹介の成立・不成立に関わらず、結果はインストラクターバンク事務局に連絡することとなっている。

総合生涯学習センターでの依頼の成立件数は、平成18年度は344件となっている。不成立のケースは日時の調整の折り合いがつかない場合がほとんどとなっている。

学習会の実施・実施報告書の提出

学習会終了後には、依頼者と市民ボランティア講師がそれぞれインストラクターバンク事務局に実施報告書（A4版1頁）を提出する。インストラクターバンク事務局以外の他の窓口で紹介した場合も対象となり、提出はメール・FAX・郵送等でのいずれかの方法で行われる。

実施報告書は、インストラクターバンク事務局で整理・保管するとともに、市民ボランティア講師・依頼者の了承の下、「いんとら通信（リーフレット）」や「総合生涯学習センターホームページ」に活動報告の抜粋を紹介して、情報の共有化や活動の普及に役立てている。

図表3-21 実施報告書の記載内容等

項目	市民ボランティア講師	依頼者
記載内容	報告日 名前、科目 活動日時 参加者数（男女数、大人・子ども数） 依頼団体名 催し名称 会場（自宅等からの所要時間） 内容・カリキュラム 意見・感想など	グループ・団体名、代表者名 住所、電話、メールアドレス、FAX 市民ボランティア講師の電話番号の入手先 市民ボランティア講師名、科目 催し・講座名、会場 実施日 参加者数（男女数、大人・子ども数） 講座の内容（選択肢「よかった・普通・期待通りではなかった」と理由） 講師の指導（選択肢「よかった・普通・期待通りではなかった」と理由） 意見・感想など
情報利用の可否	報告書の内容を「いんとら通信」「総合生涯学習センターホームページ」に掲載しても良いか 報告書の内容を、次の依頼や問い合わせ時に、相手の団体・機関に提供しても良いか	報告書の内容を講師に提供しても良いか 報告書の内容を「いんとら通信」「総合生涯学習センターホームページ」に掲載しても良いか 報告書の内容を、次の依頼や問い合わせ時に、相手の団体・機関に提供しても良いか

生涯学習インストラクターバンクの今後の課題

現在、約600人の登録者の内、実際に活動している人は半数程度であり、スキルを有しているものの活動できていない人の活動の場をどう作っていくかが課題となっている。一方で市民ボランティア講師の自主的な活動が重要となっている。

また、講師と利用者の相談を前提として謝礼（上限5,000円）が設定されている。当該制度の設立当時は、ボランティア活動が少なかったため、無償だと活動ができないこと等に配慮して設定されたものであったが、上限を設けるとそれが基準となってしまっている。今後は、講師への謝礼のあり方等の検討も必要となっている。

(2) 市民ボランティア講師の養成・資質向上について

登録前 研修	講座名	登録前講座	
	実施主体	大阪市教育委員会・大阪市立総合生涯学習センター	
	内容	市民ボランティア講師としての認識を深めるため実施する。	
	総時間	延べ日数 5日	延べ時間 10時間
	必修要件	受講・修了は登録要件である	
受講者数	(H18年度) 30人		
登録後 研修	講座名	登録後研修	
	実施主体	大阪市教育委員会・大阪市立総合生涯学習センター	
	内容	登録者の相互交流や、生涯学習に関する知識を深め、ボランティア講師としてスキルアップを図るために実施する。	
	総時間	延べ日数 3日	延べ時間 6時間
	必修要件	受講は任意であり必修ではない	
受講者数	(H18年度) 223人		

登録要件となっている「登録前講座」

a. 開催場所・日程

審査委員会によって選考された人を対象に、翌年4月の登録に向けて約半年間(計5回程度)の研修が実施される。受講は無料である。

実施場所は、総合生涯学習センター、市民学習センターで実施されている。

b. 学習内容・方法

登録前講座では、講義の他、生涯学習推進員との「交流会」と登録予定者(受講者)による「一日体験教室」が行われる。

生涯学習推進員との交流会

大阪市では小学校区を単位とした生涯学習の推進のため、「生涯学習ルーム(講座)」を開催しており、その運営を担うのが生涯学習推進員(小学校区に3名程度、市委嘱)である。また、市民ボランティア講師も講師活動を基本としながら、地域に根ざしたボランティアとして、生涯学習活動を通して地域の教育コミュニティづくりを支えていくことが期待されている。

「交流会」は、こうした地域で活動している生涯学習推進と市民ボランティア講師とのネットワークや情報交換の機会として実施される。

一日体験教室

「一日体験教室」は、登録予定の人が自分の登録科目の講座の講師として企画から講義までを行うものである。よって一日体験教室の講師は登録予定者、受講者は一般市民となる。なお、登録希望者の選考にあたっては、指導資格や指導経験などが条件となっていることから、登録予定者による講座の開催に大きな問題はない。一日体験教室の教材は、通常の講座と同様に受講者負担となっている。

また、一日体験教室の開催後には、アンケートを実施しており「初めての人に教えることの難しさを改めて実感した」「いろいろな質問を受けて、私も勉強になりました」等の意見が寄せられている。

c. 講師

講師は、総合生涯学習センター職員及び外部講師が行っている。総合生涯学習センター職員は研修初日に大阪市の生涯学習等についての講義を行っている。

図表3-22 登録前講座の内容

回	平成 18 年度	平成 19 年度
1	大阪市の生涯学習について、自己紹介(1日間)	大阪市の生涯学習について、自己紹介(1日間)
2	市民が教えるということ(1日間) ～ともに学ぶ関係をめざして～	市民ボランティア講師、生涯学習推進員ブロッ ク別交流会(1日間)
3	生涯学習ルーム発表会 見学(2日間)	市民が教えるということ(1日間) ～ともに学ぶ関係をめざして～
4	人権研修(2日間) ～障がい者とともに学ぶために～	地域でともに生きる(1日間) ～地域ボランティア活動のヒント～
5	一日体験教室(2日間)	一日体験教室(2日間)

登録後のスキルアップ講座「登録後研修」

a. 開催場所・日程

登録者を対象に年間3回程度の研修が実施される。参加費は無料である。実施場所は、総合生涯学習センター、市民学習センターで実施される。

b. 学習内容・方法

市民ボランティア講師の教えるスキルは、日々の経験で持っている人が多いため、学習内容は講座運営など活動に活かせるテーマを設定し、ワークショップなど相互理解のための場としている。

登録後研修では、講義、ワークショップの他、生涯学習推進員との「交流会」が行われる。また、講座は「登録前講座」を兼ねて開催される回もある。

c. 講師

講師は、生涯学習インストラクターや外部講師等が行っている。

図表3-23 登録後研修の内容

回	平成 18 年度	平成 19 年度
1	ワークショップ(2日間) 事前アンケートの結果をもとに活動を通しての悩みなどについて、参加者同士がアイデアを出し合いともに考える	生涯学習推進員との交流会(1日間) 登録者の居住地により会場を5ブロックに分けて実施
2	生涯学習推進員との交流会(1日間) 登録者の居住地により会場を5ブロックに分けて実施	地域でともに生きる(1日間) ～地域ボランティア活動のヒント～ 登録前講座を兼ねる
3	人権研修(2日間) ～障害者とともに学ぶために～ 登録前講座を兼ねる	ワークショップ(2日間) 事前アンケートの結果をもとに活動を通しての悩みなどについて、参加者同士がアイデアを出し合いともに考える

「ぶらっと1日講座」

高齢者リーダーは、指導経験がなくても市民ボランティア講師に登録できることから、総合生涯学習センター主催で高齢者リーダーの人材育成を目的とした講座を開催している。

講師となる高齢者リーダーの資質向上の機会となるよう、講座の計画から指導内容について相談やアドバイスをを行い、市民からの参加アンケートの分析結果も提供している。

開催にあたっては、事務局が日程と会場の候補(年4回程度)を提示し、実施したいという高齢者リーダーの希望を集約・調整し、実施している。講座内容は実施を希望した高齢者リーダーの登録科目による。

高齢者リーダー（男性）の声

a．活動のきっかけ・現在の活動

平成12年から高齢者リーダーの活動を始めています。元々、サラリーマンで定年後のゆったりした生活をイメージしていましたが家庭に入ると1週間で飽きてしまいました。そうした時に、高齢者人材養成セミナーが目につき参加してみました。セミナーを受ける中で、ボランティアに対する今までの考えが間違いであったとわかり、お金では代えられないものがあると新しい尺度で考えるようになりました。

また、登録時に講座に参加し、これまで知らなかった分野の話が聞けて大変勉強になりましたが、地域で活動されている人の話も聞きたかったと思います。

高齢者リーダーとしては、メディアを指導科目として新聞やテレビの見方・楽しみ方を専門的にならぬように話しています。また、「高齢者リーダー協議会」の活動として年に2～3回、講座の運営も手伝っています。

b．活動上の問題・課題

活動に際して、金銭的な見返りは求めていませんが、ボランティアとして継続的に活動していくためには、やはり交通費や材料費などの経費が必要となります。そのため、講師活動の謝金は、次の活動に使うよう心がけています。

また、高齢者リーダー同士が集まれる場所が必要です。総合生涯学習センターの研修室使用について配慮いただけるのはありがたいと思います。

c．今後の活動への意向

大阪市では、小学校児童の放課後対策として「いきいき放課後事業」に取り組んでいますが、昔のおもちゃ作りなど、高齢者と子どもと一緒に学び、遊べるように手伝っていきたくと思っています。高齢者リーダー同士と一緒に活動したかったのですが、学区ごとにバラバラで活動するしかなかったのが、今のところ実現はしていません。何か解決策を見つけたいと思っています。

また、一人の力は限られていますので、仲間と活動していくことが大事だと思います。そのことが、やりがい、生きがいに結びつくと思います。

これからは、高齢者も外に向かって喜んでもらえることをしていかなければなりません。元気な高齢者はその経験を地域に還元できると良いと思います。

そのためにも定年退職者等の受け皿として広く門戸を開き、出来るだけ多くの人が仲間になれるような道をつくってほしいと考えています。

そのきっかけとして、退職後の生き方講座がたくさん出来たり、高齢者リーダー協議会のような団体がたくさん出来ると良いと思います。

今後は、行政と協力関係にありながら、一線を画して、行政がやりにくいことをやっていくことが重要と考えます。行政と市民の間に立っていく役割もあるかと考えています。

本事例のポイント

本事例は、生涯学習インストラクターとして誰でも登録できるものではなく、指導資格や指導経験を審査委員会で審査して一定の資質を有した人が選定されており、利用者にとっても安心して依頼できる体制となっている。高齢者リーダーに対しては指導経験の場となる講座を総合生涯学習センターの事業として開催し、講座開催についての相談・アドバイスを同時に行っており、高齢者が参加しやすい環境が確保されている。また、利用者と講師に実施報告書の提出を義務づけており、講師紹介時のマッチングの判断やインストラクターバンク事業の紹介・普及に役立っている点が特徴的である。

一方、実際に活動している人は半数程度であり、活動できていない人の活動の場の確保が課題となっている。

6 市民解説員活動推進事業・生涯学習支援者バンク事業

あきる野生涯学習センター・あきる野市教育委員会

地域概要	あきる野市は都心から 40～50km 圏に位置し、平成7年、秋川市と五日市町が合併して誕生した。人口は増加傾向にあり、平成17年(国勢調査)現在、79,587人で、65歳以上人口は19.2%(15,308人)を占めている。 あきる野市では、市民が学習や経験で得た成果を活かし、地域社会へ還元することにより自らを高めることができるように、市民解説員の養成や生涯学習支援者バンク事業等を実施し、市民が主体となった生涯学習に取り組んでいる。
------	--

1. 『市民解説員活動推進事業』

(1) 事業の概要

<p>本事業は、地域における生涯学習の推進を図るための解説活動を行う人材(市民解説員)を養成・認定・派遣するものである。市民解説員は、「市民カレッジ人材養成『入門講座』『解説実習』」の受講・修了を要件として市で認定しており、現在57名が登録している。また、市民解説員が代表となった「運営委員会」を設置し、その活動が円滑に行われるように協議を行っている。</p> <p>これまでに認定された市民解説員は、生涯学習の講座のアシスタントや、自ら企画に加わった市内探訪での解説活動など、市内の様々な場で積極的な活動を行っている。</p>
--

制度の名称	市民解説員活動推進事業										
教育サポーター呼称	市民解説員					登録者数	56人				
主体	実施主体	あきる野生涯学習センター									
	実施主体の役割	登録受付	登録審査	登録情報管理	利用受付	人材斡旋	活動把握	研修開催	相談受付	その他	
	開始年度	平成8年									
登録	登録要件	「市民カレッジ人材育成『入門講座』『解説実習』」を受講・修了。									
	登録方法	単位取得者を登録									
	有効期限	無期限	更新条件	-							
活動	派遣先 :実績あり :実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年教育施設	その他(観光施設)		
	対象としている活動内容 :実績あり :実績なし	学校の授業・部活動での支援		放課後の子どもの活動の指導	社会教育施設の講座での指導		社会教育施設での各種団体の活動の支援		その他		
	登録する活動分野	本人の希望									
支援	謝金等	【実施主体】保険料の負担のみ 【受入施設】受入施設からの支給はなし									
	傷害保険	あきる野市の負担で加入									

「市民解説員活動推進事業」創設の目的

あきる野市では、市民の生涯にわたる学習活動の振興と市民相互の交流を深め、地域社会の形成と住民福祉に寄与することを目的に、豊かな生涯学習社会「あきる野市」実現のための基盤整備と人材養成事業の充実をねらいとして、生涯学習の推進を図っている。

平成8年、地域的課題・市のまちづくりの課題に関する学習内容の充実と、市民の学習成果が地域社会において適切に評価される生涯学習の環境づくりとして、「市民カレッジ人材養成講座」を開始した。

また、同時に、市民カレッジ人材養成講座により養成された「市民解説員」が習得した知識・技術を多くの人々に伝える解説活動等を推進するための「市民解説員活動推進事業」が開始された。

市民解説員の募集・登録

市民解説員の認定には、「市民カレッジ人材養成『入門講座』(以下、「入門講座」という。)」と「市民カレッジ『解説実習』(以下、「解説実習」という。)」の受講を要件としており、両講座の修了者に対して、新年度当初に市民解説員としての心構え、あり方等の研修を行い、市教育委員会(教育長名)が認定証を交付する。

平成10年の第1期生に始まり、平成20年1月現在、56名が市民解説員として登録しているが、健康面や仕事などの理由もあり、現在活動しているのは3分の2程度となっている。ただし、市民解説員との関係を継続するために、その年に活動できなくても脱退しないよう依頼している。

なお、市民解説員の名簿は一般に公開していない。市民解説員に解説等を依頼したいときは生涯学習センターに「市民解説員派遣・解説依頼」を提出する必要がある。

市民解説員の活動

a. 市民解説員の運営

市民解説員の活動計画の作成

市民解説員の活動は、市教育委員会教育部の「市民解説員活動推進事業」に基づき、1年間の活動が設定されている。毎年12月に市民解説員を対象にしたアンケート調査を実施し、次年度の各活動への参加の可否等の意向を把握した上で、年間行事の予定を組み、活動計画を作成している。また、実際の活動に際して、担当となった市民解説員が病気等で予定どおり参加できない場合は、適宜代替の市民解説員が活動にあたるなど柔軟に対応している。

全体会・市民解説員運営委員会の開催

市民解説員の中から代表者6名が委員となって「市民解説員運営委員会(以下「運営委員会」という。)」を組織し、毎月、市民解説員の活動が円滑に行われるように協議を行っている。この運営委員会には、事務局として教育委員会から2名(あきる野ルピア館長、担当者)が必ず参加し、解説員と情報を共有している。会議結果は運営委員会の書記がまとめ、市民解説員全員に報告している。

また、全解説員が集まる「全体会」を毎年5月と12月に開催しており、運営や翌年の活動に向けての確認を行っている。全体会の会場はあきる野ルピア(学習・文化施設)で実施している。

市民解説員の活動拠点

生涯学習センター(あきる野ルピア)の一室が市民解説員に開放されている。ここにはコピー機や参考図書があり、市民解説員が自由に来訪して交流を深めたり、資料を作成したりすることができ、市民解説員の活動拠点となっている。

b. 市民解説員の活動範囲・内容

活動の分野

市民解説員活動推進事業として、平成19年度に実際された活動は以下の通りである。

- 1) 自主グループによる勉強会、発表会の開催
- 2) 運営委員会の組織
- 3) 市民カレッジ人材養成「入門講座」や市民カレッジ「公開講座」等のアシスト
- 4) あきる野探訪マニュアルコースの実施
- 5) 市内探訪の実施
- 6) 市の施設における解説活動
 - ・「二宮考古館」「旧市倉家」「あきる野ふるさと工房」等での解説の担当
 - ・社会教育施設等での解説や市内巡り等における解説の担当
 - ・小学校の社会科見学及び総合的な学習の時間における解説の担当
 - ・学校週5日制対応講座への協力、及び親子を対象とした解説活動の実施

自立化を目指した市民解説員発表会での活動

市民解説員の自立化の推進を目的として、「市民解説員発表会」を開催している。同発表会では、市民解説員が1年間の成果を個人またはグループ単位で発表し、個々のレベルアップを図っている。

主催はあきる野生涯学習センターであり、謝金等の経費的な分は市が負担しているが、各発表会の企画や特別講演のテーマ、講師との交渉等については、運営委員会の中に設置された「市民解説員発表会実行委員会」が行っている。

市民カレッジ人材養成「入門講座」や市民カレッジ「公開講座」等のアシスト

市民カレッジ人材養成「入門講座」や市民カレッジ「公開講座」において、市民解説員が講座の受付や講座記録の作成、現地学習での安全確認等の手伝いを行っている。また、市民カレッジ人材養成「入門講座」では解説経験を積むために市民解説員が一部の解説を担当している。

特に「入門講座」はこれから市民解説員となる者が受講する講座であるが、市民解説員の中には、実際に活動してみて改めて知識の不足を感じ、より知識を高めたいと考える人が多くおり、裏方での手伝いを通じて講座を聴講することができるため、こうした事務局のアシストにも積極的に参加する人が多いという。

市内探訪での解説

毎年春と秋に行われる市内探訪が市民解説員のメインの活動のひとつである。徒歩とバスにより市民を案内する活動で、毎年1月に春(2コース)と秋(3コース)の担当班(各5名)を決定している。各班はそれぞれ事務局(市教育委員会)との打ち合



わせの後、自主的に現地調査（トイレ、食事の場所、危険箇所等）を行い、市内探訪のコースを設定している。また、見学場所（お寺など）との交渉も市民解説員が行い、許可が出た段階で、市教育委員会から文章で正式に依頼している。

個別の市内解説の依頼が自治会や市内の団体からあった場合には、生涯学習センターが窓口となり、地元の市民解説員を派遣している。このようなケースでは、派遣希望日までの時間が短いことが多いため、運営委員会を通さず、直接、市民解説員に連絡を取って依頼している。

「旧市倉家」「あきる野ふるさと工房」における展示解説

あきる野市では、旧市倉家（あきる野市指定有形文化財）で休館日を除く毎週土曜日に民具に直接さわって体験できる展示を行っている。それにあわせ、毎週土曜日の午後1時から市民解説員による展示解説が行われている。

また、あきる野ふるさと工房では、軍道紙（手漉き和紙）や陶芸等の生活文化の継承を行っており、小学校の社会科見学などにあわせて市民解説員が派遣され、解説を担当している。



旧市倉家やあきる野ふるさと工房では、解説を行う市民解説員を対象に、市の担当者が半日程度の事前研修を行っており、研修を受けた解説員が各施設で活動する年間の名簿に登録される。

なお、あきる野ふるさと工房での活動に対しては、解説マニュアルを運営委員会が独自に作成しているが、特に解説を行う対象が子ども（小学校4～5年生が中心）となっていることから、子どもを対象とした解説の仕方（難しい言葉は使わないなど）にも配慮したマニュアルとなっている。

市民解説員派遣事業の今後の取組意向

市民解説員の活動は活発であるが、市民解説員の増加とともに、その活動場所や機会をいかに確保するかが課題となっている。こうした中、平成19年度には、初の試みとして、寿大学（中央公民館主催の高齢者対象講座）の講師を市民解説員が務めるなど、活躍の場の拡大に向けた取組が進められている。今後も市民解説員が講師となった市民カレッジ「公開講座」の開催など、市民解説員の活動機会の拡大に向けた検討を、市民解説員とともに検討していく意向である。

(2) 市民解説員の養成・資質向上について

登録前 研修	講座名	市民カレッジ人材養成「入門講座」			
	実施主体	あきる野生涯学習センター			
	内容	地域の再発見をテーマとして学習の機会の提供と学習成果を生かしたまちづくり活動のための市民解説員を養成する			
	総時間	延べ日数	51 日	延べ時間	185 時間
	必修要件	受講・修了は登録要件である			
	受講者数	(H18 年度)	25 人		
登録後 研修	講座名	市民カレッジ「解説実習」			
	実施主体	あきる野生涯学習センター			
	内容	「入門講座」12 単位を取得及び取得見込者を対象に、市民解説員の資格を得るための実習を行う			
	総時間	延べ日数	4 日	延べ時間	14 時間
	必修要件	受講・修了は登録要件である			
	受講者数	(H18 年度)	9 人		
登録後 研修	講座名	市民解説員専門講座			
	実施主体	あきる野生涯学習センター			
	内容	市民解説員としての知識・技術をさらに高め、十分な解説員活動が出来るように支援する			
	総時間	延べ日数	15 日	延べ時間	52 時間
	必修要件	受講は任意であり必修ではない			
	受講者数	(H18 年度)	37 人		
登録後 研修	講座名	市民解説員特別講座			
	実施主体	あきる野生涯学習センター			
	内容	専門講座における学習科目と学習内容だけでは補えない学習内容がある場合に実施する			
	総時間	延べ日数	1 日	延べ時間	6 時間
	必修要件	受講は任意であり必修ではない			
	受講者数	(H18 年度)	24 人		

登録要件となっている市民カレッジ人材養成「入門講座」「解説実習」

a. 市民カレッジ人材養成「入門講座」

対象・受講料

地域の再発見をテーマとした学習機会の提供と、学習成果を生かしたまちづくり活動のための市民解説員（学習ボランティア）養成のための入門講座として実施する。市民カレッジ取得単位が 12 単位未満の市民を対象としている。定員は 15 人である。

講座内容・単位

講座内容は、あきる野の歴史・文化について、自然史（ ・ ） 地域めぐり（ ・ ） 人物伝（ ・ ） 考古学（ ・ ） 中世史、近世史、伝統産業、民俗芸能の 12 科目を 2 年サイクル（ 6 科目 / 年）で設定している。

1 年間に受講できる科目は毎年 6 科目の中から 4 科目を上限としている。そのため、全 12 科目（ 12 単位）取得するため、最短でも 3 年間の受講が必要となっている。各自のペースに合わせて取得できるように受講期限は設けず、4～6 年かけて受講する人もみられる。



講師

入門講座は、地域の再発見をテーマとしているため、その講師には、地域を研究している人を教育委員会が選んで依頼している。高校の教員、元小学校の校長など、教員又は教員経験者も多いが、解説員の高齢化とともに講師の高齢化も進んでおり、講師の後継者不足が課題となっている。

なお、入門講座では、1講座あたり2～4名の市民解説員がアシスタントとして活動している。

学習評価

単位の取得は出席回数を基に判定される。1科目あたり4～5日(回)で実施され、1科目につき1回までの欠席が認められる。単位を取得した場合は、科目の最終日に講座受講カードに受講済の確認印が押される。

取得した単位の合計が12単位となると「解説実習」を受ける対象となる。

b. 市民カレッジ「解説実習」**対象・受講料**

市民解説員は、市民を対象に市内を案内することが主な活動のとなるため、入門講座12単位取得者及び取得見込み者を対象に解説の実習を行う。

解説実習の受講者は、入門講座が各自のペースで受講されていることからばらつきがあり、平成19年は9名、平成20年は4名の受講となっている。

講座内容

解説実習として市民解説員が模範解説を4箇所ほど抽出して実施する。また、入門講座の科目「地域めぐり」において、専門の講師とともに参加して、解説方法を学んでもらう。

講師

市民解説員が模範解説を実施する。市民解説員は市内探訪での解説経験を活かして講師となってもっている。講師となる市民解説員の基準はなく、「市民解説員運営委員会」で調整して選任している。市民解説員が次代の市民解説員の養成に講師として関わっている点は特徴的である。

認定

解説実習の修了者は「市民解説員」として認定される。

登録後のスキルアップ講座「市民解説員専門講座」「市民解説員特別講座」

a. 市民解説員専門講座**対象・受講料**

市民解説員専門講座は、市民解説員を対象に、知識と技術を高め、十分な解説活動ができるよう支援するための講座として実施している。受講料は、1科目あたり500円である。

内容

講座内容は、博物館学、自然史、考古学、近世史、中世史、教育史、近代史、話し方の8科目を2年サイクルで設定している。

1年間に受講できる科目は5科目を上限としている。そのため、全8科目(8単位)取得するため、最短で2年間の受講が必要となっている。受講期限は5年間となっている。

学習評価

1科目あたり2日(回)で実施され、1科目を1ポイントとして、8ポイント取得者に修了証を交付される。

専門講座は、あくまで市民解説員自身の知識を高めるためのものであるため、受講は任意である。

b. 市民解説員特別講座

「市民解説員専門講座」により、市民解説員の知識と技術の向上が図られているものの、円滑な解説活動を行うにあたっては、現在の学習科目と学習内容だけでは補えない学習内容があること、また、市民解説員からのさらなる学習への要望も多いことから「市民解説員特別講座」を実施している。開催日数は1日、受講料は無料である。

平成18年度の講座内容は、これまで、テーマとして取り上げておらず、あきる野の中世とは切り離せない「八王子城址」をテーマとした現地学習が実施された。講師は、市民カレッジ講師でもある東京都立高等学校の教諭が務めた。

本事例のポイント

本事例は、生涯学習に関わる教育サポーターの養成から派遣までを、生涯学習センターの事業として年間の事業計画に基づいて実施しているものである。

市民解説員は、延べ50日以上に及ぶ講習や登録後の約15日に及ぶ専門的な講習の受講が認定の必須条件となっており、充実した研修の実施により市民解説員の資質の確保と向上を図っている。また、市の施設での解説活動や市民カレッジ講座でのアシストなど市民解説員の活動場所が確保されている点が特徴的である。

生涯学習センターが事務局として市民解説員の様々な活動を支える一方、市内探訪や市民解説員発表会等においては、市民解説員が主体となって企画や運営を行う体制となっており、市民解説員の自立化が進み、その結果、市民解説員の主体的な活動がさらに活発化するという成果も見られる。

さらに、市民解説員による運営委員会を設置して活動の協議が行われているほか、市民解説員が一同に会する全体会の開催や、生涯学習センターにおける活動拠点の整備などにより、市民解説員同士の交流・連携が図られ、市民解説員の自発的な活動が円滑に実施されている。

一方、市民解説員の養成のための講座講師の後継者不足や、市民解説員の増加に伴う活動場所・機会の確保等が今後の課題となっており、市民解説員が講師となった市民カレッジ講座の開催など、市民解説員の新たな活動について市民解説員運営委員会との協議が進められている。

2. 『生涯学習支援者バンク事業』

(1) 事業の概要

「市民解説員派遣事業」が専門的な人材の養成・派遣を主とした事業であるのに対して、本事業は、地域に埋もれた個々の知識や技能を生かすことができるように、人材バンク（生涯学習支援者バンク）への登録者を募集し、その情報を広く公開することにより、支援を行える人と支援を希望する人の橋渡しを行うものである。現在の登録者数は148人であり、PTAや児童館等に対して年間約20～30件の派遣が行われている。

制度の名称		生涯学習支援者バンク事業									
教育サポーター呼称		支援者バンク登録者				登録者数	148人				
主体	実施主体	あきる野市教育委員会									
	実施主体の役割	登録受付	登録審査	登録情報管理	利用受付	人材斡旋	活動把握	研修開催	相談受付	その他	
	開始年度	平成14年									
登録	登録要件	年齢20歳以上。市内に在住、在勤、在学している者。社会教育団体等の推薦を受けた者又は自ら登録を希望する者。専門的知識又は技能を有し生涯学習活動の支援に意欲のある者。									
	登録方法	本人の申し出により登録									
	有効期限	2年間	更新条件	登録要件を有すること。更新の意思があること。							
活動	派遣先 :実績あり :実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年教育施設	その他 (児童館)		
	対象としている活動内容 :実績あり :実績なし	学校の授業・部活動での支援		放課後の子どもの活動の指導	社会教育施設の講座での指導	社会教育施設での各種団体の活動の支援		その他			
	登録時の自己申告により決定										
登録する活動分野	登録する活動分野	スポーツレクリエーション	芸術文化	教養生活	趣味娯楽	医療福祉	環境地域	その他			
	登録時の自己申告により決定										
支援	謝金等	【実施主体】保険料の負担のみ 【受入施設】講師の希望により謝金、交通費、食事代、教材費等が必要となる									
	傷害保険	あきる野市の負担で加入，保険料：定額（300円）									

「生涯学習支援者バンク事業」創設の背景・目的

あきる野市では、市総合計画及び教育委員会教育目標に基づき、あきる野市民が生涯を通じていつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができる生涯学習社会の振興に向け、「生涯学習ボランティアの育成」を推進している。

これまで、あきる野市では、平成7年の市町村合併以前、旧秋川市の公民館において、市民講師による講座が開催されていた。また、平成8年からは、あきる野生涯学習センターによる市民解説員の養成講座が実施されており、学習で得た専門的な知識や技能を活かして地域に還元する体制も形成されている。

今後は、地域に埋もれた個々の知識や技能を活かして、社会教育や生涯学習の分野で活動してもらえる人材（生涯学習ボランティア）の登録と活用が必要になっていた。

また、生涯学習ボランティアとして多くの人材を求め広く活動につなぐためには、これまで各施設で把握し、活用してきた人材情報を全庁的に登録し、市民に公開する必要があった。

そこで、平成14年に「あきる野市生涯学習支援者バンク実施要綱」を定め、あきる野市民の生涯学習を支援するため、文化、スポーツ等の分野で専門的知識又は技能を有するものを「生涯学習支援者バンク（以下、「支援者バンク」という。）」に登録し、紹介する事業を開始した。

生涯学習支援者バンクの運営

コーディネーター役となる相談員の配置

支援者バンクでは、青少年体験活動等支援センターと併設して、相談員を1名配置している。相談員は、市民に依頼（元、青少年委員（東京都制度））しており、月・水・金曜日の午後に教育委員会にて相談業務にあっている。相談員には謝金が支給されている。また、相談員が不在の場合は、市教育委員会生涯学習推進課の職員が対応している。

支援者バンク登録者の紹介

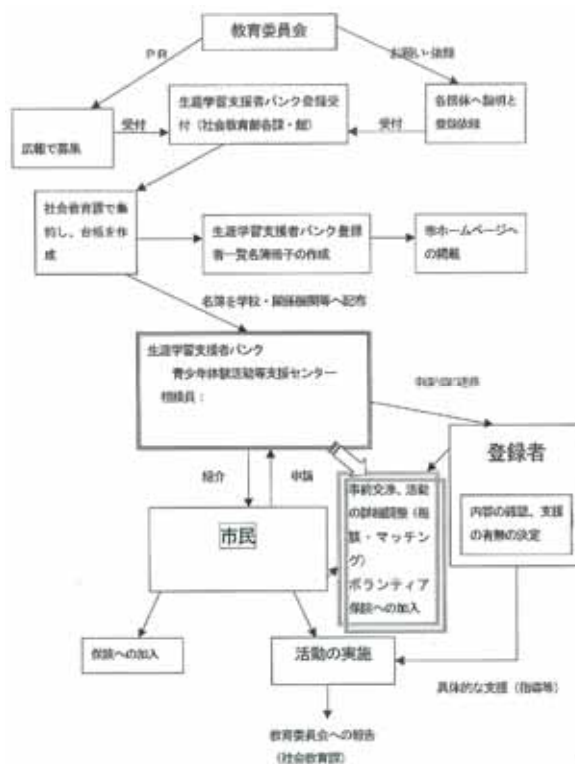
支援者バンクは、市教育委員会から登録者を派遣する形式ではなく、支援者バンクを通じて登録者と支援希望者との橋渡しを行っている。

紹介にあたっては、事前相談を受けた後、相談員が最も適した登録者を選び、登録者に事前交渉の上、概ねの了承が得られた段階で、支援希望者に紹介を行う。その際、支援希望者には、

「生涯学習支援者紹介申請書」を提出してもらう。相談件数は、問い合わせを含め10件/月程度となっている。

紹介する登録者の人選にあたっては、実施日や内容、支援を受ける人数・年齢、また謝礼の要不要・金額等の条件により判断している。

登録者と支援希望者の初顔合わせの時は、相談員が同席し、依頼内容の確認等を行っている。



2回目以降は、相談員は同席せず、具体的な支援内容、謝礼等の調整については、登録者と支援希望者間で行うこととなっている。

これまで、登録者と支援希望者との折り合いがつかないケースは、事前相談、事前交渉等を行っているためほとんどみられないが、日程調整で不成立となる場合がある。

事後評価については、支援事業が終わった後、参加人数や実施状況、参加者の感想などを把握している。また、受入施設から子どもの声などをまとめた活動報告が自主的に提出される場合があり、登録者の活動の励みにもなっている。

また、一度、登録者の紹介を行うと支援者バンクを通さずに直接依頼しているケースも見られ、市からの依頼とスケジュールが競合することもあるものの、支援者バンクの制度がきっかけとなって、生涯学習が活発になってきている結果として捉えられている。

生涯学習支援者バンク登録者の募集・登録

生涯学習支援者バンク登録者（以下、「登録者」という。）の募集は、あきる野市広報の他、文化、スポーツ、町内会・自治会、公民館等の社会教育関係の各団体へ依頼している。

登録希望者は「生涯学習支援者バンク登録申請書兼支援者台帳」を市教育委員会に提出する。必要事項が記入されていれば登録される。登録の有効期間は、登録の日から2年を経過した日の属する年度の末日までとしている。

登録者数は、事業開始初年度に120人の登録があった。その後、広報「教育あきる野（教育委員会）」への掲載やチラシ・ポスターの作成、体育協会理事会でのPR等を行い、最も多い時で160人が登録していた。現在の登録者数は、登録者の高齢化等により若干減少し148人となっている。

登録者の年齢層は60歳代が最も多く59人、次いで70歳代以上が48人、50歳代が20人、40歳代が11人、30歳代が10人である。

生涯学習支援者バンク登録者の情報の提供方法

登録者は、「あきる野市生涯学習 支援者バンク登録者名簿（以下、「登録者名簿」という。）」にプロフィールが掲載される。

登録者名簿には、登録申請書の記載内容から、氏名、住所（字まで）、支援種目、支援対象者、所属団体、支援できる曜日・時間帯、希望地域、希望謝礼、主な活動歴、支援に関する資格が掲載される。登録者名簿の情報は公開しても良いかを登録時・更新時に確認が行われる。また、登録者名簿の更新時には、登録の継続意向や登録内容の確認を行っている。

詳細な住所、電話番号、FAX番号、電子メールアドレス、性別、生年月日は、市教育委員会で管理し一般には公表していない。

登録者名簿は、市内小中学校、町内会・自治会（会長）、市長部局生涯学習関連課、教育委員会各部課、生涯学習推進課各係・各施設、登録者全員、社会教育委員に配布している。また、一般向けに登録者名簿の配布は行っていないものの、市のホームページからPDF形式で閲覧が可能となっている。

また、登録者名簿の内容だけでは具体的にどのような活動が実践できるかわからないことが

ら、平成 17 年には、登録者にカリキュラムを提出してもらい支援相談があったときに活用している。

生涯学習支援者バンク登録者の活動

支援者バンク登録者の活動分野は、体育・スポーツや文化・芸術が多く、そのほか、趣味・生活や健康・レクリエーション等の分野に登録されている。

支援者バンク登録者の紹介件数は平成 19 年度 18 件であり、登録者数（148 人）に対して活動している割合は低い。

利用ニーズは、PTA や児童館からの依頼（昔遊び、化学実験、マジックなど）が多くなっている。学校からの依頼は少ないが PTA 行事には教員が同席することから、

PTA での依頼が増えれば教員の理解が進むことも考えられ、継続的な紹介を実施していくことも必要となっている。

支援者バンク登録者紹介先（件）

紹介先	H16	H17	H18	H19
子供会・PTA	15	20	11	8
小学校	4	3	2	1
中学校	1	1	0	1
青少年健全育成地区委員会	2	1	2	1
児童館	1	2	6	2
その他サークル・団体等	7	4	6	5
計	30	31	27	18

今後の取組意向

今後とも、登録者の募集と利用の周知を図るために、2 年ごとの登録者名簿の発行や広報掲載・ホームページ掲載等を推進するとともに、学校（部活動や総合的学習の時間など）や町内会・自治会等の地域の様々な団体、機関へ登録者名簿の配布と利用・登録呼びかけを行う。

さらに、社会教育関係の各施設を中心に登録者を各事業の講師や協力者として利用してもらえるように依頼を行う。

また、支援者バンク登録者の他、生涯学習指導者、市民解説員、生涯学習の推進に関心のある市民を対象に、あきる野市の生涯学習全体のコーディネーターとなる人材を養成するために、平成 17 年から「生涯学習コーディネーター養成講座」を開始しており、今後はこうしたコーディネーター等により支援者バンク自体を運営していくことについての検討も必要となっている。

本事例のポイント

本事例では、人材バンクの登録者と利用希望者とのマッチングを図る相談員を配置し、人選から初回の顔合わせまでを相談員がコーディネートしている。また、登録者情報も氏名、支援対象者・時間帯、謝礼、活動歴・資格など様々な情報を一般に提供しており、利用希望者のニーズと適合した登録者の紹介が行われている点が特徴的である。

一方、登録者の利用数が伸び悩んでいるほか、利用希望者のニーズにも偏りがみられており、登録者の利用促進を図るための広報の促進や生涯学習コーディネーターによる支援者バンクの運営など、より市民参加による生涯学習を推進するための体制づくりも課題となっている。

7	SA (スタディ・アドバイザー) 制度
地域概要	<p>NPO 法人 ^{むいく} 夢育支援ネットワーク</p> <p>三鷹市の人口は増加傾向にあり、平成 17 年(国勢調査)現在、177,016 人で、65 歳以上人口は 18.0% (31,889 人)を占めている。三鷹市では、平成 18 年4月「三鷹市公立学校における学校運営協議会に関する規則」を施行し、地域住民等がその地域の三鷹市公立学校の運営に積極的に参画することにより、地域住民等の意向を学校の運営に的確に反映し一層地域に開かれた信頼される学校づくりを実現するための取組を始めている。三鷹市立第四小学校のコンセプト・活動実績がその基礎として活かされている。</p>

(1) 事業の概要

<p>本事業は、三鷹市立第四小学校で学習指導の補助を行う人材(スタディ・アドバイザー、以下「SA」という)をNPOがコーディネートを行い派遣するものである。SAは、現役児童の保護者と保護者OB、地域の有志等が中心となって構成しており、学校側の依頼に応じて授業毎に集められている。</p> <p>SAは総合学習や体育、生活、算数など様々な教科で活動しており、教員と一緒に授業に入り、子どもたちの学びをサポートしている。</p>
--

制度の名称		SA (スタディ・アドバイザー) 制度										
教育サポーター呼称		SA (スタディ・アドバイザー)					登録数	87 人				
主体	実施主体	NPO 法人 夢育支援ネットワーク										
	実施主体の役割	登録 受付	登録 審査	登録情 報管理	利用 受付	人材 斡旋	活動 把握	研修 開催	相談 受付	その他		
	開始年度	平成 12 年										
登録	登録要件	NPO 法人夢育支援ネットワークの学習支援活動に積極的に支援・援助を志す。学校の教育活動支援に必要な一般常識を有する。当該学校長の学校経営方針に基づいたボランティア活動を行える。等										
	登録方法	本人の申し出により登録する。										
	有効期限	1 年間	更新条件	本人に更新の意思があること								
活動	派遣先 実績あり 実績なし	小学校	中学校	高等学校	公民館	図書館	博物館	青少年 教育施設	その他			
	対象と している 活動内容 実績あり 実績なし	学校の授業・ 部活動での支援		放課後の子ども の活動の指導		社会教育施設の 講座での指導		社会教育施設で の各種団体の 活動の支援		その他		
	活動内容は登録時に決定せず、教員からの依頼に応じて自主的に判断											
登録する 活動分野	登録する 活動分野	スポーツ レクリエーション	芸術 文化	教養 生活	趣味 娯楽	医療 福祉	環境 地域	その他 (学校支援)				
	活動分野は担任の指導の補助											
支援	謝金等	【実施主体】支給なし【受入施設】支給なし										
	傷害保険	-										

NPO 法人夢育支援ネットワークの概要

a. 夢育支援ネットワークの設立経緯

平成 12 年当時、三鷹市立第四小学校（以下、「三鷹四小」という。）に赴任した校長（貝ノ瀬^{かいのせ}滋氏）が、学校は地域の力なしではやっていけないとの考えから、開かれた学校づくりを目指し、授業を常時公開したり、医師会や商工会等にゲストティーチャーとしてキャリア教育への参加を依頼した。

地域の人もそれまで教える場がなかったが、学校が開放されたことによりサッカーや野球、キッズダンス、点字クラブなど放課後のクラブ活動の指導者として参加するようになった。

また、オリエンテーリングでの安全管理、家庭科の授業でのミシン指導など、学校外での授業や実技の授業における補助スタッフとしても保護者に参加してもらうために、最初は現職 PTA に協力を仰いだ。その中から、自分の子どもが卒業しても活動を続けたいという保護者が OB として残り活動を続けていた。

三鷹四小での活動が活発になると、元々ボランティア活動への意欲を持っていた人が集まり、地域と学校との接点ができる。その中で指導力のある人が SA として教員と一緒に授業に入り学習支援を行うようになった。

その後、三鷹四小のコミュニティスクールのシステムを三鷹市の柱にするため、貝ノ瀬校長が三鷹市教育長になった。それまでは貝ノ瀬校長が中心となって成り立っていたシステムでもあったため、平成 15 年に NPO 法人夢育支援ネットワークを設立し、新しい校長が赴任した時も三鷹四小が地域の NPO 法人と連携して学校を運営している位置づけを明確化して協力を仰ぐようになった。

NPO 法人の設立と合わせ、SA（スタディ・アドバイザー）事務局を設置し、SA 参加者調整は SA 事務局で行う現在の体制となった。

b. 夢育支援ネットワークの運営体制

SA 事務局のスタッフは、地域の有志や SA を 2～3 年経験した現役保護者、保護者 OB（元 PTA 役員）等で構成されている。SA 事務局のスタッフは常駐ではないが、毎週月曜日は全スタッフが集まり、SA 事務局の連絡会を開催している。スタッフには、1 回の出勤に対し、定額 500 円が弁償費用として支払われている。

SA 事務局は、個人・団体有志からの寄附金や法人の支援金等により年間約 70～80 万円の運営費によって維持管理されている。

SA 事務局は、現在の事務局体制になる以前の平成 12 年の活動開始時から三鷹四小の職員室に隣接する空き教室（スタッフルーム）に設置されている。SA 事務局を学校内に設置することにより、SA 依頼や SA 導入授業の急な変更等の情報をリアルタイムで得ることができるとともに、学校側にとっても、トラブル発生時や相談等が必要な場合、SA 事務局と連絡を取りやすい体制となっている。

また、SA 事務局には SA 会員の出入りは自由であり、SA 会員の相談や SA 会員同士の交流、情報交換の場ともなっている。

SA（スタディ・アドバイザー）の募集・登録

夢育支援ネットワークでは、三鷹四小の現役児童の保護者を中心に SA 会員を募集している。

S A会員の登録者は平成 19 年 6 月現在 87 人で、うち現役児童の保護者が 73 人、保護者 OB・シニアが 14 人である。

三鷹四小の保護者は転勤が多いことから、常に新しい S A 会員の募集が行われている。新規登録会員を獲得するために、新一年生や転入生に対して P R 活動を行っている。三鷹四小の保護者会、新入生説明会などを利用して、SA 事務局から夢育支援ネットワークの理念をはじめ、S A の登録方法を説明している。

三鷹四小の現役児童の保護者は、校内の S A 事務局に行けば、その場で登録手続きを行うことができる。保護者が登録する際のスクリーニングは行っていない。ただし S A 制度は、S A と児童、教員、保護者の信頼関係の上に成り立っているものであることから、児童や教員、保護者の批判をしたり、情報を口外したりしないように守秘義務が徹底されている。また、三鷹四小の関係者でない場合は、校長と NPO 事務局長による面接を行っている。

登録手続きには名前、住所、電話番号、メールアドレスの情報が必要となる。登録期間は 1 年間（4 月 1 日～3 月 31 日）であり、年度ごとに会員継続の意思確認を行っている。

S A（スタディ・アドバイザー）の活動

a . S A として授業に入るまでの活動の流れ

学校（教員）側からのボランティア依頼の取りまとめ

学期の始めに、教員から S A 導入授業計画表を S A 事務局に提出し、学期毎のスケジュールをある程度設定している。S A 導入の授業が多い場合には、S A の人数確保のため、日程の再調整を学校側に依頼することもある。

S A 事務局の連絡会が毎週月曜日に開催されており、S A 授業実施の 2 週間前に、教員から依頼用紙が改めて提出される。連絡会では依頼用紙に記された事項（必要人数、授業の内容、支援の内容等）を元に 2 週間後の S A 授業の予定や事前打ち合わせの日程等を決定する。

その他、年度末には、学校と S A 事務局で連絡会を持ち、次年度の学校行事予定を確認したり、S A 懇談会（ b 参照）の日程調整を行うなど年度計画の把握に努めている。

依頼を S A 登録者に配信

会員登録と同時にされるメール配信システムへの登録により、S A 依頼の情報をいち早く S A 会員へ配信する体制となっている。教員からの S A 依頼に応じて全ての会員に日付、学年、教科、時限、依頼内容、事前打合せ日程などが記載されているメールを S A 事務局より一括配信する。募集の締め切りはおおよそ一週間程度である。

S A 会員は登録時に活動内容（教科、学年等）は決めていないことから、教員からの依頼内容に応じて、その都度 S A 会員が参加・不参加を自主的に判断して、その旨を S A 事務局に返信する。

S A 会員から S A 事務局に参加希望が届いた後、希望者を集約し学校側へ伝達する。その際、会員からの質問にも答える等、実際に授業に入るまでのケアも S A 事務局で行っている。

なお、一般の授業の支援には、平均して 4～5 人の S A の参加が必要となっており、必要人数が集まらない時は再度募集を行う。一方、応募人数が多い場合は、ベテラン S A が新人 S A のサポートに廻ることで人材育成を兼ねた人数の調整を行っている。

事前打合せの実施

SA授業が行われる前に教員とSAが顔を合わせる「事前打合せ」を実施する。SAの不安や疑問を解消するだけでなく、教員が必要としている支援内容や活動時の配慮点等を確認しあう場となっている。事前打合せには、SA事務局も参加し授業内容を把握している。

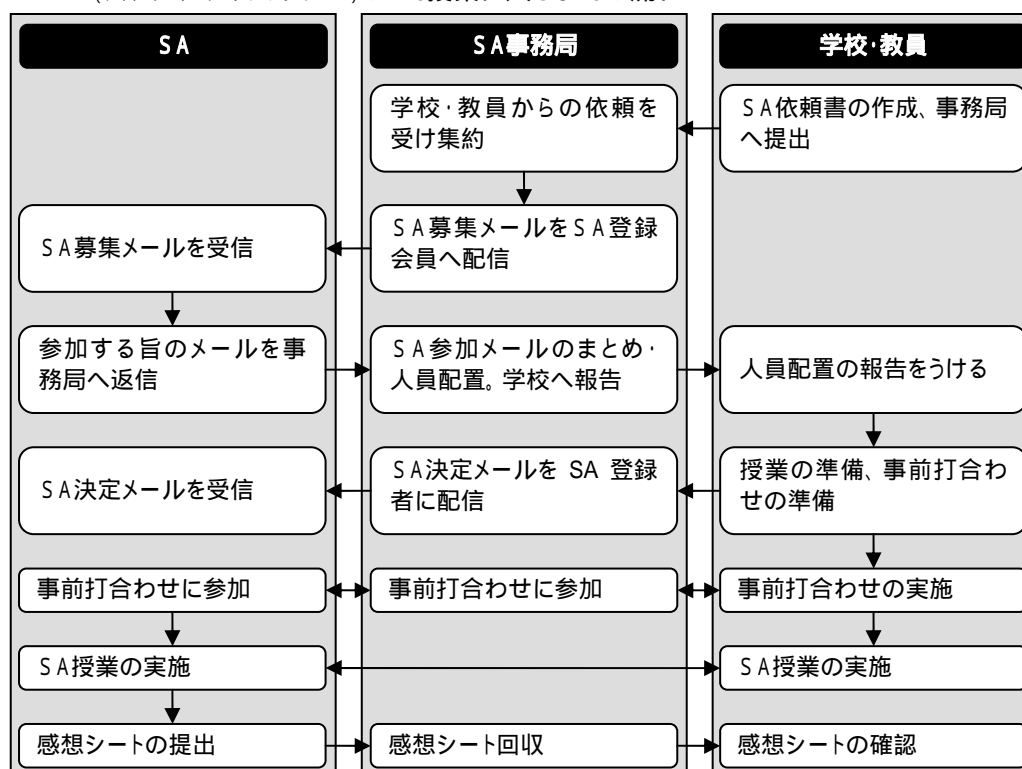
SA授業の実施

SA授業に際して、SAの活動は基本的には教員が仕切るものであるが、様々な場面に対応できるようにベテランSAが他のSAの指導を行っている。これまでの実績から教員とベテランSAの信頼関係が構築されていることから、ベテランSAの存在が教員の負担軽減となっている。

感想シートの提出

SA授業終了後も教員は多忙のため直後の反省会等は行わず、SAが感想シートに授業の反省点や感想を書いてSA事務局に提出する。感想シートには教員からの回答欄があり、次の授業までにSAの記述内容に対して教員からの返事が書かれる。感想シートはSA事務局に整理されている。(閲覧は原則として不可)

図表3-24 SA(スタディ・アドバイザー)として授業に入るまでの流れ



図表3-25 平成19年度1学期SA連携実績: SAの具体的な支援内容

学年	教科	単元	内容	SAの支援内容
3学年	生活	学区域 村エンターリング	班に分かれて地図を頼りに学区域の探検をする	オリエンテーリングのポイントに立つ
3学年	算数	割り算	割り算の熟練と練習	個別支援。丸付け
4学年	算数	わり算筆算	二位数÷一位数、三位数余りあり	わり算の筆算を教える手伝いと支援
6学年	総合学習	キャリア教育：四小カンパニー	商品開発・生産・販売等を実際に行うことで、職業体験を学ぶ	消費者の目線からの助言や商品作成時の安全管理、校外での販売等の付き添い・安全管理
全学年	体育	水泳	水に親しむ、さまざまな泳法を学ぶ	プールでの安全管理。指導の補助

b. S A 懇談会の開催

S A 制度の円滑な活動を図るためには、S A 事務局と教員、S A 同士の信頼関係を構築することが最も重要となっている。そのため、日常的な相談や交流とともに、各主体が意見交換のできる S A 懇談会を学期毎に 1 回実施している。また、S A 懇談会は S A 会員だけでなく、その他の保護者にも広報を行い、興味を持った保護者が参加できるように配慮している。S A 懇談会への参加がきっかけとなり S A 会員となる人もみられる。

図表3-26 S A 懇談会の開催

時期	参加対象	内容
1 学期	教員、S A、事務局	双方の意見・希望の違いの発見、相互理解
2 学期	教員、事務局	S A 側の疑問等を教員に伝える。教員の本音トーク
3 学期	S A、事務局	慰労の意味も含めた感想、次年度の希望

c. S A の養成・資質向上

S A 制度では、OJT (On the Job Training) 的な仕組みで、S A 授業時にベテラン S A が新人 S A を教えることにより人材育成を図っている。

また、三鷹四小のコミュニティスクールの活動を三鷹市全域に普及するため、平成 18 年度には、『S A 育成教材・ベーシック版 (CD-ROM)』の作成と S A 育成講座が開催された。S A 育成講座では、ベーシック版教材で自宅学習を終えた受講者に対し、ベテラン S A による講義研修を行い、引き続き実際に S A 活動をする実技講習が行われた。

現在、S A 会員を対象に特別支援教育に対する人材育成のための「S A 育成講座・ステップアップ版教材」の作成が進められている。

C T (コミュニティ・ティチャー) の活動

夢育支援ネットワークでは、S A 制度のほか、C T (コミュニティ・ティチャー) の活動を実施している。C T は、仕事や趣味、生活経験等で専門知識や技術を持つボランティアとして、総合学習や英語等の時間に『ゲストティーチャー』として活動する。C T としての事前登録は行わず、教員からの依頼に応じて S A 事務局がコーディネートしている。教員が地域の企業や職業人をあまり知らないのに対して、S A 事務局には地域の有志が参加しており地域の人脈を熟知していることから、円滑な C T のコーディネートが可能となっている。

C T として活動している人はシニアや地域の経営者 (三鷹青年会議所等) などである。学校側は、C T になる人材は地域デビューを果たしている人だと安心して使いやすい現状がある。そのためシニアは、シルバー人材センターやロータリークラブ、NPO 法人シニア S O H O 普及サロン・三鷹など、現在でも他の団体で活動している人が多い。

図表3-27 平成 19 年度 C T 実績

月	学年	単元	内容
6 ~ 7 月	6 年	総合学習	三鷹青年会議所が製品の企画・プレゼン等を行う社内会議において、効果的なプレゼンの仕方等をアドバイスする。
随時	全学年	英語活動	広い視聴覚室で歌ったり、踊ったり、様々なゲームを楽しみながら英語を聞き、話す活動を行っている。

S A 制度の課題

新しく赴任してきた教員との信頼関係の構築

三鷹四小では夢育支援ネットワーク（S A事務局）の存在感が大きく、新しく赴任してきた教員にとって夢育支援ネットワークがどのように認識されるかが課題となっている。

そのため、S Aの活動理念や取組内容を理解してもらうとともに、日常的に交流を深め、教員との信頼関係を構築することが重要となっている。

効果の検証

夢育支援ネットワークの活動は、S A会員にとっては楽しく勉強になっており、教員にとっても新しい授業体験ができて指導力の向上も見られる。また、児童もコミュニケーション能力が上がり、明るい、挨拶ができるなどの効果が得られている。

こうした定性的な効果とともに、児童の学力に対する効果の検証が必要となっている。その一つの回答として、平成19年度に実施された全国学力・学習状況調査の結果がある。当該学力テストを受けた児童は、1学年の時からS A授業の取組を体験してきた児童であった。学力テストの結果、他校の例では成績上位と下位の児童に分かれるなどの結果が見られたが、三鷹四小の児童は、成績下位の児童は少なかった。成績上位の児童は塾等の効果もあったと考えられるが、成績下位の児童を出さなかったことがS A制度の効果として大きかったと推察されている。

本事例のポイント

本事例は、学習支援ボランティア（S A）と学校とのコーディネートをNPO法人が行っており、相互の不安や負担を解消するとともに、NPO事務局が三鷹市立第四小学校の職員室に隣接して設置され、教員との連携強化やボランティアの中心である保護者同士の交流が図られている点が特徴的である。

また、NPO法人で会員登録を行うことにより安定的なボランティアの供給が可能となっているほか、ボランティアの募集に際しては、電子メールの活用により全ての会員に一括して募集情報の提供を図るなど機動性の高い運営が行われている。

ボランティアの人材育成はOJT的に学習支援の活動を通してベテランが新人を指導している。また、学期ごとの懇談会を開催し、事務局とボランティア、教員の相互理解に努めるなど、人材のネットワークや信頼関係の構築による円滑な活動の実施が図られている。

一方、NPO法人が組織的に学習支援を行うという他の学校現場ではあまり実績のない取組のため、新しく赴任してきた教員に活動理念や取組内容についての理解を得ることが重要となっている。また、活動開始から8年を経過しており、1学年の時からボランティアの学習支援を受けてきた児童も現れており、取組の効果（児童の学力の向上など）の検証が必要となっている。

3 - 3 . 先進的な事例調査のポイント

先進的な事例へのヒアリング調査の結果をふまえ、「教育サポーター制度」の標準モデルを検討する上で参考となるポイントを整理すると以下のとおりである。

(1) 教育サポーターの登録・派遣

教育サポーターの登録について

a . 教育サポーターの登録

教育サポーターの登録には、専門的な活動内容の人材を養成・登録する場合と、地域の潜在的な人材を発掘し、個々の知識や技能を活かすことができるように人材バンクへ登録する場合とがある。

専門的な人材を登録する場合には、市民の学習活動を企画の面から支援する事例(**鎌ケ谷市**) や自ら企画に関わった市内探訪での解説活動の事例(**あきる野市** 市民解説員、以下「あきる野市」という) など、指導者としての活動にとどまらず、自ら活動を企画できる人材を教育サポーターとして登録している。その際、「まなびいネットワーク養成講座」(**鎌ケ谷市**) や「市民カレッジ人材育成『入門講座』、『解説実習』」(**あきる野市**) など、活動内容に応じた養成講座の受講を登録要件とすることにより、教育サポーターの資質の確保が図られている。

また、教育サポーターの活動が小中学校での学習支援などに限られている場合は、不特定多数の中からの登録ではなく、教員志望の大学生(**川崎市**) や現在通っている子どもの保護者(**三鷹市**) など、受入施設と関連する地域の人材等が登録されている。さらに、この両事例の場合、事務局(NPO) と受入施設(学校) との信頼関係が構築されていることから、事務局で登録した人材に関しては、受入施設側でも安心して活用しやすい連携体制となっている。

地域に埋もれた人材を発掘し、活用する事例(**あきる野市** 生涯学習支援者バンク(以下「あきる野市」という) **栃木県**) では、人々の社会参加・社会貢献等への意欲を重視して、希望者は全員が登録できる形式となっており、生涯学習に関わる幅広い活動分野の人材が登録されている。また、**大阪市** の事例では、幅広い人材を募集しつつも、各分野の講師としての指導資格やこれまでの実績を重視して登録内容に対する書類審査と「登録前講座」を行っており、登録条件は厳しくなっている。その結果、**大阪市** の事例では教育サポーターの指導能力が保たれており、教育サポーターの活用実績は高い。

b . 教育サポーターの認定

教育サポーターの認定に際しては、登録時に市長からの認定証(**鎌ケ谷市**) や事務局からの委嘱状(**川崎市**) が授与されるケースもある。**鎌ケ谷市** の事例では、市長から認定されたことが活動の強い動機づけとなっている反面、他のボランティアとは違うとの自負が強い人もおり、より多くの市民への活動の広がりという点からは問題となる場面もみられている。

c . 登録者情報の内容

登録者情報は、「氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス、学歴、職歴」等の個人情報のほか、登録者の人物を知るための「活動分野・活動内容・活動歴・指導歴、資格、推薦者」等の情報や、活動を依頼するにあたっての条件となる「活動希望日時・指導対象者・希望謝礼の可否」等が登録されている。

d . 登録者情報の管理方法

各事例では、登録時に各登録者から登録者情報公開についての上承を得ており、名簿や情報ネットワークシステム等で管理されている。

名簿は、関係各課や主要公共施設等に配置（鎌ヶ谷市、大阪市、あきる野市）されているほか、紹介対象となっている市民団体にも配布している事例（大阪市）や市のホームページから PDF 形式で入手が可能な事例（あきる野市）もみられる。

また、情報ネットワークシステム上に登録している事例の中には、行政担当者のみ検索ができる「生涯学習情報提供システム」（大阪市）や、一般の人がインターネット上で検索できる「とちぎかがやきネット」（栃木県）や「かまがやまなびいネット」（鎌ヶ谷市）などがあり、広く情報の共有化が図られている。

教育サポーターの派遣について

a . 教育サポーターの依頼・派遣

教育サポーターの依頼・派遣のパターンには、年間スケジュールに基づき活動を行う場合と、利用者からの申請を受けて登録人材が派遣される場合とがある。

年間スケジュールで活動している場合は、公民館事業（鎌ヶ谷市）や生涯学習センター事業（あきる野市）、小中学校での学習支援（川崎市、三鷹市）など、活動内容・活動場所が決まっているものがほとんどであり、教育サポーターの活動機会が確保されている。

利用者の申請に応じて派遣されるケースでは、利用者が事務局に申請し、事務局からの教育サポーターの紹介後に利用者と教育サポーターで直接交渉する方法（大阪市、あきる野市）のほか、特定の教育サポーターを紹介するのではなく、希望分野に関する人材情報を提供して、その中から受入施設が依頼する人物を決める事例（栃木県）もみられる。また、栃木県の事例では「とちぎかがやきネット」上に受入施設がボランティア募集案内を掲載し、関心のある教育サポーターが直接受入施設に連絡して交渉するなど、事務局を介さないマッチングの方法もみられる。

なお、事務局が申請を受けて派遣を行う制度であっても、利用者が前に一度紹介された教育サポーターに事務局を介さず直接依頼してしまうケース（あきる野市）もあり、全ての教育サポーターの活動実績を事務局が把握できない状況も一部にはみられる。

b . 教育サポーターの派遣に際してのマッチング

教育サポーターと受入施設のマッチングは、受入施設（学校長）による面接（川崎市）のほか、教育サポーター毎の活動内容や利用者からの感想等が書かれた「実施報告書」を活用して紹介している事例（大阪市）や、教育サポーターと利用者の初顔合わせの時に事務局が同席して依頼内容の確認等を行っている事例（あきる野市）がみられる。

c . 教育サポーターの派遣に際しての支援

教育サポーター派遣時の活動に対する謝金等については、人材バンク（栃木県、大阪市、あきる野市）では教育サポーターと受入施設・団体等の話し合いで決められている。このうち大阪市の事例では、謝金の上限額（5,000円）が設定されているが、上限を設けるとそれが基準となって謝金が支払われるという問題も認識されている。

また、学生を学習支援で学校に派遣している事例（川崎市）では、1日4時間で3,000円の日当が支払われている。

（2）教育サポーターの資質・能力の確保に関する取組

教育サポーターの適性判断について

教育サポーターとしての適性を判断する際には、活動への意欲が最も重視されており、登録時に適性が判断され登録できない事例は少なく、専門的な知識・技術が必要な場合においても、登録前の研修を実施することにより一定の資質が確保されている。

なお、講座講師を登録する大阪市の事例では、教育サポーターの募集に対して「審査委員会」が指導歴や指導内容、意欲等に関する書類審査を行っており、特に提出書類に講座の具体的な企画を記載させるなど、実践的な指導能力によって適性が判断されている。

また、教員を目指す学生を小中学校で学習支援を行う教育サポーターとして登録する川崎市の事例では、事務局で面談を実施して将来の意向等を含めた適性が判断されるとともに、派遣時にも学校長の面談を受けるなど、書類からだけでは分からない適性が重視されている。

教育サポーターの養成のための「登録前研修」の実施について

a . 登録前研修の実施

教育サポーターとして専門的な知識・技能等を有する人材を養成・登録する場合は、登録前の事前研修（鎌ヶ谷市、大阪市、あきる野市）の受講が登録要件となっている。

研修期間は20日間（鎌ヶ谷市）や55日間（あきる野市）等と長く、市の現状や生涯学習の理解から、それぞれの活動に応じた専門的な学習テーマが扱われている。

また、三鷹市の事例では、特定の学校での学習支援活動の中で、絶えず教育サポーターとしてのあり方や技術等が蓄積されていることから、研修形式ではなくOJT(On the Job Training)的な仕組みで、活動時にベテランが新人を教えることにより人材育成を図っている。

b．登録前研修の学習方法

登録前の研修では、講義形式のほか、演習・実習やグループ討議などを行っている事例（**鎌ヶ谷市、あきる野市**）や、登録予定者（研修受講者）が講師となって一般市民を対象とした講座を行うといった実践的な研修が行われている事例（**大阪市**）もみられる。なお、この**大阪市**の事例は、前述のとおり、登録希望者の選考において指導能力の適性が判断されているために可能となっている研修方法である。

c．登録前研修の講師

登録前研修の講師には、大学教授や高校の教員、元小学校の校長のほか、市の現状や生涯学習に関わるテーマの場合は、市職員が講師として参加する事例（**鎌ヶ谷市、大阪市**）もみられる。また、教育サポーターがそれまでの経験を活かして講師となる事例（**大阪市、あきる野市**）もみられる。

教育サポーターの資質向上のための「登録後研修」の実施について

a．登録後研修の実施

教育サポーターの登録後にも、その資質の維持・向上のための研修が実施されている。研修期間は2～5日間と、登録前研修と比べて短く、参加は任意となっている。

また、**川崎市**の事例では年間5回の研修のうち、1回目を教育サポーターの派遣前に実施し、活動に際しての心構え、児童生徒への接し方、学校運営の概要、学習支援に当たっての留意点等を学ぶ研修として位置づけており、学習テーマに応じて研修開催の時期も考慮されている。

b．登録後研修の学習方法

登録後の研修では講義のほか、グループ討議（**栃木県、鎌ヶ谷市、川崎市、大阪市**）が行われており、教育サポーター同士が日頃の悩みを話し合い、助言を受けることのできる時間が確保されている。また、**大阪市**の事例では、生涯学習推進員（**大阪市**の小学校区を単位とした講座の運営を行う人材）との「交流会」が行われるなど、教育サポーターだけではなく地域が一体となった交流の場も確保されている。

そのほか、特別支援教育に対する人材育成のための「**S A 育成講座・ステップアップ版教材**」の作成が進められている事例（**三鷹市**）にみられるように、教育サポーターが自宅等でも学習できる教材も開発されている。

c．登録後研修の講師

登録後研修の講師には、登録前研修と同様に大学教授や高校教諭、教育サポーターが講師となっているほか、新たな発見や様々な知見が得られるように生涯学習等に関わるNPO法人代表者が講師となっている事例（**鎌ヶ谷市、大阪市**）もみられる。

(3) 教育サポーター制度の実施上の問題点・課題

a. 受入施設単位の教育サポーターの登録の仕組みづくり

地域の様々なスキルを持った人を登録・紹介する人材バンク制度による事例では、活用の低迷や活用ニーズの偏りがみられる一方、特定の目的のために専門的な教育サポーターの登録を行っている事例では一定の活動機会が確保されている。

その特徴的な結果が表れているのが壬生町の事例であり、町で登録した教育サポーターの活用が少なかったために、小中学校が個別に人材バンクを持ったことにより教育サポーターの活動機会が増加している。

こうしたことから、教育サポーター制度の実施にあたっては、都道府県や市町村単位で幅広い人が登録・利用できる人材登録システムに加え、受入施設ごとの人材登録の仕組みづくりなど、活動場所・活動目的を明確化した上での教育サポーターの募集・登録も検討に値する。

b. 教育サポーターの情報交換機会の確保

教育サポーターは、その活動や研修を通じて他の教育サポーターとの交流機会が確保されているものの、人材バンク等においては単独で活動している教育サポーターも多く、教育サポーター同士が連携して発展的な活動を展開する機会は少なくなっている。

こうしたことから、「市民解説員運営委員会」(あきる野市)や「高齢者リーダー協議会」(大阪市)のように、教育サポーター自身が中心となって、教育サポーターの活動を円滑に行うための運営組織を設立したり、事務局と受入施設、教育サポーターで意見交換のできる懇談会(三鷹市)を開催したりすることも重要となる。

また、生涯学習センターの一室が教育サポーターに開放されている事例(あきる野市)や事務局が受入施設(学校)に設置されて教育サポーターの出入りが自由な事例(三鷹市)にみられるように、教育サポーター同士の交流や情報交換を図り活発な活動を支援する上では、教育サポーターの活動拠点の確保も重要なポイントとなる。

c. 教育サポーター制度による活動効果の検証

教育サポーター制度を一層推進していくためには、教育サポーター自身が活動を通じて生きがいや学ぶ喜びを感じられることはもちろんであるが、教育サポーターを受け入れる施設・団体にとっても、教育サポーターを受け入れたことによってどのような効果・成果が期待できるかを明らかにしていくことが重要となる。その場合、定性的な評価のみでなく、例えば三鷹市の事例で児童の学力に対する効果の検証の必要性が指摘されているように、活動内容によっては定量的な効果の検証を行っていくことも今後は必要となるであろう。また、川崎市の事例では、教育サポーターとして活動した学生の川崎市の教員への就職率の向上を望む声も聞かれており、制度の趣旨や目的に照らした成果が得られているかを検証することも重要である。

このように、教育サポーター制度の実施にあたっては、その目的に応じて、適正な効果・成果の検証を行い、その後の教育サポーターの活動内容や活用のあり方等の検討に活かしていくことも重要となる。

先進的事例の総括整理

事例名	栃木県生涯学習ボランティアセンター	学校地域支援ボランティア推進事業	鎌ヶ谷市まなびいネットワーク養成・認定事業
教育施設・登録者数等	生涯学習ボランティア (402人)	子ども支援ボランティア (663人)	まなびいネットワーク (131人)
実施主体	栃木県教育委員会 栃木県総合教育センター	壬生町教育委員会事務局生涯学習課・小中学校	鎌ヶ谷市生涯学習推進センター
受入施設・団体	小学校、中学校、公民館等	小学校、中学校、公民館等	公民館等
開始年度	平成9年	平成12年	平成7年
事業概要	栃木県総合教育センター内に設置された生涯学習ボランティアセンターが人材(生涯学習ボランティア)の登録、情報管理、情報提供、相談等を行う。	各学校のほとんどが独自にボランティアの登録バンクを持ち、学校区という小さな単位で学校とボランティアが直接交渉して、学習支援活動等が行われている。	公民館等において実施される市民の学習活動を企画の面から支援する人材(まなびいネットワーク)を養成・認定する。
事例のポイント	<p>県と教育事務所のネットワーク化</p> <p>栃木県総合教育センター内に設置された生涯学習ボランティアセンターと県内8教育事務所の生涯学習ボランティアセンターとを一体的に機能させてマッチングを行う。</p> <p>「とちぎかがやきネット」による直接交渉</p> <p>生涯学習ボランティア活動支援情報提供システム「とちぎかがやきネット」により、ボランティアと受入側が直接交渉することができる。</p> <p>今後の課題</p> <p>よりきめ細かなコーディネートを行うためには県と市町村との連携を強化するとともに、市町村など地域におけるボランティアセンター機能の整備が課題となっている。</p>	<p>学校毎の登録バンク体制</p> <p>町でボランティア登録者を確保したものの、学校からの受入要請が少ないために、ボランティアと学校関係者の「交流会」を開催した。</p> <p>その結果、今日では町内のほとんどの小中学校が個別にボランティア登録バンクを持ち、学校がボランティアと直接交渉してボランティアの受入を行うようになり、町は学校やボランティアを支援する立場になっている。</p> <p>今後の課題</p> <p>今後さらに「地域密着型」の事業を進めるためには学校と地域双方のボランティア事業に関する意識を高めていくことが重要となっている。</p>	<p>養成講座・スキルアップ講座の充実</p> <p>40時間の講座を修了することを認定の条件とするとともに、認定後も毎年スキルアップ講座を開催し、ネットワークの資質の確保と向上を図っている。</p> <p>さらに市長による認定制度も活動の強い動機づけとして働いて、無報酬ながら様々な事業の企画・運営に積極的に参画している。</p> <p>今後の課題</p> <p>事業の企画・運営だけでなく講師もネットワークが務めたり、あるいは新たな人材の参加を促進しネットワークの裾野を広げるなど、制度の全体的な見直しが課題となっている。</p>

教育活動サポーター配置事業	大阪市生涯学習インストラクターバンク	市民解説員活動推進事業 生涯学習支援者バンク	SA(スタディ・アドバイザー)制度
教育活動サポーター (102人)	生涯学習インストラクター ・高齢者リーダー(608人)	市民解説員(56人) 支援者バンク登録者(148人)	SA(87人)
川崎市総合教育センター カリキュラムセンター	大阪市教育委員会・大阪市 立総合生涯学習センター	あきる野生涯学習センター あきる野市教育委員会	NPO 法人夢育支援ネット ワーク
小学校、中学校	小学校、市民団体等	市内、市施設等 PTA、児童館等	三鷹市立第四小学校
平成16年	平成14年	平成8年 平成14年	平成12年
小中学生の学力向上のための「教育支援サポーター」と特別な教育的ニーズのある児童生徒の支援を行う「特別支援教育サポーター」をNPOが派遣する。	市民団体や小学校で開催される講座に対して講師となる人材(市民ボランティア講師:生涯学習インストラクター、高齢者リーダー)を登録・紹介する。	地域における生涯学習の推進を図るための解説活動を行う人材(市民解説員)を養成・認定・派遣する。 人材バンク登録者の紹介を行う。	三鷹市立第四小学校で学習指導の補助を行う人材(SA)を学区内に事務局が設置されたNPOがコーディネートをを行い派遣する。
<p>教員志望の大学生の派遣派遣されるサポーターが教員になることを目指している大学生等であり、概ね一年間の学校現場でのサポーター活動を通じて教員としての資質、能力等を学ぶことができる貴重な場となっている。</p> <p>学校OBのNPOへの委託川崎市が事業を川崎市の学校長OBらでつくるNPO法人に委託しているため、受入側の小中学校との意思疎通がうまく図られている。</p> <p>今後の課題サポーターとなることを希望する大学生等の確保とともに、育成したサポーターが川崎市の教員となるよう定着率を向上させることが課題となっている。</p>	<p>認定委員会による資格審査市民ボランティア講師の指導資格や指導経験を審査委員会で審査して一定の資質を有した人が選定されている。</p> <p>高齢者リーダーへの支援高齢者リーダーに対しては、総合生涯学習センターで講座開催の相談・アドバイスを行っている。</p> <p>実施報告書の提出利用者や講師に実施報告書の提出を義務づけており、講師紹介時のマッチングの判断やインストラクターバンク事業の紹介・普及に役立っている。</p> <p>今後の課題実際に活動している人は半数程度であり、活動できていない人の活動の場の確保が課題となっている。</p>	<p>市民解説員</p> <p>入門講座・解説実習の実施50日以上以上の講習受講が必須条件となっており、市民解説員の資質確保を図っている。</p> <p>活動場所の確保市施設での解説活動や市民カレッジ講座でのアシストなど活動場所が確保されている。</p> <p>運営委員会の設置市民解説員による運営委員会、全体会の開催等により、交流・連携が図られている。</p> <p>今後の課題講座講師の後継者不足や市民解説員の増加に伴う活動場所の確保が課題となっている。</p> <p>支援者バンク 相談員の配置 人選から顔合わせまでを相談員がコーディネートする。</p> <p>今後の課題利用者数の伸び悩み、ニーズの偏りが課題となっている。</p>	<p>事務局の学校内への設置NPO事務局が三鷹市立第四小学校の職員室に隣接して設置され、教員との連携強化やボランティアの中心である保護者同士の交流が図られている。</p> <p>NPOによる登録・派遣NPOで会員登録を行うことにより安定的なボランティアの供給が可能となっている。</p> <p>OJT的な人材育成ボランティアの人材育成はOJT的に学習支援の活動を通してベテランが新人を指導している。</p> <p>今後の課題新しく赴任してきた教員に活動理念や取組内容についての理解を得ることや、取組の効果(児童の学力の向上など)の検証が必要となっている。</p>

第4章 教育サポーター制度のあり方の検討

4 - 1 .「教育サポーター制度」創設の意義・目的

生涯学習ニーズの多様化と団塊世代を中心とした地域づくりへの課題

国民的な生涯学習意欲の高まりを背景に、人々の学習ニーズも多様化しており、特に近年では、安全・安心への関心の高まりや雇用・就労形態の多様化などに伴い、健康・医療や就業・雇用といった分野における学習活動が活発化するなど、社会の変化に応じたニーズの変化が見られる。

さらに、地方分権の推進や少子・高齢化の進行等を背景に、地域を構成するすべての主体が協働して地域社会を運営し、活性化を図ろうとする「生涯学習によるまちづくり」の取組が各地で進められており、住民主体の地域づくりに向けた一人ひとりの積極的な参加・活躍が期待されている。

こうした中、我が国の高度成長期を支えてきた団塊世代が一斉退職を迎えており、その高い技術力やこれまで培った知識・経験等をいかに地域づくりに活かしていくかが課題となっている。特に団塊世代は、学習意欲や自己啓発意識が他の世代に比べて高く、退職後の地域貢献活動やボランティア活動に対する意欲も高いものの、具体的な社会活動につながっていないといった調査結果もあることから、こうした世代を中心とした生涯学習の循環システムの構築が大きな課題となっている。

各主体の「学び」の連携による地域づくりに向けた国や地方公共団体の取組

こうした流れを受け、国の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」(平成20年2月)では、目指すべき施策の方向性の一つとして、『社会全体の教育力の向上 - 学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり』が提言され、関係者・関係機関が連携するための仕組みづくりの必要性についての指摘がなされている。

また、文部科学省でも、地域住民が主体となり地域ぐるみで子どもを育むための「放課後子どもプラン」を実施するとともに、平成20年度からは、新たに学校等を地域の拠点として社会全体で支援する取組として「学校支援地域本部事業」を推進していく予定となっている。

一方、地方公共団体においては、地域人材の有する知識や技能を活かして学校や地域の社会教育施設等で指導者等として活躍してもらう取組も始まっており、人材バンク等による登録・活用制度を設けている地域も少なくないが、実際の制度運用にあたっては、関係者・関係機関の連携など様々な課題が見られる。

全国的な制度としての「教育サポーター制度」創設の意義

こうした点をふまえると、全国的な制度としての「教育サポーター制度」の創設は、主に以下のような点で意義があるといえる。

個人においては、様々な経験や知識、技術を活かして講師や指導者として活動する機会が得やすくなり、個人の自己実現の機会や社会とのつながりが拡充される。

教育関係機関では、地域人材の受入により児童・生徒や地域住民に対する実践的で多様な教育・学習の提供等が可能になるとともに、教育関係機関の運営の支援となる。

経験や知識、技術を社会で活かすための仕組み(認証や評価など)により、受入機関等の適切なマッチングを支援し、人材の流動化や活動内容の高度化、一定レベルの人材の安定した確保が可能となる。

地方公共団体においては、地域人材の新たな発掘と効果的な活用につながるとともに、教育関係機関の活性化や地域の教育力の向上、共助の意識を高めることが期待される。

4 - 2 . 各地の取組事例にみる人材登録・活用制度の課題

地域人材の登録・活用に係る各地の取組の現状

本調査で実施したアンケートの結果から、実際に地域人材の登録・活用制度に取り組んでいる地方公共団体は少なくないことが明らかとなった。

特に都道府県レベルでは取組が進んでおり、都道府県教育委員会では8割で人材バンク制度が実施されて、知事部局でも6割以上が人材登録・活用制度を設けている。

一方、市区町村での実施率は、教育委員会で約5割、首長部局で4分の1程度であり「かつてはあったが廃止した」教育委員会も若干みられた。

こうした人材バンク制度を設けている地方公共団体の中でも、約半数では「教育サポーター制度」に類する事業に取り組んでおり、特に平成11年度以降創設されたものが多いことから、近年特にこのような取組や制度に対する関心が地方でも高まりつつあることがうかがえる。

各地での取組事例の特徴と課題

「教育サポーター制度」に類する取組を行っている地域では、制度の導入による成果や効果として、「地域の人材を発掘し、把握することができた」点や「学校と地域との交流や連携が深まった」点、「登録者の生きがいづくりや高齢者の居場所づくりにつながった」点などが比較的多く指摘されている。

その一方で、人材バンク制度を作ったはいいが、制度の周知度・認知度が低くあまり活用されない、あるいは登録者が増えないといった声や、特定の登録者や活動分野に依頼が偏ってしまうため、登録者それぞれの持てる技術や知識等が必ずしも活かされていないといった声も多くから聞かれている。

また、活動場所となる学校や社会教育施設等からは、登録された人材の中から、施設側が求める人材像にマッチしたサポーターを探すことが難しいという指摘もあった。

こうした結果をふまえると、全国的に見れば人材バンク制度を設けている地域は少なくないものの、現場ニーズとのマッチングが十分でなかったり、あるいは住民にあまり周知されていなかったりするために十分活用されておらず、活用が進まないために登録者も増えないといった悪循環を抱えている制度が多い実態が浮き彫りとなったといえる。

先進的な取組事例にみるポイント

各地の取組事例の中でも特に先進的な事例では、研修等の受講を登録条件としていたり、登録後も定期的に講習や研修を行うなど、人材の発掘だけでなく登録人材の資質・能力の確保・向上に努めている例が多かった。また、そうした研修や講習を登録者同士の交流の場としても活用することにより、地域人材のネットワーク化が図られ、活発な活動につながっている例もみられた。

こうした登録者の質・量両面での充実によって、多様な派遣ニーズに応えることが可能となるとともに、一定の資質が担保された人材バンクとしての信頼性が高まり、利用促進につながることを期待できる。

4 - 3 . 全国的な制度としての「教育サポーター制度」のあり方

以上をふまえると、今後、全国的な制度として創設する「教育サポーター制度」のあり方としては、大きく以下の4点がポイントとなるであろう。

事前研修による人材の資質の担保

今後、全国的な制度として「教育サポーター制度」を普及させていく上では、何よりも活発な利用を促すことが重要である。そのためには、多様な派遣ニーズに対応できるよう、様々な知識や技能を持つ地域人材を発掘することはもとより、登録前に一定の研修を受講することを登録要件とすることによって、制度としての登録人材の資質の担保を図ることが重要である。

認証・登録によるインセンティブの付与

上記のように登録要件として事前研修を修了した者については、教育サポーターとして「認証」することにより、活動に対する意欲が高まり、より積極的な活動の展開につながることを期待できる。実際に先進的な事例からも、市長からの認証が強いインセンティブとなって無報酬ながら活発な活動につながっている例がみられている。

また、こうした「認証」制度の導入は、教育サポーターを受け入れる施設側にとっても、登録者の一定の水準を保証するものとなり、制度の利用促進を図る上で効果的であるといえる。

コーディネーター等による現場ニーズと活動者の適確なマッチング

制度の活用を促進するためには、いかに現場が求める人材像にマッチした登録者を派遣することができるかがポイントとなる。このため、受入施設や利用者と登録者（教育サポーター）との適確なマッチングを図るための仕組みづくりが不可欠となる。

各地の取組では、実施主体が利用者と登録者の橋渡しをしているケースが多いが、より円滑で適確なマッチングを目指すためには、地域の教育関係機関の実情に精通しており、地域内で多方面に人脈を有する人物を「コーディネーター」を配置することが望ましい。

活動後研修による資質向上と関係者間での情報共有

教育サポーター制度による活動を一過性のものでなく継続的・発展的なものとしていくためには、活動に対する評価・検証や振り返りを行うとともに、定期的に研修や講習会を開催し、登録者の資質向上を図っていくことが重要である。

また、こうした研修・講習会の場を、教育サポーター同士の交流の場としても位置づけることによって、互いの経験や問題・課題とその解決策を共有し、人的ネットワークの広がりや関係者間の連携強化につなげていくことも重要である。

参考 教育サポーター制度に類する取組・活動事例

参考1 授業・活動の補助や施設職員の業務補助に関する外部人材の受入事例

NO	自治体名	受入施設名	教育サポーターの名称/事業・制度名
1	山形県	山形県立博物館	山形県立博物館ボランティア
2	茨城県	茨城県水戸生涯学習センター	おもしろ理科先生
3	栃木県	栃木県総合教育センター	センターボランティアの会
4	静岡県	静岡県立三島北高等学校	多様な人材学習支援員
5	滋賀県	長浜市立北郷里公民館	放課後子供プランコーディネーター
6	京都府	京都府立園部高等学校附属中学校	京の子どもへ夢大使 科学探偵士
7	恵庭市	北海道恵庭市立島松小学校	スポーツふれあい事業三宮恵利子スケート教室
8	北海道 上ノ国町	上ノ国町立滝沢小学校	かみのくにの「達人」(地域の漁業)
9	北海道 南幌町	南幌町公民館	生涯学習サポーター
10	北海道 訓子府町	訓子府町立訓子府小学校	スポーツ指導者
11	北海道 芽室町	芽室町立芽室西小学校	町の匠
12	北海道 中札内村	中札内村立中札内小学校	学校支援ボランティア
13	北海道 別海町	別海町立上春別中学校	
14	青森県 階上町	階上町立登切小学校	登キッズ応援隊
15	岩手県 田野畑村	田野畑村立羅賀小学校	生涯学習指導者
16	秋田県 大館市	秋田県大館市立城西小学校	大館市北鹿新聞社編集部長さん
17	山形県 白鷹町	白鷹町立鮎貝小学校	キャリアアドバイザー
18	福島県 相馬市	相馬市立大野小学校	学校教育活動支援員
19	福島県 桑折町	桑折町立伊達崎小学校	桑折町体験活動ボランティア活動支援センター
20	福島県 下郷町	福島県南会津郡下郷町立檜原小学校	図書ボランティア
21	福島県 只見町	福島県南会津郡只見町立只見中学校	学習支援ボランティア
22	福島県 棚倉町	棚倉町立棚倉中学校	学校支援ボランティア
23	福島県 大熊町	福島県双葉郡大熊町立大熊中学校	学習ボランティア
24	福島県 飯館村	飯館村教育委員会	学力向上アドバイザー
25	茨城県 水戸市	水戸市立軒公民館	あなたも師・達人制度
26	茨城県 日立市	日立市立多賀中学校	理科学習における地域人材(博士)の活用
27	茨城県 古河市	古河市立古河第一小学校	家庭教育学級講師
28	茨城県 取手市	取手市立寺原小学校	手話サークル「あゆみ」
29	茨城県 河内町	河内町中央公民館	かわち学びすと
30	栃木県 宇都宮市	宇都宮市立今泉小学校	英語活動クラブ
31	栃木県 那須烏山市	那須烏山市立七合小学校	スポーツ指導者
32	栃木県 壬生町	栃木県下都賀郡壬生町立丹生生田小学校	子ども科学クラブ
33	栃木県 大平町	大平町立大平南小学校	大竹信雄
34	群馬県 高崎市	高崎市立矢中中学校	言語指導者
35	群馬県 吉井町	吉井町立吉井西小学校	学校ボランティア
36	群馬県 昭和村	昭和村立昭和小学校	学校支援ボランティア
37	埼玉県 越谷市	越谷市新方地区センター・公民館	生涯学習リーダー
38	埼玉県 入間市	埼玉県入間市立武蔵中学校	学校図書館ボランティア
39	埼玉県 鳩ヶ谷市	鳩ヶ谷市立辻小学校	英会話サポーター
40	埼玉県 新座市	新座市立中央公民館	新座市生涯学習ボランティア
41	埼玉県 富士見市	富士見市鶴瀬公民館	市民人材バンク
42	埼玉県 坂戸市	坂戸市立上谷小学校	学校教育支援ボランティア
43	埼玉県 伊奈町	伊奈町公民館	日本文学講師
44	埼玉県 毛呂山町	町立毛呂山中学校	毛呂山町生涯学習ボランティア人材バンク
45	埼玉県 宮代町	宮代町立東小学校	学習支援ボランティア
46	埼玉県 鷲宮町	鷲宮町教育委員会	部活動外部指導者
47	埼玉県 松伏町	松伏町立松伏第二小学校	まつぶし出前講座
48	千葉県 木更津市	木更津市教育委員会	学校支援ボランティア活動推進事業
49	千葉県 習志野市	習志野市教育委員会	学校支援ボランティア

NO	自治体名	受入施設名	教育サポーターの名称/事業・制度名
50	千葉県市原市	千葉県市原市立五井公民館	「まちのせんせい」
51	千葉県八千代市	八千代市立新木戸小学校	環境学習ボランティア
52	千葉県鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷市生涯学習推進センター	まなびいネットワーク
53	千葉県匝瑳市	匝瑳市立野田小学校	学校支援ボランティア
54	千葉県香取市	香取市立佐原中学校	学校支援ボランティア
55	千葉県酒々井町	教育委員会	英語活動ボランティア
56	東京都大田区	大田区立蒲田小学校	英語学習サポーター
57	東京都足立区	足立区立千寿常東小学校	授業支援ボランティア
58	東京都葛飾区	葛飾区立上平井小学校	学校支援ボランティア
59	東京都八王子市	八王子市立第二中学校	オアシスサポーター
60	東京都府中市	府中市生涯学習センター	フラダンス
61	東京都昭島市	昭島市立共成小学校	学習指導補助員
62	東京都調布市	子ども相談学級太陽の子	
63	東京都瑞穂町	瑞穂町立瑞穂第一小学校	サポートティーチャー
64	神奈川県川崎市	川崎市立麻生小学校	
65	神奈川県横須賀市	横須賀市公民館	同修了者
66	神奈川県伊勢原市	伊勢原市立中央公民館	保育ボランティア
67	神奈川県開成町	開成町立文命中学校	学校支援ボランティア
68	神奈川県真鶴町	真鶴町立まなづる小学校	スクールボランティア
69	富山県滑川市	滑川市立寺家小学校	家庭教育サポーター
70	富山県滑川市	滑川市立寺家小学校	家庭教育サポーター
71	長野県岡谷市	岡谷市立小井川小学校	地域教育人材活用事業
72	長野県諏訪市	諏訪市公民館	特になし
73	長野県軽井沢町	軽井沢町中央公民館	先生
74	長野県松川村	松川村立松川小学校	外部講師
75	岐阜県高山市	高山市立日和田小学校	
76	岐阜県多治見市	岐阜県多治見市立陶都中学校	西山史子
77	岐阜県関市	岐阜県関市立下有知中学校	俳句指導
78	岐阜県安八町	名森小学校	少人数指導講師
79	岐阜県富加町	岐阜県加茂郡富加町立富加小学校	学習支援員 (Japanese Teacher Of English)
80	静岡県富士市	富士市立富士中央小学校	ふれあい協力員
81	静岡県下田市	下田市立朝日小学校	
82	静岡県由比町	由比町立由比中学校	
83	愛知県瀬戸市	瀬戸市立東山小学校	学校教育サポーター
84	愛知県半田市	半田市立岩滑小学校	ゲストティーチャー
85	愛知県豊田市	豊田市生涯学習センター崇化館交流館	崇化館地区「地域講師」
86	愛知県江南市	江南市立古知野西公民館	生涯学習講師人材バンク登録者
87	愛知県蟹江町	蟹江町立蟹江小学校	学校支援ボランティア
88	三重県鈴鹿市	鈴鹿市立国府小学校	佐々木之信綱顕彰会顧問
89	三重県熊野市	熊野市民会館及び市内小学校	まちの人材活用事業
90	滋賀県草津市	草津市立山田小学校	読み聞かせサークル「トトロ」
91	京都府宇治市	宇治市生涯学習センター	特になし
92	大阪府大阪市	大阪市立総合生涯学習センター	大阪市生涯学習インストラクター
93	大阪府堺市	堺市立美原地小学校	堺エキスパートキャリア
94	大阪府高槻市	高槻市立竹の内小学校	読書ボランティア
95	大阪府守口市	守口市立守口小学校	指導者人材バンク
96	大阪府河内長野市	河内長野市教育委員会社会教育課	サポート協力員
97	大阪府松原市	松原市立河合小学校	まっ com(まっこむ)
98	大阪府阪南市	阪南市立西鳥取小学校	講師
99	大阪府能勢町	能勢町教育委員会学校教育課	元気な学校づくり総合派遣事業
100	兵庫県洲本市	兵庫県洲本市立洲本第3小学校	ふれあいタイム
101	兵庫県伊丹市	伊丹市立花里小学校	町の先生
102	兵庫県宝塚市	宝塚市教育委員会	2年生の生活科「菊作り」の指導
103	兵庫県三木市	三木市立別所中学校	部活動外部指導者
104	兵庫県高砂市	高砂市立中筋中学校	高砂生涯学習人材バンク登録者
105	兵庫県三田市	三田市中央公民館	生涯学習サポートクラブ(SSC)

NO	自治体名	受入施設名	教育サポーターの名称/事業・制度名
106	奈良県大和高田市	大和高田市立高田中学校	
107	奈良県葛城市	葛城市立白鳳中学校	まちの達人さん
108	和歌山県橋本市	橋本市立応其小学校	堀江千永子
109	島根県隠岐の島町	西郷小学校	社会教育指導者
110	岡山県浅口市	鴨方西小学校	アジサイの会
111	岡山県矢掛町	岡山県小田郡矢掛町立矢掛小学校	まちづくり出前講座
112	岡山県吉備中央町	吉備中央町立竹荘中学校	スクールサポーター
113	広島県安芸高田市	安芸高田市教育委員会学校教育課	教育介助
114	広島県世羅町	世羅町立甲山小学校	ゲストティーチャー
115	山口県下松市	下松中央公民館	趣味教養講師
116	山口県光市	光市立浅江中学校	学校支援ボランティア
117	山口県美祢市	美祢市教育委員会社会教育課	社会教育指導員
118	山口県平生町	平生町立佐賀小学校	きらきら星さん
119	徳島県吉野川市	吉野川市山川公民館	怪傑！講師団
120	香川県高松市	高松市立牟礼公民館	
121	香川県小豆島町	小豆島町立苗羽小学校	学校支援ボランティア
122	愛媛県松山市	愛媛県生涯学習センター	コミュニティーカレッジ講師
123	愛媛県今治市	今治市立常盤小学校	図書ボランティア
124	愛媛県八幡浜市	八幡浜市立松蔭小学校	浜っ子人材バンク
125	高知県佐川町	佐川町立佐川中学校	ティーチャーズヘルパー
126	福岡県北九州市	北九州市立高見中学校	部活外部講師
127	福岡県飯塚市	飯塚市中央公民館	学習支援ボランティア
128	福岡県行橋市	行橋南小学校	アシスタント・ティーチャー
129	福岡県豊前市	中央公民館	中央公民館講座
130	福岡県宗像市	宗像市青少年センター	教育ボランティア
131	福岡県前原市	前原市立前原小学校	糸島地区ボランティア(華道)
132	福岡県宮若市	宮若市立宮田北小学校	パソコンボランティア
133	福岡県粕屋町	福岡県糟屋部粕屋町立粕谷西小学校	人材派遣登録者
134	長崎県川棚町	川棚町立小串小学校	サポートティーチャー(ST)
135	長崎県新上五島町	新上五島町教育委員会	支援者
136	大分県豊後高田市	豊後高田市立河内中学校	河内中教育支援センター教育サポーター
137	宮崎県宮崎市	宮崎市立江平小学校	アカウミガメについて
138	沖縄県那覇市	那覇市立城東小学校	学習支援ボランティア
139	沖縄県多良間村	多良間村立多良間小学校	

1	山形県	事例実施施設名	山形県立博物館
サポーター名称	山形県立博物館ボランティア		
制度名	山形県立博物館ボランティア活用事業		
背景・経緯	展示解説を希望する入館者が増えたこと、生涯教育が盛んに唱えられるようになったことなどから、解説ボランティアの導入を検討し、平成8年から実施するに至った。		
受入時期	平成8年8月		
教育サポーターの属性等	属性:特になし	年齢:限定無し	受入人数:6人
活動期間等	期間: ,回数;通年で実施 場所;山形県立博物館展示室、体験広場、総合案内		
活動内容	展示室での解説、体験活動指導、総合案内		
成果・効果	利用者の満足度の向上		
問題点・課題	曜日による参加人数の調整を行ってはいるが、個々人の都合等により、参加人数に多寡が見られ、均質な解説体制を維持するのが難しい。		

2	茨城県	事例実施施設名	茨城県水戸生涯学習センター
サポーター名称	おもしろ理科先生		
制度名	おもしろ理科先生派遣事業		
背景・経緯	理科離れが懸念されている中、理科への興味・関心を高めるとともに、指導者の生き甲斐づくりを支援していこうということが事業のねらいである。		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:研究所の研究員	年齢:50歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年6月29日 ,回数;1回 場所;小学校体育館		
活動内容	約2時間のおもしろ理科先生の授業として親子学習の講師として派遣した。1時間は、全員を前に演示実験をし後半は、1人1人が実験器具を作り実験を行った。特徴としては、単独の小学校への派遣が多いが、今回は3校の合同開催として実施した。		
成果・効果	子供も保護者も、講座を十分に楽しみ、理科に対する興味・関心が高まった。3校合同で行ったので、異学年だけでなく他校との交流が図られた。		
問題点・課題	今回の講師・講座はよかったが依頼団体の人数が多い時は、コーディネートが難しいところがある。		

3	栃木県	事例実施施設名	栃木県総合教育センター
サポーター名称	センターボランティアの会		
制度名	栃木県生涯学習ボランティアセンター		
背景・経緯	生涯学習部主催の研修修了者としての資質の向上と総合教育センターの施設ボランティアとして、センター生涯学習部の事業を支援の目的として設立		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、主婦など	年齢:60歳代	受入人数:6人
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成20年3月31日 ,回数;12回 場所;栃木県総合教育センター		
活動内容	月一回の学習会、施設開放事業に自主企画として参加、栃木県総合教育センター主催事業の支援(分科会司会、記録等)、施設案内(研修受講生に対する)		
成果・効果	受講生からも好評である		
問題点・課題	会員の高齢化		

4	静岡県	事例実施施設名	静岡県立三島北高等学校
サポーター名称	多様な人材学習支援員		
制度名	学習人材バンク		
背景・経緯	学習の遅れがちな生徒の補習の指導のため静岡県教育委員会の多様な人材学習支援事業を活用することにした。その講師として学習人材バンクから紹介を受けた。		
受入時期	平成 19 年 6 月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:50 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 6 月 11 日～平成 19 年 9 月 24 日 ,回数:9 回(予定)10 月以降も有り 場所;LL 教室		
活動内容	英語 の補充的学習		
成果・効果	低学力の生徒に対して学習習慣、基礎的な英語力の養成のため学習指導を行い、成績欠点者は 1 年生は減少した。		
問題点・課題	担当教員との十分な打合せが必要である。		

5	滋賀県	事例実施施設名	長浜市立北郷里公民館
サポーター名称	放課後子供プランコーディネーター		
制度名	放課後子供プラン推進事業		
背景・経緯	学校外活動の一環として開催している。週休 2 日制に端を発したことは事実であるが、その当時子供は環境に帰すといわれていた。しかし今日では、子供は地域で守り育てるといふ、いわば学校・地域・家庭を見据えたガラス張りの教育体制を進めている。地域もその一助となるために受け入れた。		
受入時期	平成 14 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦(保護者)	年齢:40 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日 ,回数:35 回 場所;長浜市立北郷里公民館、公民館前庭、里山等		
活動内容	料理やものづくりを交えた体験活動を主に、毎週土曜日の午前中公民館の一部屋を開放して活動して頂いている。募集は、小学校でお願いしているがあくまでも子供たちの自主性に任せている。担任の先生の強制はない。毎週の事業内容は、コーディネーターが公民館職員と相談しながら決めて行くのであるが、子ども達が普段から興味を示しているものや、どうしても子ども達に体験して欲しいこと等を無理なくしてカリキュラムを作っていくのである。大人と子ども達が一緒になっておしゃべりする、体験することに意をそそいでいる。		
成果・効果	公民館へ来る子ども達の良き話し相手となったり、あきっぽい子であってもできるだけ集中しやすい雰囲気づくりに気を使うなど、子ども達の内面にまで及ぶ良き相談相手となっている。		
問題点・課題	長浜市のコーディネーターは、他の公民館とかけもちしているため、公民館職員との連絡が密に取れないこともある。また、学校との連携不足によるカリキュラムの片寄りをあげたい。経験不足からか、職員への負担が大きい。		

6	京都府	事例実施施設名	京都府立園部高等学校附属中学校
サポーター名称	京の子どもへ夢大使 科学探偵士		
制度名	京の子どもへ夢大使派遣事業		
背景・経緯	中学 1 年理科で学習する「生物」に関し、生徒の興味関心を高めるため専門家の講義を受けるとともに、研究の一端に触れる機会をつくるため		
受入時期	平成 18 年 7 月		
教育サポーターの属性等	属性:大学助教授(当時)	年齢:40 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 18 年 7 月 5 日 ,回数;1 回 場所;京都大学総合博物館		
活動内容	京都大学総合博物館の講義室において、永益英敏助教授の特別講義「熱帯雨林の調査方法」を受講し、熱帯雨林のさまざまな植物と動物の関係など不思議な生態とその研究の様子について、教えていただく。京都大学総合博物館の標本収蔵庫を永益助教授に案内していただき、収蔵方法や標本の取扱いについて説明を受け、その後自由に標本を取り出して観察する。京都大学総合博物館の展示を見学し、特別講義で説明された「ランピルの森」等の見学を行う。		
成果・効果	熱帯雨林の特徴について、理解を深めることができた。また、幹生花や樹高 70m の木の存在を知り、水に沈む木などを実際に観察することにより、興味関心を高めた。また、受粉に関連して植物と動物との関連や種の多様性について理解を深めた。最先端の調査、研究も現在中学校で学んでいる内容が基礎となっていることに気づいた。また、生徒が自主的に調べた内容を事前に夢大使に伝えておき、それに関連する内容を深めていただけたので、生徒にとっても日常の学習との結びつきが意識できた。研究をするために、標本がどのように集められ、管理されているかということについて理解を深めた。1 つの種でも日本各地で採集されていることや、身近な亀岡市等で採集された標本を見ることによって興味関心が高まった。		
問題点・課題	日常生活の中で興味・関心を維持させていくことやその興味関心を教科の学習によりよく発揮させるには、どのような手立てが有効であるかについて、さらに研究を続けていく必要がある。		

7	恵庭市	事例実施施設名	北海道恵庭市立島松小学校
サポーター名称	スポーツふれあい事業三宮恵利子スケート教室		
制度名			
背景・経緯	「スポーツふれあい事業」案内が市教委よりあり、協議の上、応募して本校が当たった。		
受入時期	平成 19 年 1 月 22 日		
教育サポーターの属性等	属性:元オリンピック選手	年齢:30 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 1 月 22 日 ,回数;1 回 場所;島松スケートリンク・島松小学校		
活動内容	三宮恵利子氏の講義のあと、スケートリンクで実際に三宮氏よりスケートの指導を受けた。指導後、子どもたちと一緒に給食を食べたり、交流をした。		
成果・効果	オリンピック選手からの指導ということで、子供たちの関心・意欲が高まり、その後のスケート指導に役立った。		
問題点・課題			

8	北海道上ノ国町	事例実施施設名	上ノ国町立滝沢小学校
サポーター名称	かみのくいの「達人」(地域の漁業)		
制度名	生涯学習「出前講座」		
背景・経緯	子どもたちのふるさとである上ノ国町滝沢地区にある教育資源の活用を図り、体験的な学習を通して、子供たち一人一人に、実感のある学びを实践するために受け入れるに至った。		
受入時期	平成 18 年 5 月		
教育サポーターの属性等	属性: 漁業師(滝沢地区生涯学習推進会議会員)	年齢: 60 歳代	受入人数: 人
活動期間等	期間: 平成 18 年 5 月 19 日 , 回数: 1 回 場所: 上ノ国町小安在浜		
活動内容	地引き網体験学習		
成果・効果	滝沢地区の基幹産業である漁業に対する興味・関心が高まった。また、各学年に応じた社会科における漁業に対する取り組みに意欲的であった。		
問題点・課題			

9	北海道南幌町	事例実施施設名	南幌町公民館
サポーター名称	生涯学習サポーター		
制度名	生涯学習サポーター		
背景・経緯	ペットボトルを使ったロケットの作成と、それを飛ばす体験講座。教育委員会の社会教育事業「あそびの達人」である。その技術指導ができる人材である。		
受入時期	平成 19 年 7 月		
教育サポーターの属性等	属性: 退職消防職員、主婦(その妻)	年齢: 60 歳代	受入人数: 2 人
活動期間等	期間: 平成 19 年 7 月 12 日 ~ 平成 19 年 7 月 18 日 , 回数: 2 回 場所: 南幌町農村環境改善センターとその駐車場		
活動内容	大きなペットボトル(1人5本)を使って、ロケットを作り、完成したロケットを野外で飛ばしてみる体験の指導をした。(指導はサポーターの2人、教育委員会職員2名が助手)		
成果・効果	ロケット作成の技術を習得しているサポーター講師だったので子どもやその保護者たちも大変喜んでくれた。		
問題点・課題	大きな問題は特に無し。但し、炭酸飲料の入っていたペットボトルを集めることに苦労している。		

10	北海道訓子府町	事例実施施設名	訓子府町立訓子府小学校
サポーター名称	スポーツ指導者		
制度名	地域スポーツ指導者派遣事業		
背景・経緯	平成 7 年より教育委員会社会教育課の事業として実施。学校の体育授業にスポーツ指導者を派遣することによって、子どもたちの更なる意欲を喚起し、地域の教育力の向上を目的としている。学校は、水泳・スキーの専門的な技術を要する学習において派遣依頼を行った。		
受入時期	平成 19 年 6 月		
教育サポーターの属性等	属性: 主婦、町水泳指導員	年齢: 40 歳代	受入人数: 1 人
活動期間等	期間: 平成 19 年 6 月 14 日 ~ 平成 19 年 9 月 14 日 , 回数: 24 回 場所: 温水プール「KAPPA」		
活動内容	各学年の水泳学習に合わせて実施。児童の実態や課題に応じてグループ編成を行い、そのうちの一つのグループの指導を実施する。		
成果・効果	指導方法の改善。協力教授のあり方。児童へのきめ細やかな指導の展開。		
問題点・課題	特になし		

11	北海道芽室町	事例実施施設名	芽室町立芽室西小学校
サポーター名称	町の匠		
制度名	芽室町地域指導者登録制度		
背景・経緯	「日本文化クラブ」の活動として茶道、生け花を実施する際に、子どもたちに生の体験をさせるために専門的な指導者が必要となり、本町の指導者登録制度に人材依頼をしたもの。		
受入時期	平成18年7月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦(地域住民)	年齢:60歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間: ,回数:4回 場所:芽室町中央公民館		
活動内容	茶道、生け花についての歴史等について説明を受けるとともに、礼儀、マナー、作法について指導を受け個々に体験してみた。		
成果・効果	子どもの活動への興味関心が大いに高まった。日本の文化のよさを生の体験を通して感じる事ができた。		
問題点・課題			

12	北海道中札内村	事例実施施設名	中札内村立中札内小学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	学校支援ボランティア		
背景・経緯	農園活動の経験豊富、児童の指導経験有り		
受入時期	平成18年6月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:60歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成18年6月10日～平成18年9月20日 ,回数:4回 場所:学校農園		
活動内容	畑を耕し、作物にあっとうね作り 作物の種や苗を植える活動 作物に応じた栽培について指導 作物の収穫		
成果・効果	サポーターの方の栽培に関する豊富な指導経験から、児童は生きた知識・知恵を学ぶことができた。また、日常の世話の大切さを継続的に指導されたことで、作物の育ちを実感することができた。		
問題点・課題	特になし		

13	北海道別海町	事例実施施設名	別海町立上春別中学校
サポーター名称			
制度名	学校応援ボランティア		
背景・経緯	「総合的な学習の時間」の中で、福祉の分野で、課題設定を行うにあたり、生徒の興味関心を促すよう実際に地域の方にお話しをしていただきたいと考え、設置した。		
受入時期	平成19年2月		
教育サポーターの属性等	属性:元獣医、現在鍼灸師	年齢:70歳代	受入人数: 人
活動期間等	期間:平成19年2月28日 ,回数:1回 場所:上春別中学校音楽室		
活動内容	「見えなくてもできること、見えないってどんなこと？」をテーマに講演していただいた。内容は、障害者に対して具体的にどう接し何が出来るかを学習した。		
成果・効果	福祉の中で、障害者に対する意識が変わり、前向きに物を考え始めるようになった。		
問題点・課題	全体的にサポーターの人数が少なく、選考の幅が少ないこと。		

14	青森県階上町	事例実施施設名	階上町立登切小学校
サポーター名称	登キッズ応援隊		
制度名	登キッズ応援隊		
背景・経緯	総合的な学習及び生活科での畑作業に地域の古老のアドバイスを受け、しっかり作業ができるように工夫した。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:地域の古老(婦人会・敬老会)	年齢:60~70歳代	受入人数:20人
活動期間等	期間:平成19年5月~平成19年12月,回数;会議1回 活動月一回程度 場所;学校農園		
活動内容	5月 登キッズ応援隊組織、作物選びのアドバイス・畑づくり 6月~10月 世話についてのアドバイス 10月 収穫と料理方法のアドバイス 11月 収穫祭・パーティー		
成果・効果	児童の意欲が高まった。		
問題点・課題	特になし		

15	岩手県田野畑村	事例実施施設名	田野畑村立羅賀小学校
サポーター名称	生涯学習指導者		
制度名	生涯学習電話相談「マナビコール」		
背景・経緯	学区にある地層は地質学、化石等において、貴重な価値を有している。地層の存在については知っている児童や保護者にその地層の持つ価値を正しく理解してもらうために、より専門的な知識を有している方に解説してもらうことにした。		
受入時期	平成19年7月		
教育サポーターの属性等	属性:公務員	年齢:30歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年7月20日,回数;1回 場所;学区内の地層郡が観察できる場所		
活動内容	田野畑村の地形の特徴、地層のでき方、この地域の地層の特徴と学術的な価値について、現地観察会で解説していただいた。		
成果・効果	専門的な内容や村域全体と学区の地形、地層との比較などをわかりやすくかつ、具体的な地名なども示しながら解説していただき、参加者に新たな感動を与えることができた。		
問題点・課題	特になし		

16	秋田県大館市	事例実施施設名	秋田県大館市立城西小学校
サポーター名称	大館市北鹿新聞社編集部長さん		
制度名	大館市人材バンク		
背景・経緯	昨年度も指導していただき大変効果的であったため		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:一般企業(新聞社) 編集部長さん	年齢:40歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年6月,回数;1回 場所;大館市立白西小学校		
活動内容	小学校4年生国語科「新聞記者になろう」の単元において新聞の書き方やその意義について専門的な視点から指導いただきたい。当日は新聞記事や様々な種類の新聞を参考に具体的な指導をいただいた。		
成果・効果	普段は聞くことができない新聞記事の書き方やルールについて専門的な視点から指導をいただき子ども達の参考になった。		
問題点・課題			

17	山形県白鷹町	事例実施施設名	白鷹町立鮎貝小学校
サポーター名称	キャリアアドバイザー		
制度名	キャリアアドバイザー制度		
背景・経緯	平成16年から文部科学省から本白鷹町が3年間、キャリア教育の指定を受けた。各教科の充実のみならず望ましい勤労観、職業観の育成を中心に、夢、生き甲斐追求の姿勢を共通理解の活動にしながら町内の各種団体の長の参加を得て推進会議を行い小中の連携を図りながら学校の実情に応じ、様々な分野で活躍している人をキャリアアドバイザーに登録し、各学校の授業に活用させていただく。		
受入時期	平成16年4月～平成19年(年度)		
教育サポーターの属性等	属性:看板店主、校医、元保育園長、農業、消防団長、その他	年齢:20～60歳代	受入人数:4～5人
活動期間等	期間:平成19年5月13日,回数:1回,場所:本校6年生教室		
活動内容	以下の内容を講話いただいた(旅行業に務めている方から) 自分の夢と旅行のつながりについて 取組んでいる仕事の中身について…商品の販売と営業。コースの作成と手配。添乗。 仕事をしての喜び(出会い、感謝)悲しみ、つらさ 信頼関係の大切さについて		
成果・効果	修学旅行を目前にひかえた6年生にとって旅行業に携わる方の話を直接聞くことは大変興味深く仕事に対しての見方、考え方を広げることができた。仕事に対しての夢や希望をもつことができた。		
問題点・課題	4年目となるので特に問題はなかった。		

18	福島県相馬市	事例実施施設名	相馬市立大野小学校
サポーター名称	学校教育活動支援員		
制度名	特別非常勤講師		
背景・経緯	4年生の社会科の郷土学習(地理の堤等)において歴史的な経緯など専門的な内容について学ばせる必要があり、郷土史研究家を招き、現地学習の充実化を図った。		
受入時期	平成19年11月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年4月1日～平成18年12月,回数:3回,場所:学校区内		
活動内容	校内区の堤(代表する)の現地学習 昔の土木工事の説明と実体験学習 堤にかかわる昔の人々の労苦や願いと今日のかかわりについての学習。		
成果・効果	堤づくりの実体験学習などもしていただき興味深く意欲的かつ、実感体験を伴う学習を展開していただき効果的であった。		
問題点・課題	学校が願う人物(サポーター)との月程調査(移動用バスの確保も含めて)		

19	福島県桑折町	事例実施施設名	桑折町立伊達崎小学校
サポーター名称	桑折町体験活動ボランティア活動支援センター		
制度名			
背景・経緯	道徳の授業の充実を図るため「心の先生」として授業者の補助をしてもらうため。		
受入時期	平成19、平成18年		
教育サポーターの属性等	属性:助産婦	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年6月～平成19年2月,回数:5回 場所:各学年教室		
活動内容	命という詩をもとに命について話し合い、聴診器などを使って心臓の音を聞きあった。また、資料として持ってきていただいた本の読み聞かせもあった。 自分達の身近にも障害を持ちながら力強く生きている人々がいることを話してもらった。 アイマスクを使って、視覚障害の方への補助の仕方を体験させてもらう。		
成果・効果	命の大切さや生きる力について心に響くものがあり、改めて子ども達は生命、生きることの大切さについて考える機会になった。		
問題点・課題	派遣者との打ち合わせをする時間がなかなか取れないため授業の流れを補助する方に十分伝えることができない時があった。		

20	福島県下郷町	事例実施施設名	福島県南会津郡下郷町立榎原小学校
サポーター名称	図書ボランティア		
制度名	学校図書館ボランティア		
背景・経緯	読み聞かせで協力いただいたことや図書室の図書の整理、補習を手伝っていただきたい旨の各校から上がり、町教委で制度を立ち上げ、各小中学校への受け入れ希望がとられた。		
受入時期	平成14年5月～今年度		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、退職公務員、主婦	年齢:70歳代	受入人数:9人
活動期間等	期間:平成19年5月29日～平成20年3月24日,回数:9回(授業でも年2回ほど入る) 場所;主として図書室、ワークショップ時は教室、授業も教室にて		
活動内容	読み聞かせ…昼休み図書室にて2～3名のボランティアが協力して実施 国語の朗読…「かさこじぞう」「スーホの白い馬」など担任とT.Tを組み、朗読をしていただいた 図書の補習…傷んだ図書の補習や新しい図書のラベル貼りなどに協力していただいた。		
成果・効果	児童の朗読中の真剣さが普段と違い大変すばらしかった。 読書意欲も高まり、図書を借りる児童が増えた(読み聞かせから) 手入れ不十分の図書がきれいに補習整理された。		
問題点・課題	初めは学校の受け入れの際、ボランティアの方々の気持ちに十分応えられず行き違いがあったが、おいでになった時の懇談や学校行事へのご招待などを通じて学校教育活動への理解が深まり、協力の姿勢が強くなった。なお、よりよい支援のため読み聞かせにワークショップを取り入れる等により児童の反応も良く意欲も高まった。		

21	福島県只見町	事例実施施設名	福島県南会津郡只見町立只見中学校
サポーター名称	学習支援ボランティア		
制度名	福島県体験活動ボランティア推進センター		
背景・経緯	生活文化部の活動で地元在住で専門的知識・技能を持ち、生徒達に具体的な指導のできる方を探した。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:元会社員	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年5月14日,回数:月2回のペースで,場所:多目的スペース		
活動内容	只見町立只見中学校3年に対する木彫作品の作成指導		
成果・効果	本校教員では指導できない専門的な技術を指導していただいた。		
問題点・課題	時間等についてさらに打ち合わせを密にしたい。		

22	福島県棚倉町	事例実施施設名	棚倉町立棚倉中学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	棚倉町立学校、PTA人材バンク		
背景・経緯	5学年で総合的な学習の一環として米作りを行っている。担任教師は米作りについて教材研究をして、児童に対して指導するが、田植えや稲刈りを実際に体験している教師は少ない。そこで教育サポーターの力を借りて子どもたちへの田植え等の指導を具体的かつ適切に行うことができるようにと受け入れをすることになった。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者	年齢:40歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成19年5月23日～平成19年5月23日,回数:1回,場所:学校田		
活動内容	米作りに関する知識の伝達 田植えに関する準備 田植えの指導 今後の手入れについて		
成果・効果	農業を専門にやっている方の体験に基づいた指導を受けることにより田植えがスムーズに進み、子どもたちの意欲や学習後の充実感が大きなものとなった。		
問題点・課題	お世話になりながらお礼については子どもの手紙等になっており謝金等についてはなしになっているのが心苦しい面もある。		

23	福島県大熊町	事例実施施設名	福島県双葉郡大熊町立大熊中学校	
サポーター名称	学習ボランティア			
制度名	大熊町青少年活動・ボランティア洲新センター			
背景・経緯	大熊中学校PTAでは夏季休業中の3年間、1年生から3年生の希望者を募って「がんばろうセミナー」を実施している。このPTA学習支援事業の講師を町青少年体験活動・ボランティア推進センターに派遣申請をしたところ、学習ボランティアに登録してある東京電力(株)社員がボランティア休暇をとってきてくれた。			
受入時期	平成19年8月			
教育サポーターの属性等	属性:東京電力(株)社員	年齢:30歳代	受入人数:7人	
活動期間等	期間:平成19年8月6日~平成19年8月8日,回数;3回 場所;大熊村農村環境改善センター			
活動内容	講師の得意分野(教科)に質問のある生徒が来て学習の援助をしてもらった。また自分で学習を進めている生徒にも声をかけてもらいわからないところのアドバイスをもらった。			
成果・効果	3日間で学力が一気に向上することはないが、このことをきっかけにして自分で学習を進める力や分からないところがあればどんどん質問して解決していく力が身についた。			
問題点・課題	指導して欲しい教科の講師の人数がちょうどうまく来てくれるとは限らない。またまったくのボランティアというよりは交通費ぐらいは出したほうがよいのではないかという声もある。			

24	福島県飯館村	事例実施施設名	飯館村教育委員会	
サポーター名称	学力向上アドバイザー			
制度名	学力向上アドバイザー派遣事業			
背景・経緯	中学校生徒の基礎学力(数学)の向上のため			
受入時期	平成19年4月			
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:60歳代	受入人数:1人	
活動期間等	期間:平成18年4月1日~平成20年3月31日,回数;年間 場所;中学校(1校)			
活動内容				
成果・効果	数学の授業のTTとして入り、授業に遅れぎみの生徒に対し、助言を行っている。			
問題点・課題	特になし			

25	茨城県水戸市	事例実施施設名	水戸市立軒公民館	
サポーター名称	あなたも師・達人制度			
制度名				
背景・経緯				
受入時期				
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:	受入人数: 人	
活動期間等	期間: ,回数: ,場所;			
活動内容				
成果・効果				
問題点・課題				

26	茨城県日立市	事例実施施設名	日立市立多賀中学校
サポーター名称	理科学習における地域人材(博士)の活用		
制度名	教育ボランティア		
背景・経緯	一貫したエネルギーや環境について生徒への十分な指導が困難であったが日立市教育委員会から博士の資格を持つ方々に補助指導を受けてはとの助言があった。市では18年度から理科を中心とする博士活用の教育ボランティアが登録されていたため、お願いすることとした。		
受入時期	平成18年6月		
教育サポーターの属性等	属性:日立製作所日立研究所を退職した方々	年齢:60歳代	受入人数:2~3人
活動期間等	期間:平成18年6月5日~平成18年12月7日,回数:13回 場所:日立市立多賀中学校理科室		
活動内容	気象の変化と水の特異性の話をもとにした地球環境について エネルギーと環境(炭素社会と水素社会) 燃料電池の実験(燃料電池の原理) 「暮らしとエネルギー」をテーマにして6種類の実験 「暮らしとエネルギー」をテーマにして5種類の実験 7つのエネルギークイズ・7つの環境クイズ エネルギーと環境保全について総括的に資源の有効利用をするには		
成果・効果	事前打ち合わせを外部講師と綿密に行い、TTにおける役割分担、指導内容の検討、講義や実験の内容確認ができ、生徒の「環境」への関心を高め、環境保全についての認識を深めることができた。豊富な映像資料や身近な材料による実験の方法や形態の工夫、環境クイズの導入などにより生徒の興味関心が高まった。必須授業では全学級、選択では3コースの授業について講師と授業の打ち合わせをすることにより生徒の環境保全の認識が深まった。		
問題点・課題	打ち合わせの時間の確保、実験の材料費の確保について、選択理科の方が必須理科より指導計画や指導内容に柔軟性を持たせるには困難が少ない。		

27	茨城県古河市	事例実施施設名	古河市立古河第一小学校
サポーター名称	家庭教育学級講師		
制度名	なし		
背景・経緯	前年度も実施し、好評であり、保護者の要望が多かった。		
受入時期	平成18年12月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者	年齢:40歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年12月11日,回数:1回,場所:古河第一小学校会議室		
活動内容	ポーセラーツ教室を開催し、テーブルウエアを作成した。インストラクターとして教育サポーターの方に来ていただいた。		
成果・効果	「子どもが成長するにつれて仕事に就くお母さん方が増えて平日の企画への参加率が低い、同じ年代の子どもをもつ親同士で情報を交換したり悩みを相談したり、一つの活動を通して有意義だと思う」との感想があった。		
問題点・課題	特になし		

28	茨城県取手市	事例実施施設名	取手市立寺原小学校
サポーター名称	手話サークル「あゆみ」		
制度名	学習ボランティア		
背景・経緯	総合的な学習の時間における福祉体験活動の一環として手話についてお話を伺い簡単な手話の練習などの体験を通して豊かな心を育むとともに課題解決へ向けての契機とする。		
受入時期	平成18年12月		
教育サポーターの属性等	属性:退職公務員、主婦など	年齢:50歳代	受入人数:6人
活動期間等	期間:平成12月20日,回数:2回,場所:取手市立寺原小学校集会室		
活動内容	手話についてのお話を伺う。簡単な手話の練習を行う。活動の感想をまとめる。学習ファイルにまとめる。		
成果・効果	聴覚に障害を持つ方の手話の意義についてお話を伺いコミュニケーション手段としての手話により世界が広がることを知った子どもたちは、意欲的に手話の練習に取組み実践していこうとする意欲が高まった。また手話以外の点字等への関心が広まり、福祉問題に対する学習の契機となった。		
問題点・課題	特になし		

29	茨城県河内町	事例実施施設名	河内町中央公民館
サポーター名称	かわち学びすと		
制度名	かわち学びすと事業		
背景・経緯	図書委員である中学生が小学生に「読み書きかせ」をする際のポイント等教えてもらうために講師を受け入れた。		
受入時期	平成19年7月23日		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年7月23日,回数:1回 場所:金江津中学校		
活動内容	生徒の読み聞かせの方法などについてアドバイス、注意点などを教える。		
成果・効果	生徒1人1人に丁寧にアドバイスを頂き、自信が付き、やる気がでた。		
問題点・課題			

30	栃木県宇都宮市	事例実施施設名	宇都宮市立今泉小学校
サポーター名称	英語活動クラブ		
制度名	街の先生、活動事業		
背景・経緯	総合的な学習で英語活動を行うにあたり、海外生活経験のある方などの中からサポーターを受け入れることになった。		
受入時期	平成19年11月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:30歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年4月1日~平成19年3月31日,回数:6回 場所:教室		
活動内容	英語を使ったゲーム、歌、体を動かすゲーム 簡単な英会話 英語圏の国々の文化		
成果・効果	子どもたちが興味関心をもって活動することができた。英語に関する興味を高めることができた。基本的な英会話を身につけることだできた。		
問題点・課題	特になし 事前の打ち合わせもスムーズにできた。		

31	栃木県那須烏山市	事例実施施設名	那須烏山市立七合小学校
サポーター名称	スポーツ指導者		
制度名	生涯学習ボランティア		
背景・経緯	児童に様々なスポーツを体験したいという希望があるが、用具類も含めて学校での対応が困難であった。そこで市でニュースポーツの指導をされている方々を派遣していただくことにした。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員等	年齢:60歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:平成19年5月~平成19年6月,回数:2回 場所:校庭・体育館		
活動内容	本年度はグラウンドゴルフ・ティーボールの指導をしていただいた。用具の準備を含めルールの説明、ゲームなどを通して各種ニュースポーツを体験した。		
成果・効果	普段、体験することのできないスポーツにふれ、意欲的に活動していた。用具の準備やゲーム等で協力し合い、楽しく活動していた。		
問題点・課題	特になし		

32	栃木県壬生町	事例実施施設名	栃木県下都賀郡壬生町立丹生生田小学校
サポーター名称	子ども科学クラブ		
制度名	学校地域支援ボランティア推進事業		
背景・経緯	町教委のリストの登録者 ボランティアと学校職員を対象とした研修を通して活動プログラム等を知ることができた。 学校区内に在住している。 元PTA会長 学校教育に十分理解をしている方。		
受入時期	平成 19 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:元化学関係の企業経営者	年齢:60 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月 ,回数;11 回 場所;学校(理科室等)		
活動内容	放課後 1 時間程度 指導者が準備した(プログラム)実験を児童が行う。子どもたちにとっては授業とは違った興味ある実験ができるため楽しみにしている。 他に、12 月ごろに星を見る集いを学校屋上にて開催。		
成果・効果	子どもたちの理科への関心が高まった。 指導者は子どもたちとの関わりを楽しみにしており、やりがいを感じている。		
問題点・課題	教材費の負担をかけてしまっている。		

33	栃木県大平町	事例実施施設名	大平町立大平南小学校
サポーター名称	大竹信雄		
制度名	学校支援ボランティア活動		
背景・経緯	内発的意欲に基づく体験活動は児童にとって自己の課題解決を図るだけでなく、自主性や積極性を伸ばすことにつながる。また、地域の指導者から教えていただくことは地域を理解するだけでなく、地域の方との温かい人間関係作りに寄与するものであることから本校では「サマーチャレンジ」と題した体験活動を実施している。本教育サポーターは、本活動の中の一つとして指導していただいている方である。		
受入時期	平成 18 年 7 月		
教育サポーターの属性等	属性:大平陶芸会所属	年齢:60 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 7 月 26 日～平成 19 年 7 月 27 日 ,回数;2 回 場所;小学校の図工室		
活動内容	焼き物用粘土とロクロを使っでの成型活動		
成果・効果	焼き物は児童にとって初めての経験であったが教えていただいたことで達成感や有益感十分満足いくものであった。		
問題点・課題	作品が完成するまでにはいくつも過程を経るがその期間内に全ての児童が参加することは難しい。		

34	群馬県高崎市	事例実施施設名	高崎市立矢中中学校
サポーター名称	言語指導者		
制度名	言語指導者派遣事業		
背景・経緯	本校の 1 年には中国、インドネシア、フィリピンからの帰国子女 3 名があり、日本語がよく分からず授業についていけない。またクラスに溶け込めず、孤立しがちな状況であった。その為、それぞれの母国語の分かる人に言語指導者として日本語の指導及び授業の補助をお願いすることにした。		
受入時期	平成 19 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:40、30 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月 ,回数;週 2 回または 1 回 場所;教育相談室、会議室等		
活動内容			
成果・効果	言語能力がすばらしく向上しており授業も理解できるようになってきている。日本の文化やきまりについても理解し、守るようになり、クラスに溶け込めるようになった。		
問題点・課題			

35	群馬県吉井町	事例実施施設名	吉井町立吉井西小学校
サポーター名称	学校ボランティア		
制度名	西小学校支援センター		
背景・経緯	平成18年度に県指定による学校支援センター運営推進事業モデル校となった。これ以前の図書ボランティア等の伝統を基盤にボランティアの充実を図った。		
受入時期	平成18年4月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者、地域住民	年齢:30~70歳代	受入人数:400人
活動期間等	期間: ,回数; 場所;		
活動内容	図書ボランティア20名 環境整備ボランティア25名 パトロールボランティア200名 学校支援ボランティア78名 農業ボランティア5名 引率ボランティア48名 読み聞かせボランティア27名		
成果・効果	授業の充実、環境の整備充実、安全の確保		
問題点・課題	実践の次年度への継続充実		

36	群馬県昭和村	事例実施施設名	昭和村立昭和小学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	学校支援ボランティアセンター		
背景・経緯	職場体験を通して働くことや活動することの喜びや仕事の大変さを理解し自分の生き方について考えるための一助とし、進路選択の力を育てたい。 地域社会の中で活動することにより、色々な人々との関わりの中で自分達が生きていることを理解し、社会の一員の認識を深め、今の自分のあり方を見直し、これからの生活の充実を図る。		
受入時期	平成18年11月		
教育サポーターの属性等	属性:村内の事務所	年齢:	受入人数: 人
活動期間等	期間:平成18年11月7日~平成11年11月10日 ,回数;4回 場所;各事業所		
活動内容	各職場ごとに中学生1~3名程度を受け入れ、その事業所で仕事の体験をさせる。		
成果・効果	生徒が自分の学校生活のあり方を見直す機会となった。 生徒が自分の進路、職業と生きがいを考えるきっかけとなった。 あいさつや返事の重要性に気づいた。 地域の子は地域で育てる意識が高まった。		
問題点・課題	特になし		

37	埼玉県越谷市	事例実施施設名	越谷市新方地区センター・公民館
サポーター名称	生涯学習リーダー		
制度名	越谷市生涯学習リーダーバンク		
背景・経緯	「水墨画入門」開催に伴い講師を選定するにあたり、生涯学習リーダーバンクに本講座のテーマにふさわしい講師が掲載されていたので直接講師と連絡をとる。講座の日程や内容等について調整したところ引き受けていただくことになる。		
受入時期	平成19年1月~3月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年1月30日~平成19年3月20日 ,回数;5回 場所;新方地区センター・公民館 学習室A・B		
活動内容	初心者向けの講座。簡単なスケッチから始めて、墨のすり方、運筆、ぼかし方や面白い墨使いの技法などご教授いただいた。		
成果・効果	皆、関心はあるもののなかなか接する機会のない分野だったので大変好評だった。申し込み時に抽選で落選になってしまった受講希望者と受講者の有志による水墨画クラブが設立され、現在も月2回のペースで活動している。		
問題点・課題	特になし		

38	埼玉県入間市	事例実施施設名	埼玉県入間市立武蔵中学校
サポーター名称	学校図書館ボランティア		
制度名	外部指導者制度		
背景・経緯	学校図書館において 貸し出し業務(昼休み) 蔵書点検について(教師が今までやっていたが授業準備・授業・その他の指導等でやりきることができないためより活発な学校図書館活動を行うため)		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:50、40歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成19年6月15日～平成20年3月31日,回数:30回程度/1人あたり 場所:学校図書館		
活動内容	貸し出し業務 蔵書点検		
成果・効果	スムーズな貸し出し 着実な蔵書点検 教諭の授業の充実		
問題点・課題	謝金をどうするか 保険はどうするか 広がりはどうつくるか		

39	埼玉県鳩ヶ谷市	事例実施施設名	鳩ヶ谷市立辻小学校
サポーター名称	英会話サポーター		
制度名	小学校英語活動推進事業(英会話サポーター配置事業)		
背景・経緯	各クラス週1時間、「総合的な学習の時間」において英会話の学習を推進し、児童のコミュニケーション能力の育成を図り、国際化の時代に対応できる児童の育成を目指すため		
受入時期	平成14年4月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:30歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成14年～現在,回数:週4回1日4時間,場所:イングリッシュルーム		
活動内容	英会話活動での担任の補助。教材の作成。		
成果・効果	担任の負担軽減。児童の英語活動への関心意欲の高まり。		
問題点・課題	担任との打ち合わせ時間の不足。		

40	埼玉県新座市	事例実施施設名	新座市立中央公民館
サポーター名称	新座市生涯学習ボランティア		
制度名	新座市生涯学習ボランティアバンク		
背景・経緯	公民館保育サポーター(公民館事業で実施する保育を行うために公民館に登録されているもの)の資質向上を目的とした研修会の1コマとして折り紙講習会を開催した。		
受入時期	平成17年3月		
教育サポーターの属性等	属性:日本折り紙協会講師	年齢:50歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成17年3月9日,回数:1回,場所:中央公民館		
活動内容	保育時に役立つ折り紙講習		
成果・効果	今後の保育に役立つような折り紙を指導してもらい参加者はみな大変満足している様子だった。		
問題点・課題			

41	埼玉県富士見市	事例実施施設名	富士見市鶴瀬公民館
サポーター名称	市民人材バンク		
制度名	市民人材バンク		
背景・経緯	市民の人材を活用し、市民の相互交流を図る目的で市民大学サロン塾を開設してきた。		
受入時期	平成18年12月		
教育サポーターの属性等	属性:JAいるま野東部ミドルミセス部会	年齢:50歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成18年12月4日,回数:1回,場所:鶴瀬公民館		
活動内容	テーマ「ふるさとの味(手作りまんじゅう)～地域の素材を使ったなつかしい味を楽しむ～」料理実習他		
成果・効果	地元の郷土料理を学ぶ機会となった。		
問題点・課題	郷土料理についての指導者が少ない。今後この分野の人材の発掘が必要である。		

42	埼玉県坂戸市	事例実施施設名	坂戸市立上谷小学校
サポーター名称	学校教育支援ボランティア		
制度名	学校教育支援ボランティア		
背景・経緯	田植、稲刈等を経験させたいと考えていたところ、地元の方からお申し出いただき、実現することができた。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:農業従事	年齢:50歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年6月～平成19年10月,回数:2回,場所:坂戸市中小坂、田		
活動内容	児童への田植え、稲刈指導		
成果・効果	子どもたちが田んぼに入るのが初めてであり、生きた体験ができたことが成果である。為すことによって学ぶ実施体験が可能になり、稲に関する知識と調べる意欲が高まった。		
問題点・課題			

43	埼玉県伊奈町	事例実施施設名	伊奈町公民館
サポーター名称	日本文学講師		
制度名	伊奈町生涯学習人材バンク		
背景・経緯	生涯学習課としてできるだけ活用をはかっていこうという考えから受け入れた。謝金が高額にならずにすむということから受け入れた。		
受入時期	平成18年9月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年9月1日～平成18年11月24日,回数:7回場所:伊奈町総合センター 文学散歩深谷市方面		
活動内容	福沢諭吉「学問のすすめ」を読む。		
成果・効果	受講生は講師の熱心さとユーモアに引き込まれ興味深く聞き入っていた。さらに続けたいとの希望により次年度へ継続することとなった。		
問題点・課題			

44	埼玉県毛呂山町	事例実施施設名	町立毛呂山中学校
サポーター名称	毛呂山町生涯学習ボランティア人材バンク		
制度名	毛呂山町生涯学習ボランティア人材バンク制度		
背景・経緯	教育委員会より人材バンク制度活用に関する説明があり、当校においても活用できないかと考え、名簿などにより検討し、申請を行った。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年5月9日～平成19年7月11日,回数:8回場所:当中学校内技術室		
活動内容	特別支援教育における木工(木皿作り)、粘土工作等の御指導		
成果・効果			
問題点・課題	特別支援学級の生徒により多様な体験をさせたいという願いを持って実施した。講師は常に余裕をもった態度で接し、具体的な指導をして下さった。誠にありがたいことであり、当初計画した内容及び効果は十分に得ることができたと確信している。今後とも機会を捉えてこのような計画を実践していきたいと考えている。		

45	埼玉県宮代町	事例実施施設名	宮代町立東小学校
サポーター名称	学習支援ボランティア		
制度名	町民みんなが先生制度事業		
背景・経緯	情報ボランティア(コンピュータクラブ)をお願いしている関係から学校教育に関心のある方を日本工業大学から派遣してもらった(紹介については町教委をとおした)		
受入時期	平成19年7月		
教育サポーターの属性等	属性:学生	年齢:20歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:平成19年7月23日~平成19年7月30日,回数:6回 場所:教室		
活動内容	小学生(全学年、希望制)の夏季休業中のサマースクールにおける教員指導の補助的活動(国語と算数の学習を中心に実施した)		
成果・効果	子どもの理解が深まった(より1対1に近い形で実施できた) 教員にとっても良い意味での刺激になった。		
問題点・課題	指導を要する(配慮をする子ども)子どもへの対応の仕方が個々によって異なり十分な打ち合わせが必要と考える。		

46	埼玉県鷺宮町	事例実施施設名	鷺宮町教育委員会
サポーター名称	部活動外部指導者		
制度名			
背景・経緯	昭和51年鷺宮町の土師一流催馬楽神楽が国の指定重要無形民俗文化財第1号に指定されたことをきっかけに中学生が伝統文化を伝承していこうという気運が高まり、学校に指導者が集って指導に当たり始めた。昭和55年には必修クラブとして平成5年度からは部活動として活動を続けている。		
受入時期			
教育サポーターの属性等	属性:家庭裁判所調査官・女子短大講師	年齢:70歳代	受入人数:4人
活動期間等	期間:昭和55年4月1日~現在,回数:毎週水曜日年間50回程度 場所:鷺宮町立鷺宮中学校		
活動内容	舞人 拍子方(小太鼓、大太鼓、大拍子、笛)の伝承と発表		
成果・効果	生徒達が地域芸能を伝承する意義を理解してきたと共に他の生徒達も協力し、手伝っている。また代々の卒業生が指導に足を運び、次世代を見守る雰囲気ができ上がっている。		
問題点・課題	人数が増えることによって保存会から借りてきている衣装、太鼓や笛が不足してくる。町の神楽後継者育成事業の補助金では太鼓等の購入や補修には不足している。		

47	埼玉県松伏町	事例実施施設名	松伏町立松伏第二小学校
サポーター名称	まつぶし出前講座		
制度名			
背景・経緯	教員よりも松伏町の歴史に詳しい指導者がいるから。松伏町主審もしくは在住の教員が少ないため。		
受入時期	平成19年6月26日		
教育サポーターの属性等	属性:町役場教育文化振興課の職員、町民	年齢:30、70歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年6月26日,回数:1回 場所:松伏第二小学校体育館		
活動内容	まつぶし音頭の踊りと歴史について		
成果・効果	子どものみならず、担任も初めて知ることが多く、松伏町の歴史に対する興味関心が高まった。		
問題点・課題	担任教員との打ち合わせが十分でない。		

48	千葉県木更津市	事例実施施設名	木更津市教育委員会
サポーター名称	学校支援ボランティア活動推進事業		
制度名	学校支援ボランティア活動推進事業		
背景・経緯	地域の教育力を学校へ導入することにより、「多様な教育活動の展開」と「開かれた学校」の実現を目指す。 地域住民と共に子ども及び教職員のボランティア活動に対する理解を深めてもらう。 地域住民の学習成果を、ボランティア活動の中で生かしてもらう。		
受入時期	平成 19 年度		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:	受入人数: 人
活動期間等	期間: ,回数: ,場所:学校		
活動内容	各学校で「校内ボランティア交流会」を工夫して開催する。教育活動支援メニューの工夫・開発に努める。研究授業等にも積極的に取り入れる。発達段階に応じたボランティア活動を工夫する。子どもたちがボランティア活動に取組む機会を増やす手立てをとる。		
成果・効果			
問題点・課題			

49	千葉県習志野市	事例実施施設名	習志野市教育委員会
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	谷津ローズフォーラム		
背景・経緯	小学校 1 年生の生活科の授業「作って遊ぼう」(身近な素材を用いたおもちゃづくり)の実施にあたり、学区の公民館で活動するサークルに該当するものがないか公民館に問い合わせ「谷津ローズフォーラム」を紹介してもらい受け入れている。		
受入時期	平成 19 年 6 月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:60 歳代	受入人数:6 人
活動期間等	期間:平成 19 年 6 月 29 日 ,回数:1 回 ,場所:教室		
活動内容	谷津地区において生きがいのある町づくりを実践している。具体的には谷津干潟の観察、市内の名所旧跡観察など谷津地区の特色を生かした地域に根ざした生涯学習活動を展開している。これらの活動の一環で小学校の授業もサポートしている。		
成果・効果			
問題点・課題			

50	千葉県市原市	事例実施施設名	千葉県市原市立五井公民館
サポーター名称	「まちのせんせい」		
制度名	市原市生涯学習サポートバンク		
背景・経緯	子どもに様々な体験の場を提供できる。市の制度を利用することにより、無償で指導をお願いできる。		
受入時期	平成 19 年 7 月		
教育サポーターの属性等	属性:サークル活動指導者	年齢:60 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 7 月 21 日 ,回数:1 回 場所:市原市立五井公民館		
活動内容	創作折り紙の基本となる鶴の折り方を学び、練習する。 宝くじの紙からきった 1 辺 7cm の二等辺三角形の神で鶴(開く前まで)を 24 個折る。台紙(型)に丸く貼り付ける。 色画用紙に貼り、周りに模様をつけ「花火」の作品に仕上げる。		
成果・効果	鶴を折ることができなかった子どもも全員折れるようになった。小さな紙を使い、多数の鶴を折ることに苦戦しながらも全員きれいな「花火」の作品を作り上げ成就感を味わうことができた。日本の文化である折り紙への興味が広がった。		
問題点・課題	講師が 1 名であったため 24 名ひとりひとりへの個別支援が十分できなかった。1 つの講座で複数のサポーターをお願いできるとさらに充実した内容になったと思う。		

51	千葉県八千代市	事例実施施設名	八千代市立新木戸小学校
サポーター名称	環境学習ボランティア		
制度名	環境学習ボランティア講師の登録及び紹介事業		
背景・経緯	市役所の環境保全課の紹介で環境学習ボランティアの存在を知り、お願いすることに至った。		
受入時期	平成17年9月		
教育サポーターの属性等	属性:自然観指導員	年齢:60歳代	受入人数:20人
活動期間等	期間:平成17年9月7日～平成17年9月20日,回数:3回 場所:石神谷津		
活動内容	八千代市にある石神谷津の自然観察の講師として活動していただいた。新木戸小学校の3年生、約20名の5クラスに対して各クラスに4名の自然観察指導員の方々に入ってもらった、1回目はクラスごとに自然全体の興味・関心をもたせてもらい、2回目は動物、植物、地層、歴史等興味をもったグループを作り各分野の学習を高めてもらった。尚、実施前にも打ち合わせや準備などの活動を行ってもらった。		
成果・効果	こどもの自然に対する興味関心が強まった。動物や植物の名前を知ろうとする意欲が起こった。葉や実など植物の生態について学ぶことができた。植物を使った遊びを知り、自然に触れる機会が多くなった。		
問題点・課題	学校で指導員の交通費を負担しているが実施前にその額が分からない。		

52	千葉県鎌ヶ谷市	事例実施施設名	鎌ヶ谷市生涯学習推進センター
サポーター名称	まなびいネットワーカー		
制度名	まなびいネットワーカー認定事業		
背景・経緯	平成13年度の国主導のIT普及施策により導入した研修用パソコンの有効活用を図るためまなびいネットワーカーに働きかけ、まなびいネットワーカーの企画講座として各種パソコン講座を開催し、現在に至る。		
受入時期	平成15年7月		
教育サポーターの属性等	属性:退職者、主婦など	年齢:70歳代	受入人数:10人
活動期間等	期間: ,回数:78回 場所:生涯学習推進センター		
活動内容	活動期間はパソコン講座開催時期。18年度は全4期で計78回を開催した。		
成果・効果	講座の企画、運営について施設職員のみでは十分に対応できない部分を補完することができた。		
問題点・課題	現行の制度上においてはネットワーカー活動のほとんどが公民館講座の企画運営に係るもので当初期待していた生涯学習の啓発や情報収集、提供などは行われていないのが実状であり、今後は制度の見直し及びネットワーカーを含めたボランティアの再編成が求められる。		

53	千葉県匝瑳市	事例実施施設名	匝瑳市立野田小学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	学校支援ボランティア制度		
背景・経緯	総合的な学習の時間に「食に関する学習」の発展として地域の料理作りに挑戦することになり、ボランティアの方に指導を依頼した。		
受入時期	平成18年10月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:70歳代	受入人数:5人
活動期間等	期間:平成18年10月,回数:1回 場所:学校(調理室)		
活動内容	6年生の総合的な学習の時間で地域の料理である太巻き寿司の作り方を指導していただき、子どもと一緒につくった。		
成果・効果	児童の母親の中にも郷土料理について知らない保護者もあり、子どもが作ったことにより郷土料理への関心が高まった。		
問題点・課題	学校の日課とボランティアの方との日程調整。		

54	千葉県香取市	事例実施施設名	香取市立佐原中学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	学校支援ボランティア		
背景・経緯	部活動(体操)における指導者の不在		
受入時期	平成19年8月		
教育サポーターの属性等	属性:会社員	年齢:20歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成20年3月31日,回数:21回(7/31現在) 場所:佐原中学校体育館		
活動内容	中学校への部活動での体操競技の指導		
成果・効果	生徒の競技力向上と生徒の意欲の高まり		
問題点・課題	特になし		

55	千葉県酒々井町	事例実施施設名	教育委員会
サポーター名称	英語活動ボランティア		
制度名	英語活動ボランティア制度		
背景・経緯	小学校の英語活動を充実させるため		
受入時期	平成18年4月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦(保護者)	年齢:30歳代	受入人数:6人
活動期間等	期間:平成18年4月~平成19年3月,回数:6回 場所:小学校		
活動内容	小学校の英語活動、指導の支援		
成果・効果	児童が英語活動に親しみ、関心を高めることができた。		
問題点・課題	登録者の適性等により活用に偏りが生じ有効な活用ができない。		

56	東京都大田区	事例実施施設名	大田区立蒲田小学校
サポーター名称	英語学習サポーター		
制度名	学習サポート事業		
背景・経緯	5、6年生実施の英語学習については、区派遣のALTによる活動を進めていた4年生以下の実施について検討していたところ、派遣者本人からの照会があり、まず4年生からの導入を決定した。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:退職公務員(外務関係)	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年5月~平成20年2月,回数:9回 場所:各教室		
活動内容	<p>学年の発達段階に応じた体験活動としての学習(歌、ゲーム、簡単な挨拶等)を中心に月1回実施している。</p> <p>1学級あたりの児童が40名のため、1単位時間に、2分割し、英語活動とパソコン学習を並行して実施している。英語学習について20名の児童を担任とサポーターにて協力指導の形態で進めている。PC学習は、他の教員が指導する。</p> <p>1日4時間を通して、2学級について、英語とPC活動を児童は交替して行う。</p>		
成果・効果	学級を2分割して、英語とPC活動を行うことにより、活動内容についても充実し、サポーターの技量の高さ、熱意により、児童の満足感と期待感も高まり、予想以上の効果が上がっている。		
問題点・課題	<p>・月1回年間10回程度はサポーターの都合によるが、20回程度は実施したい。</p> <p>・活動充実のため40人学級を2分割し、PC学習を並行させるが、こちらは校内人員にて指導に充てるが、時間割の調整に苦労しているため、本来ならば、同様の力量をもつ更に1名のサポーターを確保したいところである。</p>		

57	東京都足立区	事例実施施設名	足立区立千寿常東小学校
サポーター名称	授業支援ボランティア		
制度名	授業支援ボランティア		
背景・経緯	平成16・17年度、文部科学省学力向上支援事業実践指定校を受けたことによる。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:大学生	年齢:10~20歳代	受入人数:3~4人
活動期間等	期間:平成19年4月~平成20年3月,回数:,場所:学校		
活動内容	授業支援(担任補助)、放課後学習での支援、各種学校行事(運動会等)での支援		
成果・効果	個に対応できる学習指導ができ、基礎学力の向上と興味関心を高める点で役に立った。一人一人に目配りが行き届いた。		
問題点・課題	打ち合わせ等の時間が思うように確保できないこと。学生の活動可能日や時間がバラバラで配置が難しい。		

58	東京都葛飾区	事例実施施設名	葛飾区立上平井小学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	学校支援ボランティア派遣事業		
背景・経緯	以前より読み聞かせボランティアなどが活躍していたが、組織的には行われていなかった。平成16年4月より、区の学校支援ボランティア派遣事業に参加するとともに、組織的に立ち上げた。		
受入時期	平成16年4月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者	年齢:20~40歳代	受入人数:人
活動期間等	期間:通年,回数:,場所:		
活動内容	読み聞かせ 図書室の整備 図書室の装飾 休み時間の見守り 朝のあいさつ		
成果・効果	・図書室が整備された。 ・保護者が日常的に学校に来るようになり、教職員と保護者のコミュニケーションの機会が増えた。		
問題点・課題			

59	東京都八王子市	事例実施施設名	八王子市立第二中学校
サポーター名称	オアシスサポーター		
制度名	学校不適合傾向生徒支援制度		
背景・経緯	本校は、学校不登校生徒を20名以上かかえ、その他非行傾向など学校不適合傾向生徒が多く在籍していた。そこで、本校の空き教室を整備し、ボランティアによる生徒支援及び、中1ギャップに対する家庭的な居場所づくりとして、オアシス教室を開設した。		
受入時期	平成18年1月		
教育サポーターの属性等	属性:青少年育成委員、退職教員	年齢:50歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成18年1月~平成19年,回数:毎日,場所:オアシス教室		
活動内容	学級に行けない生徒の支援 昼休み生徒に教室を開放 低学力生徒への支援 社会性のない生徒への支援		
成果・効果	1.不登校生徒が、現在ほぼゼロになった。 2.生徒の安心していられる居場所づくりができた。 3.教員の負担感が減った。		
問題点・課題	特になし 問題はあるが、その都度改善している。		

60	東京都府中市	事例実施施設名	府中市生涯学習センター
サポーター名称	フラダンス		
制度名	リーダーバンク		
背景・経緯	近年、フラダンスの講座開催に対する希望が多い。		
受入時期	平成19年1月		
教育サポーターの属性等	属性:フラダンススタジオ主宰	年齢:50歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年1月11日～平成19年3月15日,回数:8回 場所:府中市生涯学習センター		
活動内容			
成果・効果	定員30名に対し、83名(2.8倍)の応募があった。指導力があり、好評であった。継続した学習希望者が多かった。		
問題点・課題	特になし		

61	東京都昭島市	事例実施施設名	昭島市立共成小学校
サポーター名称	学習指導補助員		
制度名	スクールプラン21		
背景・経緯	個別指導の充実のため、教師や大人の目が必要となり、教師以外の方の活用が行われることになった。		
受入時期	平成14年4月		
教育サポーターの属性等	属性:元教諭	年齢:30歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年4月1日～平成20年3月31日,回数:500時間 場所:学校		
活動内容	授業補助、教材作成補助、学校事務補助		
成果・効果	担任との連携により、落ち着いて授業が展開できるようになった。担任以外の大人の目があり、安全管理上、有効であった。		
問題点・課題	人材確保、謝金等費用の確保		

62	東京都調布市	事例実施施設名	子ども相談学級太陽の子
サポーター名称			
制度名	調布市職員そばうちクラブ		
背景・経緯	適応指導教室における総合的な活動の中で“そば打ち”についてはよい指導者がいることを情報として知ったので、担当者が本人と交渉し実現することになった。		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:調布市職員	年齢:50歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成19年6月19日,回数:1回 場所:調布市“たづくり”料理室		
活動内容	そば粉をこねる(つなぎのうどん粉)もいれて、水を少しずつまぜて そばうちをしてかためたらそれを切る ゆでて試食をする。 この作業を手本を見せてながら、子ども一人一人に活動させ、味をみるところまで、やり方を示しながら指導する。		
成果・効果	正しい作業を理解し、そばうちをやりきり、自分たちでうったそばを食べた。本物と同じ活動がどの子どもでもできた。		
問題点・課題	事前の打ち合わせを何回か行い、本施設が対応すること、講師に依頼することが明確になっていたため、良い活動ができた。準備をていねいに確実にすることが大切である。		

63	東京都瑞穂町	事例実施施設名	瑞穂町立瑞穂第一小学校
サポーター名称	サポートティーチャー		
制度名	指導補助員		
背景・経緯	ぜんそく、自閉等の児童の対応に、担任のみでは不安が大きく、保護者からの要望もあったため、全体指導と合わせ、対象児童の対応にあたった。		
受入時期	平成19年7月		
教育サポーターの属性等	属性:元教育委員会の職員	年齢:50歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年7月25日～平成19年7月27日,回数:3日間 場所:千葉県南房総市		
活動内容	宿舎での対応、海水浴等活動中のケア		
成果・効果	児童、教員、保護者とも安心して3日間過ごすことができた。対象となった児童の成長が促進された。		
問題点・課題	人選、決定までの交渉、手続き。		

64	神奈川県川崎市	事例実施施設名	川崎市立麻生小学校
サポーター名称			
制度名	教育サポーター配置事業		
背景・経緯	川崎市総合教育センターが行っている教育サポーター配置事業に申し込み(配置計画書を作成して)、委託されているNPO法人より、大学生を派遣していただいている。		
受入時期	平成19年6月～		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:	受入人数:人
活動期間等	期間:平成19年6月1日～平成20年3月,回数:週2回 場所:川崎市立麻生小学校(1,2年生)		
活動内容	生活科での地域探検の際の支援 体育(水泳も含む)での活動の支援 図画工作の時の作業での支援 特別支援学級の子どもが通常級で交流する場合の支援		
成果・効果	子どもたちが、何をしたらよいかわからない時に、そばにいるサポーターが声をかけてくれることで、子どもたちが不安にならずにすみ、活動がスムーズに行える。若いサポーターなので子どもたちもすぐになつき、自然に活動ができる。		
問題点・課題	クラスが固定しているわけではないので、その日の状況で支援する児童が変わるので、サポーターをとまどわせてしまうことがある。支援が必要な子どもの人数が多いのでより多くのサポーターが来てくださると助かるのだが...		

65	神奈川県横須賀市	事例実施施設名	横須賀市公民館
サポーター名称	同修了者		
制度名	公民館講師をめざすアカデミー		
背景・経緯	市の教育基本計画の生涯学習の部分で、「学びたい人」と「教えたい人」の出会いの場を創出するとうたっており、公民館をはじめ、社会教育施設では、このようなコーディネーター機能が求められているため。		
受入時期	平成18年11月		
教育サポーターの属性等	属性:退職者、主婦など	年齢:60歳代	受入人数:27人
活動期間等	期間:平成18年11月25日～平成19年1月13日,回数:4回 場所:市内公民館		
活動内容	公民館で講師を行う希望者を募り、講習を受けてもらう。講習(全4回)の中で、講師となるべく事前研修を行う。		
成果・効果	今後、アカデミー修了者による各種講座の実施が期待できる。		
問題点・課題	講師希望者のキャリア、技量、ジャンル、年齢のばらつきがあり、必ずしも即講師をつとめられるレベルではない。そのため、事前研究は必要である。		

66	神奈川県伊勢原市	事例実施施設名	伊勢原市立中央公民館
サポーター名称	保育ボランティア		
制度名	保育ボランティア派遣制度		
背景・経緯	公民館をはじめとした社会教育施設は、「いつでも・どこでも・だれにでも」、学習を志す地域住民の学習機会を保障することを主たる目的としているが、幼児を持つことにより学習・文化活動の機会に触れることのできない保護者等の学習権の保障が必要だった。さらに近年の核家族化・少子化により、家の中で1対1、という孤立状態から、保護者の成長の場を設けることの必要性、子ども自身の社会性の育成が望まれた。		
受入時期	平成10年6月～		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:30～50歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:平成19年6月4日～平成19年7月3日,回数;8回 場所;市立中央公民館レクリエーション室		
活動内容	講座(全8回)開講時、参加者(保護者)のお子さんは別室で一時保育する。		
成果・効果	保護者の学習権の保障、集団生活を通じた子どもの社会性の育成が図られた。		
問題点・課題	登録はなされているものの、実際に活動してもらう段階では特定の人に限られやすく、担い手の育成が更に必要である。保育ボランティアに限らず、検討中の人材バンク制度「(仮)生涯現役資格認定制度促進事業」においても、人材資源の育成と実際の活動への結びつけのための方策が課題となると考えている。		

67	神奈川県開成町	事例実施施設名	開成町立文命中学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名			
背景・経緯	町教委からの指導が大きい		
受入時期	平成19年4月～		
教育サポーターの属性等	属性:PTA	年齢:40歳代	受入人数:40人
活動期間等	期間:平成19年4月1日～平成20年3月31日,回数;年40回 場所;教室を主として		
活動内容	教科指導から防犯、安全にいたるまで、すべての領域でボランティアとして学校運営に協力いただいている。		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの授業に対する理解が深まった。 ・授業や学校行事の進行が円滑になった。 ・学校と保護者や地域との連携が深まった。 ・様々な体験活動を取り入れることができるなど、授業や行事等の内容の充実につながった。 ・学校行事に対する保護者や地域の理解が深まった。 		
問題点・課題	活動中の事故や怪我が心配である。		

68	神奈川県真鶴町	事例実施施設名	真鶴町立まなづる小学校
サポーター名称	スクールボランティア		
制度名	海の学校		
背景・経緯	真鶴町の特徴として豊かな海がある。昨年度設立された社会教育施設「海の学校」の校長先生を講師として、総合的な学習の時間(理科・生活科)に招き、特色ある教育活動として取り組んでいる。この活動を通して、自然に親しむとともに、身近な所から環境を考えるよい教育活動となっている。		
受入時期	平成19年5月～7月		
教育サポーターの属性等	属性:退職校長(元中学校理科教員)・現 海の学校 校長	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年5月23日～19年7月10日,回数:6回,場所:真鶴町通称大ヶ窪海岸		
活動内容	磯に生息する生物を採集し、その名前や生態を知ることを通して海の生物についての知識を高めるとともに、環境への関心を高める。また「採取したものは必ず元に戻す」などの約束を果たすことによって、海洋資源を守るルール等についても身につかせている。保護者の関心も高く、引率補助も兼ねて参加する保護者の数も増えている。		
成果・効果	子どもたちや保護者の環境への関心が高まっている。また、海岸清掃(年2回実施)への取り組みも主体的な活動の姿が目立っている。		
問題点・課題	磯はすべりやすく、子どもの活動にはやや危険が伴うことがある。また、天候や潮の干満により実施日が左右されるので、天候不順が続いた時は、実施日の調整が難しい。		

69	富山県滑川市	事例実施施設名	滑川市立寺家小学校
サポーター名称	家庭教育サポーター		
制度名	家庭教育サポートチーム事業		
背景・経緯	県教委より家庭教育サポートチーム事業の家庭教育サポーターの配置を受けることになり、教育サポーターを学校で人選し依頼した。		
受入時期	平成19年7月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、元講師	年齢:40～50歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:平成19年7月～平成20年2月,回数:210回,場所:各教室、保健室、相談室等		
活動内容	登下校や学習中、休憩時間など生活全体の様子を観察し気づいたことや気になる傾向を担任に伝えたり、協力して支援したりする。必要に応じて親や子供の相談を受けたり支援したりする。		
成果・効果	・子ども一人一人に目が届くので気になる子が安定して学校生活を送ることができる。・教師がゆとりをもって子どもに対応することができる。		
問題点・課題	「サポーターにふさわしい人」、「サポーターを引き受けてくれる人」がなかなか見つからない。		

70	富山県滑川市	事例実施施設名	滑川市立寺家小学校
サポーター名称	家庭教育サポーター		
制度名	家庭教育サポートチーム事業		
背景・経緯			
受入時期	平成18年9月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、主任児童委員	年齢:50～60歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成18年9月～平成19年2月,回数:79回,場所:滑川市立西部中学校		
活動内容	子供の登下校、休み時間、行事など学校生活全体の中で気になる児童の把握、観察、子供との相談を行った。また、児童の実態を詳細に把握するために、時間を見つけて、担任や生徒指導主事、あるいは、校長、教頭、教務主任、養護教諭などと打ち合わせを行い、子供が本当に必要としている支援をできるだけ行うように努めた。保護者とは、担任と協力して、学校や家庭で不安や悩みの相談に応じた。		
成果・効果	教室に入ることのできない不登校傾向の児童に対して、主として相談室、時には保健室等で子供の相談相手になることができた。不安や悩みを持っていた児童も心の落ち着きを見せるようになってきた。教室にも入ることができるようになってきた。		
問題点・課題	・担任とのうちあわせの時間を確保することが難しい。 ・担任との役割分担をどのようにすればよいか。		

71	長野県岡谷市	事例実施施設名	岡谷市立小井川小学校
サポーター名称	地域教育人材活用事業		
制度名	学びのおかやサポート事業		
背景・経緯	学社連携(融合)事業にともなって地域の人材を学校で活用しようといったことから学校連携を組織し、サポーターの受け入れを始めた。 「お年寄りとのふれあい」事業によってお年寄りの知恵と技能を活用できるようサポーターを募集して共に交流活動の中で指導をしてもらうようにしている。		
受入時期	平成 19 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、退職公務員、主婦、退職した元技能者、習い塾をやっている人、地域のサークルに入っている人	年齢:50~70 歳代	受入人数:40 人
活動期間等	期間:平成 19 年 4 月 1 日~平成 20 年 3 月 31 日 ,回数;26 回 場所;教室、体育館、特別教室、校庭、学校栽培、野外、公共施設		
活動内容	読書週間(春)に読み聞かせ、ブックトーク等 総合的な学習の時間に専門的な分野における知識・技能を教えてもらっている。 クラブについてはほぼ半分のクラブ講師をやってもらい、技能の向上を図ってもらっている。 合唱部においてはピアノ伴奏と歌の出し方の指導。		
成果・効果	子どもたちは地域にこんな力をもっていることを発見すると共に地域の方を身近に感じ、活動後の交流も見られた。 総合的な学習については具体的な指導によって活動内容に深まりが見られた。		
問題点・課題	事前に打ち合わせる時間の確保と活動後の反省(評価)を話し合うことができない点に問題がある。		

72	長野県諏訪市	事例実施施設名	諏訪市公民館
サポーター名称	特になし		
制度名	生涯学習リーダーバンク		
背景・経緯	地域の自然について学ぶ 5 回シリーズの講座を企画するに当たり、各分野で調査・研究に携わる方を講師に依頼したく、人材を探しており「教育サポーター制度」を利用した。		
受入時期	平成 18 年 6 月		
教育サポーターの属性等	属性:県自然観察インストラクター	年齢:70 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 18 年 6 月 8 日~平成 18 年 6 月 8 日 ,回数;1 回 ,場所;諏訪公民館		
活動内容	講座講師として講演		
成果・効果	市民が地域の自然を学ぶことで自身が暮らしている環境や待ちづくりについて考えるきっかけの講座となった。また講師にとっても研究の成果を発表し親しまれる良い機会となったのではないかと。		
問題点・課題	今回の講師には講座の趣旨を理解していただけたが中には一見同じ活動でも趣旨が異なる場合もあり得る。「教育サポーター制度」はあくまでも出会いのきっかけであり、その後は打合せが必要であるという認識が制度利用者に必要なと思う。また講師の営業活動であるかどうかの見極めが難しい。		

73	長野県軽井沢町	事例実施施設名	軽井沢町中央公民館
サポーター名称	先生		
制度名	人材登録		
背景・経緯	わが町では補助員ではなく、講師・先生としてほとんどの講座でお願いしている。補助ではない！土地柄、いろいろな人が住んでおりありがたい事に売り込みに来てくださる方が多い。その中より事務局側として検討し、次年度へ講座として実施。何回か面接もしている。		
受入時期	平成 17 年 6 月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:60 歳代	受入人数:2 人
活動期間等	期間:平成 18 年 8 月 9 日 ,回数;1 回 ,場所;軽井沢町中央公民館		
活動内容	今年(H19.8)で 2 回目を実施した。先生として引き小・中学生を対象とした教室である。先生の指導のもとステンシルとは何かを学び、楽しく実践し、物作りの喜び、大切さを学習する。		
成果・効果	2 年間実施したが大人気で申し込みが殺到する。子どもたちの想像力や新しい世界観を養って非常に効果があると思う。違う学校の友達も作れる。		
問題点・課題	人気がありすぎ定員オーバーになってしまう。回数を増すと1回の定員を増すと検討の余地有。		

74	長野県松川村	事例実施施設名	松川村立松川小学校
サポーター名称	外部講師		
制度名	クラブ活動講師(フラワーアレンジメント)		
背景・経緯	児童の希望が多くこのクラブを作ることになったが教職員の中に指導ができる者がいなかった。		
受入時期	平成 19 年 5 月		
教育サポーターの属性等	属性:フラワーアレンジメント指導経験者	年齢:60 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 5 月 1 日～平成 19 年 11 月 14 日 ,回数;10 回 場所;学校		
活動内容	クラブ活動の授業時間に来校してきていただき指導を受ける。材料の手配等もしていただく。		
成果・効果	普段の授業では経験できないことができ、子ども達は意欲的に活動を続けている。クラブ活動を楽しみにし、登校している。		
問題点・課題	特になし		

75	岐阜県高山市	事例実施施設名	高山市立日和田小学校
サポーター名称			
制度名	能力開花支援事業		
背景・経緯	平成 17 年度は非常勤講師と担任で音楽を指導していたが平成 18 年動は非常勤講師の配置がなく担任のみで教えることになった。しかし、市の音楽会に向けて専門的に音楽の指導をしていただきたいと願い、能力開花支援事業に申し込むことになった。		
受入時期	平成 18 年 6 月		
教育サポーターの属性等	属性:オペラ歌手	年齢:40 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 18 年 6 月 15 日～平成 18 年 10 月 26 日 ,回数;11 回 場所;音楽室、体育館		
活動内容	児童への合唱指導・・・ブレスの仕方、発声の仕方等の指導。「カルメレ、通り子どもたち」の合唱、演技指導。		
成果・効果	児童一人ひとりが正しい発声の仕方を身につけ、伸びのある大きな声で堂々と歌えるようになった。 講師の方の歌に感動し「あんなふうに歌えるようになりたい」というあこがれの気持ちを抱くようになった。 教員が発声などの指導方法を教えていただけた。		
問題点・課題	予算の問題 希望する回数を受け入れてもらえない。		

76	岐阜県多治見市	事例実施施設名	岐阜県多治見市立陶都中学校
サポーター名称	西山史子		
制度名	能力開発支援事業		
背景・経緯	(軽度発達障害について研修し、生徒理解に役立てるため)		
受入時期	平成 19 年 8 月		
教育サポーターの属性等	属性:元教師	年齢:60 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 8 月 21 日 ,回数;1 回 場所;本校図書館		
活動内容	発達障害について理解と対応の仕方を研修		
成果・効果	発達障害についての理解が深まった。		
問題点・課題	特になし		

77	岐阜県関市	事例実施施設名	岐阜県関市立下有知中学校
サポーター名称	俳句指導		
制度名	関市出前講座		
背景・経緯	関市では2年に1度全国子ども作品コンクールとして「俳句」と「木の造形作品」の募集をしている。地元の学校として積極的に応募するため専門の先生に指導していただいた。		
受入時期	平成19年7月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、他	年齢:50~70歳代	受入人数:7人
活動期間等	期間:平成19年7月19日,回数:1回,場所:学校のまわり、校舎、運動場等		
活動内容	講師の先生より俳句についての説明を受ける。生徒は校舎の内外を観察し俳句をつくる。その後、講師の先生に指導してもらい清書する。		
成果・効果	俳句の苦手な生徒もそれなりに興味をもって取り組みことができた。		
問題点・課題	特になし		

78	岐阜県安八町	事例実施施設名	名森小学校
サポーター名称	少人数指導講師		
制度名	少人数指導講師派遣事業		
背景・経緯	40人に近い学級の経営には困難が伴う。生活や学習環境をよりいいものにしてやりたいという願い。		
受入時期	平成14年4月		
教育サポーターの属性等	属性:免許を所有し条件に合致した者	年齢:20~40歳代	受入人数:4人
活動期間等	期間:平成18年4月6日~平成19年3月26日,回数:204回,場所:校内を中心		
活動内容	教科に指導補助員として活動 小人数学級、TT等指導形態に応じて活動 校外学習でも引率補助員として活動 要援助児童に対する生活、学習支援者として活動		
成果・効果	児童の生活、学習活動の充実につながった。 教科、学級経営の円滑化につながった。 学習形態、生活形態の多様化につながった。		
問題点・課題	指導力を高めるための登録者の研修の場の設定。		

79	岐阜県富加町	事例実施施設名	岐阜県加茂郡富加町立富加小学校
サポーター名称	学習支援員 (Japanese Teacher Of English)		
制度名	学習支援新制度		
背景・経緯	本校は文部科学省より平成19年度、20年度英語活動等国際理解活動推進事業の指定を受けた。この事業の円滑な推進のため町教育委員会は従来の学習支援員を1名増員し、英語が得意な人材を本校に派遣することとなった。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:大卒者	年齢:20歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成20年3月31日,回数:1回,場所:富加小学校		
活動内容	英語活動においてHLT (Homeroom Teacher)、ALTと役割分担をしながら Japanese Teacher Of English として児童の支援にあたる。例えば児童の中に入り、あいさつ活動に参加し、雰囲気づくりをする (warm up の Let's sing a song)、Today's Topic 等の活動でも同様。声を出さない児童に寄り添い話す。発音できずにとまどっている児童に支援する。大きな声で上手に発音できた児童を認める等の評価。		
成果・効果	上記活動内容のように授業における支援員の活動は子どもたちの英語活動でコミュニケーション能力の向上に欠くことのできないものがある。また本校のALTは日本語がまったく理解できない、話せない状況にあるので支援員による通訳は日常における会話や授業に向けての事前打ち合わせでなくてはならない存在である。		
問題点・課題			

80	静岡県富士市	事例実施施設名	富士市立富士中央小学校
サポーター名称	ふれあい協力員		
制度名	ふれあい協力員制度		
背景・経緯	学習支援や児童の安全確保、環境整備などの面で必要性から。		
受入時期	平成14年4月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者、地域のお年寄り	年齢:20~60歳代	受入人数:20~30人
活動期間等	期間:平成19年4月25日~平成19年3月20日,回数:51回 場所:学校内、校外		
活動内容	本の読み聞かせ(週1回・朝) 米作り体験学習<5年生・総合>の支援・指導 授業研究時の校内巡視 校外学習時の安全確保 樹木剪定作業 地域学習のゲストティーチャー 登下校時の安全確保		
成果・効果	校内外の安全確保等で児童とのふれあいがあり、地域との連携が深まっている。児童の安全が確保されている。特技を生かした米作り、地域の歴史、野菜作り等の指導により児童の学習が充実し、拡大している。		
問題点・課題	名簿作り、協力依頼、会合開催等、事務仕事が増加した。運営費の活用をより計画的に行いたい。		

81	静岡県下田市	事例実施施設名	下田市立朝日小学校
サポーター名称			
制度名	下田市教科指導員事業		
背景・経緯	「海の生物」について造詣の深い方を探す。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:ダイビングショップ経営	年齢:	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成20年3月31日,回数:2回 場所:朝日小学校、視聴覚室		
活動内容	海の生物に関するレクチャー 海の生物に関する児童へのアドバイス はなぼう発表会(自由参観日)に総合的な学習の時間の発表を行い、アドバイスを受ける。		
成果・効果	海の生物に関する専門的な立場からのレクチャーを受けることができた。		
問題点・課題	教育サポーターの方(GT)と子どもの思いや願いとの差が大きいと一方通行の授業や講義となる恐れがあるので事前の打ち合わせがとても大切である。		

82	静岡県由比町	事例実施施設名	由比町立由比中学校
サポーター名称			
制度名	読み聞かせボランティア「きんもくせい」		
背景・経緯	長期間つづけているので背景、経緯を理解している教員がいない。		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:40~50歳代	受入人数:7人
活動期間等	期間:,回数:3回 場所:各教室		
活動内容	朝、読書の時間を活用し、年間3回ボランティアにより読み聞かせ会を行っている。絵本を中心に学年ごとに同一の教材を使い実施。		
成果・効果	聞く姿勢の確立、朝の時間の落ち着き等成長が見られる。		
問題点・課題	本の選定等、学校側担当者との打ち合わせ時間の確保が困難。		

83	愛知県瀬戸市	事例実施施設名	瀬戸市立東山小学校
サポーター名称	学校教育サポーター		
制度名	学校サポーター配置事業		
背景・経緯	平成16年より瀬戸市教育委員会が制度をつくったためと、この前年に車イスの児童がいて地域のボランティアが活躍していて必要性を感じた。		
受入時期	平成16年4月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:40歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成19年4月16日～平成20年3月19日,回数:160回,場所:小学校		
活動内容	小学校低学年の生活習慣の徹底と国語・算数・生活科でのサポート。学校での行事、遠足、学年での社会見学等の引率のサポート。		
成果・効果	子どもたちはすぐにたずねられる大人がいることで好評。PTAからも安全面等で大人が子どもたちのまわりにおいてくれて安心という声が聞けた。		
問題点・課題	謝金が安すぎ、ボランティアと変わらない。		

84	愛知県半田市	事例実施施設名	半田市立岩滑小学校
サポーター名称	ゲストティーチャー		
制度名	ゲストティーチャー制度		
背景・経緯	総合的な学習の時間が教育課程に導入せれるにあたり、市教委がゲストティーチャー制度をスタートした、本校では親子学級で講座運営してもらうことで活用をはじめた。		
受入時期	平成11年4月		
教育サポーターの属性等	属性:講座講師	年齢:40～60歳代	受入人数:20人
活動期間等	期間:平成19年6月9日,回数:1回,場所:本校及び岩滑公民館および市陶芸作業所		
活動内容	親子ふれあい学級にて、「茶道教室」や「陶芸教室」、「料理教室」等、全23講座を開講。親子で受講、体験してもらった。 例)「自然観察講座」;校外へ野草観察に出掛け、食べられる野草と食べられない野草探しをする。食べられる野草を学校に持ち帰り、天ぷらにして試食する。		
成果・効果	児童および保護者に様々な体験活動を提供できた。行事の活性化につながった。		
問題点・課題	講師の要望と受講者(児童および保護者)のニーズの調整		

85	愛知県豊田市	事例実施施設名	豊田市生涯学習センター崇化館交流館
サポーター名称	崇化館地区「地域講師」		
制度名	「ザ・男塾」(自主グループ)		
背景・経緯	生きがいづくり、仲間づくり、また環境についても学習している自然環境保護への意識を高めること、異世代間に交流や親子のふれあい交流を深めるため		
受入時期	平成18年2月		
教育サポーターの属性等	属性:退職者・団塊世代	年齢:50、60歳代	受入人数:人
活動期間等	期間:平成18年4月23日,回数:1回,場所:松平の竹林		
活動内容	竹山の整備の取り組みについて話をする。 自生するだけのこを探し、掘る(協力しながら)指導。 竹を使って器やハシを作る指導 手作りの食器でたけのこ汁を食べる楽しさを体験させる。 郷土の歴史の講話。		
成果・効果	異世代との交流や親子のふれあい、同世代同士での交流を深めることができた。 数少ない道具を皆で譲り合ったり、分け合ったり、助け合ったりとうまく指導していただけた。 会場準備、安全管理など積極的にたずさわっていただけた。 サポーターさんの生きがいづくりになった。		
問題点・課題	サポーターさんが必要以上に手助けするくらいがある。会場が交流館内ではないので事前打ち合わせが十分必要である。		

86	愛知県江南市	事例実施施設名	江南市立古知野西公民館
サポーター名称	生涯学習講師人材バンク登録者		
制度名	生涯学習講師人材バンク		
背景・経緯	実施主体が有能ないい講師がいるという情報を得て人材バンクに登録していただき、登録内容が今までにない内容だったので講師として依頼した。		
受入時期	平成19年1月～2月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦	年齢:30歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年1月17日～平成19年2月28日,回数:7回 場所:公民館		
活動内容	牛乳パックや古紙から環境に優しいリサイクル素材の紙バンドを使ってカゴやバッグなどの小物を作った。		
成果・効果	今まで当市の講座で取り扱ったことのない内容だったため参加者が興味をもって熱心に作成していた。また教育サポーター自身も自らの技能・知識を多くの人に伝える機会があり、嬉しいとのことだった。		
問題点・課題	講師業を専門にしている方ではないため、日程調整に手間取った。		

87	愛知県蟹江町	事例実施施設名	蟹江町立蟹江小学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	学校支援ボランティア制度		
背景・経緯	蟹江町教育委員会が平成19年4月から学校支援ボランティア制度を設立した。教育委員会から登録された人材の紹介を得たので学校のニーズに合った方に学校支援ボランティアとしての活動を依頼した。		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者	年齢:40歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成19年6月19日～平成20年3月24日,回数:約100回 場所:校内各教室		
活動内容	特別支援学級の児童が交流する学級で授業を受ける際、児童の横で個別に学習支援を行う。日本語の読み書きが苦手な児童に絵本を読み聞かせたり、会話をしたりして日本語の習得の支援を行う。		
成果・効果	個別の支援により授業への興味関心や理解度が高まってきている。 「やさしいおばさん」的存在で子どもも親しみながら学習を進められる。		
問題点・課題	あくまでもボランティアなのでできる人ができるときにできる内容をしてもらうことが大切であると感じる。またボランティアの方が楽しく充実した時間を過ごせるよう学校側も配慮すべきであると思う。		

88	三重県鈴鹿市	事例実施施設名	鈴鹿市立国府小学校
サポーター名称	佐々木之信綱顕彰会顧問		
制度名	鈴鹿夢工房達人に学ぶ		
背景・経緯	短歌指導において本校教員以上に深い知識をお持ちの方に郷土の佐々木信綱氏のすばらしい短歌の指導を受けることを通して更に児童の学習意欲を高めようと考えたため。		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:元高校教師	年齢:70歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:通年,回数:制約なし 場所:小中学校		
活動内容	短歌指導において本校教員以上に深い知識をお持ちの方から、郷土の佐々木信綱氏のすばらしい短歌の指導を受けた。		
成果・効果	子ども達の短歌作りにおける意欲が高まり、活発になった。		
問題点・課題	特になし		

89	三重県熊野市	事例実施施設名	熊野市民会館及び市内小学校
サポーター名称	まちの人材活用事業		
制度名	まちの人材活用事業		
背景・経緯			
受入時期	平成 18 年 10 月		
教育サポーターの属性等	属性: スキューバダイビング事業	年齢: 30 歳代	受入人数: 1 人
活動期間等	期間: 平成 18 年 10 月 17 日 ~ 平成 18 年 11 月 10 日 , 回数: 6 回 , 場所: 荒坂中学校		
活動内容			
成果・効果	地域の伝統的な太鼓演奏を伝承した。		
問題点・課題			

90	滋賀県草津市	事例実施施設名	草津市立山田小学校
サポーター名称	読み聞かせサークル「トトロ」		
制度名	地域協働合校(がっこう)		
背景・経緯	幼稚園でも当時読み聞かせサークルとして活動されていたが子どもが本校に入学してからは引き続き小学生を持つ母親たちで組織し、活動しておられる。		
受入時期	2007 年 4 年 1 月		
教育サポーターの属性等	属性: 保護者	年齢: 30 ~ 40 歳代	受入人数: 26 人
活動期間等	期間: 平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日 , 回数: 本番は年 10 回程 場所: 視聴覚室(普通教室の 2 倍)		
活動内容	学年単位に 1 単位時間をとって子ども達に読み聞かせをしていただいている。 手作りの大きな紙芝居、手作りペーパーサート、絵本、ミニ演劇等を工夫しながら 1 単位時間に 4 ~ 5 種類の発表をしてくださる。 本番までに数回の練習日を設定。		
成果・効果	子ども達にとって大変楽しみな時間となっている。 お話にひたるよい経験となっている。 「トトロのおばちゃん」というふう子ども達にとってトトロの皆さんとの結びつきが深くなっている。		
問題点・課題	大きな絵本、原稿等、本や用具の保管場所に困っている。活動費の捻出		

91	京都府宇治市	事例実施施設名	宇治市生涯学習センター
サポーター名称	特になし		
制度名	宇治市生涯学習人材バンク		
背景・経緯	年間 5 回、2 ヶ月に 1 回親と子の遊びの広場「おやこっくらんど」と併せて「子どもまなびぱーく」という子育て中の親のための学習と交流の場を設けている。その学習の場の講師には短時間ではあるが交流の場も作っていただくことをお願いしており、身近かで豊かな経験をもっている方を探しているため。		
受入時期	平成 19 年 7 月		
教育サポーターの属性等	属性: 歯科衛生士	年齢:	受入人数: 5 人
活動期間等	期間: 平成 19 年 7 月 5 日 , 回数: 1 回 , 場所: 宇治市生涯学習センター		
活動内容	「歯磨きで親子のコミュニケーション」と題し子どもの歯を守るために親が心がけができる食事と飲み物についてや歯磨きを日常の生活習慣に取り入れることの大切さについて映像とパネル展示を用いてお話をされた。また人形を使って仕上げみがきのデモンストレーションを行い、家庭です時のポイントや子供がいやがった時の対応を実践された。後半は 4 ~ 5 人のグループに分かれ年齢や子どもの成長に合ったアドバイスを行う中で参加者同士の交流の機会とした。		
成果・効果	講師の豊富な知識を子育ての経験からお話いただき参加者は共感して聞くことができた。歯磨きという毎日のことだけに興味も高く、交流においても熱心な参加者が多かった。また後半において、各グループに講師が入り、参加者の会話を引き出すなど上手にコーディネートされ交流が進んだ。		
問題点・課題	予め講師との打ち合わせを行い、趣旨、内容、進行等、話し合うことが必要。今回は講師と何度か会う機会があり、スムーズに講座が進行した。		

92	大阪府大阪市	事例実施施設名	大阪市立総合生涯学習センター
サポーター名称	大阪市生涯学習インストラクター		
制度名	インストラクター連携講座		
背景・経緯	市民が気軽に生涯学習に親しむ機会を提供するため。主催講座から自主グループ活動へと導き、市民の主体的な学びを支援し、地域の仲間づくりを活性化するため。		
受入時期	平成18年9月		
サポーター属性	属性:	年齢:40~60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年9月1日~平成19年3月23日,回数:3~10回 場所:大阪市立城北市民学習センター		
活動内容	登録科目について(茶道、ハーモニカ、太極拳、水彩画、川柳)指導する。講座受講者やセンターと協力して自主グループを結成し、継続活動をしながら仲間づくりを深める中心的役割を担う。		
成果・効果	センターの利用グループとして自主グループ化に成功し、それぞれのグループで活動を続けている。		
問題点・課題	サポーター同士、グループ同士の連携がまだ難しい。		

93	大阪府堺市	事例実施施設名	堺市立美原地小学校
サポーター名称	堺エキスパートキャリア		
制度名	堺エキスパートキャリア教育支援事業		
背景・経緯	すぐれた業績を持つ社会人から子どもの仕事に対する思いゆめを喚起していただくため市の事業を活用している。年12回分の予算をいただいた。		
受入時期	平成19年7月		
サポーター属性	属性:現行キャビンアテンダント	年齢:50歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成19年7月6日,回数:1回,場所:音楽室(105人を収容できエアコンがあったため)		
活動内容	JALのCA(キャビンアテンダント)さん2名により仕事の内容、苦労、夢などをパワーポイントにより説明いただいた。航空機内を想定した模擬体験をさせていただいた。		
成果・効果	子どもに仕事に対する夢や思いを膨らませることができた。人に対する思いやりが仕事の根底であることが分かった。		
問題点・課題	学校側の受け入れスタッフの充実(人員や研修)		

94	大阪府高槻市	事例実施施設名	高槻市立竹の内小学校
サポーター名称	読書ボランティア		
制度名	高槻市人材バンク		
背景・経緯	読書活動の推進のため		
受入時期	平成19年4月		
サポーター属性	属性:保護者	年齢:30歳代	受入人数:60人
活動期間等	期間:平成19年5月~平成20年3月,回数:240回,場所:各教室		
活動内容	毎日児童と担任は朝10分間読書に取り組んでいる。そのうちの週1回保護者の読み聞かせ活動を実施している。		
成果・効果	子どもたちにおちつきが見られた。保護者間の連携がよくなった		
問題点・課題	保護者が校内に常に立ち入ることで学校の情報が外部に出ることが心配である。		

95	大阪府守口市	事例実施施設名	守口市立守口小学校
サポーター名称	指導者人材バンク		
制度名			
背景・経緯	人材バンクリストからこちらの条件に合う人を選んだ。		
受入時期	平成19年6月~7月		
サポーター属性	属性:元水泳選手	年齢:70歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年6月18日~平成19年7月31日,回数:35回,場所:プール		
活動内容	水遊び、水慣れ、クロール初歩指導、平泳ぎ初歩指導、水泳教室の指導補助		
成果・効果	児童の安全確保が図れた。また指導補助にも入り、泳力の向上が図れた。		
問題点・課題	雨天中止の連絡がこちらに向かわれる時刻とこちらの判断の時間とでギリギリでご本人に迷惑をかけることがあり申し訳なかった。		

96	大阪府河内長野市	事例実施施設名	河内長野市教育委員会社会教育課
サポーター名称	サポート協力員		
制度名	サポート協力員助成活用事業		
背景・経緯	市立幼少中学校園において校区の自然・歴史・文化等に詳しい方や園児、児童、生徒の学習をサポートしていただける方、特定に分野で専門性の高い地域の方などを学校支援サポート協力員として活用することで「開かれた学校」のさらなる拡大をめざし、学校力を向上させる。		
受入時期	平成 15 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:様々	年齢:20～70 歳代	受入人数:25 人
活動期間等	期間:平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日 ,回数;年間 25 回 場所;学校施設内、教育課内とこれ以外の場合あり。		
活動内容	下記の活動に対する支援者として・・・手話・車イス体験・クラブ指導・昔遊び・米づくり・読み聞かせ・レクリエーション指導・わら細工・視覚障害者の理解、平和学習の聞き取り 活動期間というよりも学校より 月 日に計画書を提出し、それにより人材と図書カードを準備し、実施する。(人材への依頼は 2 度目以降は学校より直接依頼することとなっている。)		
成果・効果			
問題点・課題			

97	大阪府松原市	事例実施施設名	松原市立河合小学校
サポーター名称	まっ com(まっこむ)		
制度名	松原市生涯学習地域サポーター		
背景・経緯	ペットボトルロケット作りを行ううえで指導者を探していたところまっ com 登録者の中に適当な人材がいたので依頼。		
受入時期	平成 19 年 6 月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:40～60 歳代	受入人数:9 人
活動期間等	期間:平成 19 年 6 月 10 日 ,回数;1 回 場所;松原市立河合小学校 理科室、音楽室、図書室、グラウンド		
活動内容	日曜参観日の授業の一環として 4 年生において「親子でペットボトルロケットを作ろう」を実施。その際、指導、助言を教育サポーターにしてもらった。		
成果・効果	親子で楽しくペットボトルロケット作りを行うことができた。科学的な学習意欲が高まった。		
問題点・課題			

98	大阪府阪南市	事例実施施設名	阪南市立西鳥取小学校
サポーター名称	講師		
制度名	学校人材バンク(本校独自)		
背景・経緯	第 4 学年社会科「ゴミ問題」で近年ゴミが増えた理由を考えさせるために昔(40 年～50 年前)の状況について聞き取り学習をさせるべく地域の方に来てもらった。		
受入時期	平成 19 年 5 月		
教育サポーターの属性等	属性:地域の方	年齢:60、70 歳代	受入人数:7 人
活動期間等	期間:平成 19 年 5 月 22 日 ,回数;1 回 ,場所;本校教室		
活動内容	本校 4 年生児童が数班に分かれてそれぞれの班で地域の方より昔のゴミの状況(ゴミの種類や量、処理の方法等)や現在でゴミを減らすために行っていること等を聞き取った。		
成果・効果	児童が興味を持って学習に参加できた。 児童が主体的に学習活動を行うことができた。 教員の見聞を広げることができた。		
問題点・課題	授業の進行状況を見ながら急に決定となったため事前に十分な打ち合わせを行うことができなかった。 授業計画の中に早くから位置付けできていなかった。		

参考 教育サポーター制度に類する取組・活動事例

99	大阪府能勢町	事例実施施設名	能勢町教育委員会学校教育課
サポーター名称	元気な学校づくり総合派遣事業		
制度名	学校支援協力員(仮称)		
背景・経緯	本庁や大阪府の大きな課題の一つに次代を担う教職員の養成がある。そのために本年度より退職校長を各学校に派遣して初任者や経験の浅い教員に対し、授業作りの支援に入ってもらった。		
受入時期	平成19年9月		
教育サポーターの属性等	属性:元校長	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年9月1日~平成20年3月31日,回数:50回 場所:学校		
活動内容	対象者を明確にして支援指導にあたる。事前に指弁案を作成し、支援者に渡し、指弁を受ける。授業参観後、授業者と支援者で協議する。		
成果・効果			
問題点・課題			

100	兵庫県洲本市	事例実施施設名	兵庫県洲本市立洲本第3小学校
サポーター名称	ふれあいタイム		
制度名	ふれあいタイム		
背景・経緯	保護者、ご家族、地域社会の方々などのもっておられる専門的な知識や技能・技術や趣味を活用してご指導いただき、日頃の教育活動では得られない多様な活動によって、児童の個性の伸長を図る。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者、家族、地域の方	年齢:	受入人数:人
活動期間等	期間:平成19年5月11日~2月8日,回数:4回 場所:学校		
活動内容	クラブ活動において指導していただく(大正琴、英語、囲碁、楽器、クラフト・手芸、グラウンドゴルフ、ゲートボール、コンピュータ、茶道、将棋、卓球、つくって遊ぼう、バスケットボール、おもしろ昔話、郷土歴史、建築を学ぼう、朗読、おもしろ理科実験)		
成果・効果	子ども達の多様なニーズに対して、一人一人の個性を伸ばせた。		
問題点・課題			

101	兵庫県伊丹市	事例実施施設名	伊丹市立花里小学校
サポーター名称	町の先生		
制度名			
背景・経緯	小学校にも英語導入の動きがあり、今年度からクラブ活動においてのみ英語を導入。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:英語指導	年齢:23歳	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成19年3月31日,回数:10回 場所:本校教室		
活動内容	クラブ活動において初期の英語(会話) 楽しい英語として4年~6年の希望者(英語クラブ)		
成果・効果	楽しくやれて英語に興味をもっている。		
問題点・課題	月1回なので物足りないこともある。		

102	兵庫県宝塚市	事例実施施設名	宝塚市教育委員会
サポーター名称	2年生の生活科「菊作り」の指導		
制度名	「開かれた特色ある学校園づくり」事業「みんなの先生」制度		
背景・経緯	「みんなの先生」制度の活用を通して児童に様々な感動体験・創造的な体験を提供することを目指している。菊作りの専門家の指導のもと地域の老人会の方々と共に継続した活動を行い、温かい心のふれ合いや自然を大切に思う心を育むことをねらいとした。		
受入時期	平成18年4月		
教育サポーターの属性等	属性:地域老人会	年齢:60歳代	受入人数:14人
活動期間等	期間:平成18年4月～平成18年11月,回数:7回 場所:校庭		
活動内容	平成18年度も2年生児童が菊作りの専門家の方の指導と地域の老人会の方々のお世話のもと菊作りにチャレンジした。4月から11月までに長期にわたる活動で土作り、さし芽、肥料やり、水遣りなど菊の世話の仕方を学んだ。満開に咲き誇った11月には菊まつりを行い、地域の方々と一緒に楽しいひと時を過ごすことができた。		
成果・効果	地域の教育力「みんなの先生」の専門性を生かした継続的な活動を実践することができた。学校と地域、子ども達と地域の人たちとの連携が深まった。		
問題点・課題	菊の世話は日数的にも内容的にも「みんなの先生」の多くの関わりが必要である。水遣り一つとってもたくさんのボランティアの方々の支援を要する。ぜひ継続していきたい活動だが人員確保に一考が必要である。		

103	兵庫県三木市	事例実施施設名	三木市立別所中学校
サポーター名称	部活動外部指導者		
制度名	三木市中学校部活動外部指導者ほっかん事業		
背景・経緯	本校においては本年度1学級減となり、教員数2名減少した。部活動の指導体制の充実を図るため、部活動外部を導入した。現在、三木市中学校部活動外部指導者を1名受け入れている。(他に兵庫県教員の運動部活動指導者補助員2名を受け入れている)		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:自営業	年齢:30歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:平成19年6月1日～平成20年3月31日,回数:約80日(1日3時間程度) 場所:本校体育館		
活動内容	男子バレーボール部の技術指導者		
成果・効果	部活動が活性化してきている。		
問題点・課題	人材バンク登録が充実しておらず適した外部指導者を見つけることが困難であった。活動中の事故ケガ等への保障の充実。外部指導者の研修等による指導技術の向上		

104	兵庫県高砂市	事例実施施設名	高砂市立中筋中学校
サポーター名称	高砂生涯学習人材バンク登録者		
制度名	高砂生涯学習人材バンク		
背景・経緯	夏休みに親子で実施する理科教室 2 回分のうち 2 回目を外部講師(登録者)に依頼した。1 回目は科学的分野で 2 回目は生物的分野で実施できるよう変化をもたせた。		
受入時期	平成 19 年 8 月		
教育サポーターの属性等	属性:高齢者大学OB	年齢:70 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 8 月 19 日 ,回数;1 回 場所;小学校内		
活動内容	高砂市の沖で取れる魚の紹介と実際に魚に触ってみる体験。タツノオトシゴの産卵シーンの上映等。		
成果・効果	「親子」で来校する夏休みの行事としてほのぼのとしていて良かった。子どもも大人もとても興味深く見て、触って、充実感を感じていたようだった。		
問題点・課題	このような外部講師(登録者)の派遣はあくまでも教育のためであり、団塊の世代の一斉退職のためではない。そのためにただでさえ多忙感のある子どもや学校が振り回されるようなことがあってはならない。		

105	兵庫県三田市	事例実施施設名	三田市中央公民館
サポーター名称	生涯学習サポートクラブ(SSC)		
制度名	生涯学習サポートクラブ支援事業		
背景・経緯	一教室 20 定員のパソコン教室を開催するにあたり、講師アシスタントが数名必要であり、この要請に対応できる教育サポーターであったため。		
受入時期	平成 18 年 10 月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、元エンジニア、元看護師等	年齢:60 歳代	受入人数:10 人
活動期間等	期間:平成 18 年 10 月 24 日 ~平成 18 年 10 月 27 日 ,回数;3 回 場所;三田市中央公民館 3 階会議室		
活動内容	パソコン教室の講師、アシスタントとして受講者へのパソコン操作の指導を行った。		
成果・効果	一教室 20 名の受講者に対して 10 人のサポーターがアシスタントとして役割を果たしたことにより丁寧に細やかな指導が受けられ、受講者の理解度及び満足度も高かった。		
問題点・課題	特になし		

106	奈良県大和高田市	事例実施施設名	大和高田市立高田中学校
サポーター名称			
制度名	ようこそ先輩		
背景・経緯	中学生に適正な職業観をもたせる、しかも卒業生ということにより身近に感じてもらいたいため。		
受入時期	平成 18 年 7 月		
教育サポーターの属性等	属性:本校の卒業生	年齢:30 歳代	受入人数:8 人
活動期間等	期間:平成 18 年 7 月 ~平成 18 年 10 月 28 日 ,回数;8 回 場所;体育館、図書館		
活動内容	講演と実演。自分がなぜこの職業についてのか仕事上の苦労など。中学校かどうい進路で今の仕事についてかを述べる。手に技術をもっている人については生徒の前で実演もしてもらう。		
成果・効果	卒業生なのでより身近に感じ真剣に耳を傾ける姿が見られた。自分もあこがれとしての職業をより具体的につかんだと思う。		
問題点・課題	もっと多くの先輩に来校してもらいたかったが予算のこともあり、準備も大変である。		

107	奈良県葛城市	事例実施施設名	葛城市立白鳳中学校
サポーター名称	まちの達人さん		
制度名	葛城市立生涯学習人材バンク		
背景・経緯	部活動の指導者不足によるもの		
受入時期	平成 11 年		
教育サポーターの属性等	属性: 会社員	年齢: 40 歳代	受入人数: 1 人
活動期間等	期間: 平成 11 年 4 月 ~ 平成 15 年 3 月 , 回数: 500 回 場所: 体育館等		
活動内容	バスケットボール、卓球等		
成果・効果	レベルが上がり、県大会でも上位を狙えるようになってきた。		
問題点・課題	教諭との責任問題		

108	和歌山県橋本市	事例実施施設名	橋本市立応其小学校
サポーター名称	堀江千永子		
制度名	橋本市教育委員会人材支援バンク活動推進事業		
背景・経緯	平成 16 年度「地域の子ども教室推進事業」を実施するにあたり、人材バンク登録者であった同氏に講師を依頼する。		
受入時期	平成 19 年 9 月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:	受入人数: 2 人
活動期間等	期間: 平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日 , 回数: 年 2 回 場所: 応其小学校		
活動内容	日本の伝統文化に触れることを目的に茶道教室を開催する。		
成果・効果	伝統文化の重み(歴史)を肌で感じ取ることができた。 日常の礼儀さほうについて考える良い機会となった。 地域の方との交流を通してつながりが深まった。		
問題点・課題	特になし		

109	島根県隠岐の島町	事例実施施設名	西郷小学校
サポーター名称	社会教育指導者		
制度名	どうご人材バンク		
背景・経緯	総合的な学習の時間や特別活動の授業において体験的な学習が必要となり地域の人材を活用した。		
受入時期	平成 18 年 12 月		
教育サポーターの属性等	属性: 退職公務員、現職会社員	年齢: 60 歳代	受入人数: 2 人
活動期間等	期間: 平成 18 年 12 月 1 日 ~ 平成 19 年 1 月 31 日 , 回数: 20 回 場所: 西郷小学校教室		
活動内容	手話指導(4 年生 53 名) 民謡歌唱及び踊り(5 年生 58 名)		
成果・効果	体験を通して学習が深化した。人間的なふれあいを通してやさしさ、思いやりの心が高まってきたように思う。		
問題点・課題	指導者の方は献身的に貢献してくれる。少しでもこれに応えるべく対応の充実を図っていきたい。		

110	岡山県浅口市	事例実施施設名	鴨方西小学校
サポーター名称	アジサイの会		
制度名	いきいきわくわくプロジェクト		
背景・経緯			
受入時期	平成18年12月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:	受入人数:4~5人
活動期間等	期間:平成18年12月6日~平成18年12月8日,回数:2回 場所:浅口市立鴨方西小学校		
活動内容	点字の学習・・・アジサイの会(点字の打ち方や読み方を学習し、名前や簡単な文章を打った)交流会・・・アジサイの会の方も参加。聴覚障害者の方の学習でお世話になった方をお招きして交流会を行った(交流会の内容;聴覚障害者の方からのお話・質問タイム・点字を読んでもらおう・ゲーム等)		
成果・効果	点字の打ち方には決まったルールがあり児童たちは新しい発見に喜んだり、熱心に点字を打ったりして点字に興味を持つことができた。 障害をもった方の生活の仕方や困っていることを実際に聞くことにより聴覚障害者の方の思いを知ったり、接し方(肩をたたいて知らせてあげたり、口の形がはっきりと分かるように話すなど)を学んだりすることができた。		
問題点・課題	点字の学習は子どもにとってやや難しい内容であったので最初から2日間での実施(点字の学習)を予定すればよかったと思う。		

111	岡山県矢掛町	事例実施施設名	岡山県小田郡矢掛町立矢掛小学校
サポーター名称	まちづくり出前講座		
制度名	まちづくり出前講座		
背景・経緯	6年生社会科の授業に地域の古代史に詳しい方に講師としてお願いしたいと担任から要望があった、「まちづくり出前講座」にふさわしい講座があったので教育課に依頼した。学芸員を紹介され事前に活動内容の打ち合わせを行い、授業を実施した。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:町職員(学芸員)	年齢:30歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年4月19日,回数:1回,場所:矢掛小学校図書館		
活動内容	6年生社会科の学習・・・町内の弥生遺跡(清水谷遺跡)について説明 同遺跡の出土品の展示、説明 児童の質問事項への回答 学習のまとめ		
成果・効果	児童は自分たちの地域にも歴史的な遺跡があることに気づき、歴史学習に興味・関心をもつとともに自分の課題をもって調べようとする意欲を高めることができた。		
問題点・課題	特になし		

112	岡山県吉備中央町	事例実施施設名	吉備中央町立竹荘中学校
サポーター名称	スクールサポーター		
制度名	スクールサポーター配置事業		
背景・経緯	町教育委員会より上記の事業が実施されるとの報告があり、本校のニーズと合致していたため申し込みをした。		
受入時期	平成19年5月		
教育サポーターの属性等	属性:元中学校教員	年齢:50歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年5月1日~平成20年3月21日,回数:42回,場所:心の教室、各教室他		
活動内容	心に悩みを抱える生徒に対する教育相談 授業についていきにくい生徒に対する学習相談 必要に応じ教科の支援		
成果・効果	生徒の人間力向上に大きな戦力となっている。		
問題点・課題	時間数をもっと増やしてほしい。		

113	広島県安芸高田市	事例実施施設名	安芸高田市教育委員会学校教育課
サポーター名称	教育介助		
制度名	教育介助員配置事業		
背景・経緯	特別支援が必要な児童へニーズに応じたきめ細やかな教育を提供するため申請した。		
受入時期	平成 19 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:40 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 1 日 ,回数; 場所;		
活動内容			
成果・効果			
問題点・課題	登録者に対する賃金面での充実		

114	広島県世羅町	事例実施施設名	世羅町立甲山小学校
サポーター名称	ゲストティーチャー		
制度名	学校ボランティア		
背景・経緯	音楽科 6 年生の教材に日本の伝統音楽についての学習がある。これまでは教科書やCDを使って箏・尺八の曲の鑑賞や歴史を学んでいた。しかし、町内に邦楽演奏グループがあることを知り、生の演奏を鑑賞したり、実際に児童が体験演奏する学習計画を立て、受け入れに至った。		
受入時期	平成 19 年 2 月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦、農業、商店主、無職	年齢:20～70 歳代	受入人数:10 人
活動期間等	期間:平成 19 年 2 月 2 日 ,回数;1 回 場所;本校多目的スペース		
活動内容	邦楽演奏 楽器紹介(歴史と特徴) 児童の演奏体験指導		
成果・効果	実演を生で鑑賞でき、日本の楽器の素晴らしさを知ることができた。楽器を直接扱うことができ感動した。		
問題点・課題	今回は 1 回だけの受け入れだったがクラブ活動等に受け入れ、日本文化の伝承活動にしていこうかと検討している。		

115	山口県下松市	事例実施施設名	下松中央公民館
サポーター名称	趣味教養講師		
制度名	下松市民ミニセミナー		
背景・経緯	子ども会の夏の行事の要請		
受入時期	平成 18 年 8 月		
教育サポーターの属性等	属性:退職公務員	年齢:63 歳	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 18 年 8 月 20 日～平成 18 年 8 月 20 日 ,回数;1 回 場所;中央公民館		
活動内容	アートバルーン講習		
成果・効果	地域の親子の交流。子ども会行事の拡充。		
問題点・課題	特になし		

116	山口県光市	事例実施施設名	光市立浅江中学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	生涯学習サポートバンク		
背景・経緯	家庭科の調理実習の時、1名の教師で35名を見るのが難しく、特に魚料理(魚をさばく時)の場合に自主補助が各班に1名欲しかった。		
受入時期	平成18年11月		
教育サポーターの属性等	属性:食生活推進員	年齢:50歳代	受入人数:6人
活動期間等	期間:平成18年11月,回数:3回,場所:調理室		
活動内容	各班に1名教育サポーターを付け、包丁の使い方等について実際に示されての指導なので生徒も納得して実習を行った。		
成果・効果	男女生徒ともに包丁の使い方が正しく行われ、生徒の調理に対する興味関心が高まった。担当教諭が余裕を持って机間巡視・指導が行われた。		
問題点・課題	個々の生徒のプライバシー面の保護の徹底に配慮する(同地域の教育サポーターを受け入れるため)		

117	山口県美祢市	事例実施施設名	美祢市教育委員会社会教育課
サポーター名称	社会教育指導員		
制度名	社会教育指導員設置条例		
背景・経緯	専門的知識の指導のより、社会設置の推進のため		
受入時期			
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:40~60歳代	受入人数:8人
活動期間等	期間:毎年4月1日~3月31日,回数; 場所:社会教育課・市立図書館・公民館・資料館		
活動内容			
成果・効果	専門的知識の指導を受けることができた。職員の配置を削除することができた。		
問題点・課題			

118	山口県平生町	事例実施施設名	平生町立佐賀小学校
サポーター名称	きらきら星さん		
制度名	わが町きらきら星さん		
背景・経緯	卒業記念 日本の文化を知る 近くに炭焼きの施設がある		
受入時期	平成19年1月		
教育サポーターの属性等	属性:元社員、元教員等	年齢:70歳代	受入人数:6人
活動期間等	期間:平成19年1月26日~平成19年2月16日,回数:2回,場所:大星ふれあい窯		
活動内容	炭焼きに係る全般的な指導、管理		
成果・効果	炭焼き体験を通して日本の文化である炭焼きの素晴らしさや炭焼きの苦労や大変さを知ることができた。		
問題点・課題	講師の高齢化、窯の老朽化		

119	徳島県吉野川市	事例実施施設名	吉野川市山川公民館
サポーター名称	怪傑!講師団		
制度名	人権教育		
背景・経緯	講師謝金の問題で無料の講師を探した結果である。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:現行教員、市職員、公民館職員、その他退職者	年齢:40~70歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成20年3月31日,回数:毎月1回,場所:公民館		
活動内容			
成果・効果	定期的に事業が開催できるようになった。		
問題点・課題	特になし		

120	香川県高松市	事例実施施設名	高松市立牟礼公民館
サポーター名称			
制度名	生涯学習情報提供		
背景・経緯	人権学習講演会を開催するにあたり、講師選考に活用した。		
受入時期	平成 18 年 9 月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:60 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 18 年 9 月 19 日～平成 18 年 9 月 19 日 ,回数;11 回 場所;牟礼公民館ホール		
活動内容	講演タイトル「クイズ、音楽、そして人権」 ハンセン病診療所について 障害者制度について 職学学級について、等の講演の中で歌を流して聞いてもらって参加者に感想を発表してもらう。		
成果・効果	障害者差別、職学学級、同和問題等、人権にかかわる課題をクイズや音楽を交えながら分かりやすく学習することができた。		
問題点・課題			

121	香川県小豆島町	事例実施施設名	小豆島町立苗羽小学校
サポーター名称	学校支援ボランティア		
制度名	学校支援ボランティア制度		
背景・経緯	総合的な学習の 3 年生の内容の中には地場産業である醤油について調べる活動がある。その活動を深めるため地元企業に勤務する保護者に問い合わせた結果決定した。		
受入時期	平成 18 年 5 月		
教育サポーターの属性等	属性:大手醤油メーカー、研究所長兼工場長等	年齢:40 歳代	受入人数:3 人
活動期間等	期間:平成 18 年 5 月 31 日～平成 19 年 3 月 9 日 ,回数;4 回 場所;本校		
活動内容	総合的な時間において磁場産業としての醤油づくりの歴史や科学的な醤油の正体について指導してもらった。また児童自身の手による「醤油づくり」の実践におけるアドバイスをもらうと共に年間を通して随時指導をしてもらった。		
成果・効果	日頃から醤油メーカーで研究にあたっている地元の人材であるため、総合的な学習の深化のみならず地域との結びつきを深めることができた。児童自身も非常に意欲的に学習に取組んだ。		
問題点・課題	現役の会社員であるため忙しく、日程調整が難しかった。		

122	愛媛県松山市	事例実施施設名	愛媛県生涯学習センター
サポーター名称	コミュニティーカレッジ講師		
制度名	えひめマナビイ人材データバンク		
背景・経緯	従来大学教授等、専門的知見を有した方をお願いしてきているが、生涯学習の中で自らの知識・経験を地域社会で積極的に活用したいと能動的にがんばっておられる方が人材データバンクに登録しているのに活動の場が乏しいとの声を聞くので実施する講座のテーマに合致する場合はなるべくこの人材データバンク登録者を活用することとしている。		
受入時期	平成 18 年 9 月		
教育サポーターの属性等	属性:元県立高校校長	年齢:60 歳代	受入人数:1 人
活動期間等	期間:平成 18 年 9 月 23 日～平成 18 年 10 月 7 日 ,回数;2 回 場所;愛媛県生涯学習センター大研修室		
活動内容	日本史上活躍した著名な人物を題材にしてその時代の特徴を学ぶ講座を担当していただいた。人物の選択にあたっては講師の先生に一任することとし講義していただいた。		
成果・効果	講座の講師について選任する際の選択の幅が広がった。		
問題点・課題	講師の先生の力量があらかじめ予想しにくい。		

123	愛媛県今治市	事例実施施設名	今治市立常盤小学校
サポーター名称	図書ボランティア		
制度名	図書ボランティア		
背景・経緯	図書室を運営してくれていた市の職員		
受入時期	平成13年4月		
教育サポーターの属性等	属性:保護者	年齢:20～50歳代	受入人数:2～6人
活動期間等	期間:4月24日～3月25日,回数:年200回くらい 場所:各教室、図書館		
活動内容	読み聞かせ(朝、昼休み)、図書の貸し出し・返却、図書の整理		
成果・効果	図書館の運営が充実、読み聞かせにより本好きの子が増えた。保護者に学校の様子がよくわかってもらえた。		
問題点・課題	特になし		

124	愛媛県八幡浜市	事例実施施設名	八幡浜市立松蔭小学校
サポーター名称	浜っ子人材バンク		
制度名			
背景・経緯	本校の特色ある教育実践として国語科指導(特に俳句)に長けた校長により俳句教育実践があった。その特色を継続・発展させるために当該校長に退職後も人材バンクに登録してもらい本校の実践に寄与していただくこととなった。		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成10年4月1日～現在,回数:50回 場所:講堂、教室		
活動内容	俳句集会(楽器に1回程度) 句の日通信(毎日)における選句 要請に応じた国語科授業のサポート		
成果・効果	感性豊かな俳句を作る児童が増えてきた。児童の作品が様々な審査会で入選している。		
問題点・課題	特になし		

125	高知県佐川町	事例実施施設名	佐川町立佐川中学校
サポーター名称	ティーチャーズヘルパー		
制度名	ティーチャーズヘルパー制度		
背景・経緯	この事業の発足のきっかけは平成11年にネグレクトによる学力遅滞児童への加力指導が地域のボランティアの方の協力で行われたことによる。翌年、佐川町の教育改革の一つとして保護者及び地域住民が佐川町立の学校に出向き教育活動の補助を行い、児童及び生徒の基礎学力の定着を支援することを目的として配置された。		
受入時期	平成12年4月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、保護者(卒業生の)等	年齢:40～60歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年6月～平成19年2月,回数:約1073回(延べ37コマ×29週) 場所:佐川中学校		
活動内容	主に数学と英語の時間に教員と一緒に授業に入り、生徒に声がけしたり個別に机間を回って質問に答えたり、個別に説明をしたりする。また別室で加力指導をしたりする場合の補助を行う。		
成果・効果	一人一人の生徒へのきめ細かい手立てが可能になる。		
問題点・課題	時間割変更の際にそれぞれの方に抜かりなく連絡をとること。 こちらの来ていただきたい時間帯に必ず来ていただけるわけではないこと。 打ち合わせの時間を十分に確保できないこと。		

126	福岡県北九州市	事例実施施設名	北九州市立高見中学校
サポーター名称	部活外部講師		
制度名	部活振興事業		
背景・経緯	部活動の円滑な推進を図るため、顧問教師の他に部活動外部講師が部員(生徒)の指導に当たっている。特に男女子ソフトボール部、野球部、女子バスケットボール部でより専門的な立場から指導の補助(特に技術指導)を行ってもらっている。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:30~40歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成20年3月1日,回数;各講師50日以上 場所;本校運動場、中庭、体育館		
活動内容	教育サポーターを受け入れた背景・経緯と重複するところもあるが、生徒の部活動種目での技術力向上が期待される。部活動顧問(教員)と連携して生徒一人一人の力量と個性を把握して、その生徒に応じた適切な指導を心掛けている。		
成果・効果	顧問の先生が出張等で部活動で生徒とのかわりが特になくても外部講師と連携を密に取りながら、空白の時間を極力作ることが無いように継続的な指導ができる。		
問題点・課題	部外講師は本来の仕事(勤務)に加えて、余分のボランティア的な仕事をして頂いているので、平日の放課後、土曜日、祝祭日の効率的な活動が課題となる。		

127	福岡県飯塚市	事例実施施設名	飯塚市中央公民館
サポーター名称	学習支援ボランティア		
制度名	いいつか生涯学習ボランティアネットワーク事業		
背景・経緯	主催講座(高齢者講座)にて、手話を交えた、コースや会話を学ぶプログラムを計画。		
受入時期	平成18年12月		
教育サポーターの属性等	属性:手話サークルメンバー	年齢:40歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成18年11月30日~平成18年12月1日,回数;2回 場所;イツカコミュニティーセンター		
活動内容			
成果・効果	日常生活に視点を置いた内容であったため分かりやすく、手話への興味・関心が高まった。		
問題点・課題	現在のところ特になし		

128	福岡県行橋市	事例実施施設名	行橋南小学校
サポーター名称	アシスタント・ティーチャー		
制度名	アシスタント・ティーチャー事業		
背景・経緯	特別に支援の必要な児童(発達障害)が1学級に複数在籍し、担任の努力だけでは、日常の教育活動を行うことが非常に困難。		
受入時期	平成16年9月		
教育サポーターの属性等	属性:教員採用を目指す、教員免許を有する者	年齢:20歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成16年9月1日~平成19年7月20日,回数;通年(授業日) 場所;学校施設内		
活動内容	担任の補助		
成果・効果	担任は通常通りに教育活動を行うことができる。		
問題点・課題	若年のため経験不足		

129	福岡県豊前市	事例実施施設名	中央公民館
サポーター名称	中央公民館講座		
制度名	ボランティア講座制度		
背景・経緯	高齢者はつつ活動拠点事業の拠点場所が中央公民館に設置され活動目的のボランティア講座生の受け入れ先要望があった。		
受入時期	平成19年8月		
教育サポーターの属性等	属性:高齢者はつつ事業、ボランティア講座生	年齢:60~70歳代	受入人数:7人
活動期間等	期間:平成19年7月23日~平成19年8月22日,回数:4回 場所:中央公民館		
活動内容	夏休み中、子ども講座のお手伝い		
成果・効果	子ども達との繋がりがみえてよかった。		
問題点・課題	講座の内容、手順を事前に研修したのがよかった。		

130	福岡県宗像市	事例実施施設名	宗像市青少年センター
サポーター名称	教育ボランティア		
制度名	人材登録活用事業		
背景・経緯	日頃指導に当たっている指導員や相談員だけでなく、多くの人と生徒が接する機会を持たせたいと考えたため。		
受入時期	平成18年		
教育サポーターの属性等	属性:元中学校教員	年齢:50歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成18年6月23日~平成18年12月1日,回数:2回 場所:青少年センター		
活動内容	太極拳の指導		
成果・効果	18年度の2回の活動をきっかけに、19年度は年間数回連続して指導してもらえることになった。継続的な活動が可能となった。		
問題点・課題			

131	福岡県前原市	事例実施施設名	前原市立前原小学校
サポーター名称	糸島地区ボランティア(華道)		
制度名	糸島地区ボランティア派遣事業		
背景・経緯	社会科の学習で民衆の文化を実体験することにより、文化の特徴やよさを体感させ、学習の充実を図ろうと考えた。		
受入時期	平成19年6月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:60歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成18年6月7日~平成18年6月8日,回数:2回 場所:家庭科室		
活動内容	生け花の歴史についての話。生け花の仕立て方の講義。児童の体験活動の支援。		
成果・効果	生け花のよさとともに今まで受け継がれてきた歴史の重みを感じ取ることができたようである。支援者の方の持っている技術の素晴らしさや、人柄のよさを体験活動を通して学ぶことができた。		
問題点・課題	打ち合わせの時間が十分取れず、活動することが目的となってしまったくらいがあった。		

132	福岡県宮若市	事例実施施設名	宮若市立宮田北小学校
サポーター名称	パソコンボランティア		
制度名	宮若市学習支援ボランティア事業		
背景・経緯	本校は平成 16 年度から宮若市学習支援ボランティア制度を活用し、パソコンボランティアを受け入れている。昼休みは、パソコン室を児童に開放し、パソコンボランティアの方にパソコンの操作やソフトの活用等、支援を行ってもらっている。このようなことから、1 年生の生活科の授業におけるパソコンの操作について、指導、支援を行ってもらった。		
受入時期	平成 19 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員、元会社員、元警察官、主婦	年齢:60 歳代	受入人数:5 人
活動期間等	期間:平成 19 年 7 月 17 日 ,回数;1 回 ,場所;パソコン室		
活動内容	1 年生の児童にとって、パソコンを扱うことが初めての子は多い。児童数も 39 名と多く、担任一人では子ども達に十分な指導が行き届かないためパソコンボランティアの方との TT 授業を行った。活動としては電源の入れ方、マウスの操作、ソフトの扱い方など、初歩的なパソコンの活用等の支援を中心に、個に応じた細やかな支援をしてもらった。		
成果・効果	一人一人の能力に対応し、パソコンの操作、ソフトウェア活用の仕方など細やかな支援をしてもらい、児童のコンピュータ技能が向上するとともに、児童のパソコンに対する意欲、関心を高めることができた。		
問題点・課題	今回は、1 年生の生活科の授業で 1 学期 1 回であったが、2 学期も、時間調整を図り、授業で積極的に活用していきたい。		

133	福岡県粕屋町	事例実施施設名	福岡県糟屋部粕屋町立粕谷西小学校
サポーター名称	人材派遣登録者		
制度名	粕屋町人材派遣事業		
背景・経緯	クラブ(茶道)に専門家を呼んで児童の意欲の向上と技能の修得をねらってお願いした。		
受入時期	平成 19 年 5 月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:60 歳代	受入人数:2 人
活動期間等	期間:平成 19 年 5 月~平成 20 年 3 月 ,回数;12 回 ,場所;和室		
活動内容	茶道のマナーや基本的作法		
成果・効果	伝統的な文化にふれることで伝統文化を理解できた。 行儀作法を学ぶ機会を得ることができ、子ども達の行儀のマナーアップにつながっている。		
問題点・課題	茶器等の用具を借用している状況である。 活動にかかる費用を保護者に負担していただいている。		

134	長崎県川棚町	事例実施施設名	川棚町立小串小学校
サポーター名称	サポートティーチャー(ST)		
制度名			
背景・経緯	平成 16 年度より町教育委員会の補助事業として実施。校区内住民を中心に学校が人選し、本人との話し合いの上で、町教委へ報告し、承認を受ける形となる。		
受入時期	平成 19 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:主婦(保護者)	年齢:40 歳代	受入人数:2 人
活動期間等	期間:平成 19 年 4 月 10 日~平成 20 年 3 月 19 日 ,回数;160 回/人 場所;各教室		
活動内容	各学級担任との TT 体制。主に、低位(理解度、学習態度)児童への支援。テストプリント丸付け等の補助支援。		
成果・効果	遅進児・つまづきのある児童への担任の関わる時間が増えた。わからないことをそのままにせず、児童自ら尋ねる態度につながった。		
問題点・課題	ST と各担任の細かな打ち合わせの時間をとることは困難(時間的に)なため、ST に臨機応変な態度を余儀なくすることが通常。(経験により解消して行くが...) 児童個々の特性や家庭状況を見据えた上での配慮事項を共通理解する場も必要。分からないときにすぐに助けを求め(依存心・甘えの構造)、育成すべき自力解決力や自立心が育ちにくい風土を生み出してしまうマイナス要因も。		

135	長崎県新上五島町	事例実施施設名	新上五島町教育委員会
サポーター名称	支援者		
制度名	子ども支援事業		
背景・経緯	県の事業である学校環境整備事業に伴う事業である。		
受入時期	平成 17 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:退職教員	年齢:30、60歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成 18 年 4 月 10 日～平成 19 年 3 月 20 日 ,回数;175 回 場所;小学校(2校)		
活動内容			
成果・効果			
問題点・課題			

136	大分県豊後高田市	事例実施施設名	豊後高田市立河内中学校
サポーター名称	河内中教育支援センター教育サポーター		
制度名	地域人材活用サポート事業		
背景・経緯	河内中学校を地域の代表者が支えて行く組織である。教育支援センターを発足させ、そのメンバーを教育サポーターとして学校に受け入れるとともに教職員の努力による人材の発掘に努めた。		
受入時期	平成 16 年 4 月		
教育サポーターの属性等	属性:	年齢:50歳代	受入人数:2人
活動期間等	期間:平成 18 年 4 月 14 日～平成 19 年 3 月 21 日 ,回数;35 回 場所;河内中音楽室		
活動内容	毎週一回(火曜日の 5 校時)選択音楽の授業に生徒 10 名前後のギター演奏を基本的なものから指導をしてくれており 11 月の文化祭ではステージで演奏できるまでになっている。		
成果・効果	4 月のスタート時は初めてギター演奏に取り組んだ生徒達が 1 年間で自分で演奏できるまで上達する。生徒達は毎週一回のサポートとともに学習することを楽しみにしているとともに音楽に対する興味関心も高まっている。		
問題点・課題	ボランティアでやってくれており、仕事の都合をつけて、毎週指導に当たってくれているが交通費だけは支払っているが謝金等がないので気の毒である。		

137	宮城県宮崎市	事例実施施設名	宮崎市立江平小学校
サポーター名称	アカウミガメについて		
制度名	『夢創り人』市民出前講座		
背景・経緯	4 年生国語科教材で「アカウミガメの保護」があることから、詳しいアカウミガメの生態や保護の様子を聞き、学習の意欲を高めるために受け入れた。		
受入時期	平成 18 年 9 月 20 日		
教育サポーターの属性等	属性:宮崎野生動物研究会	年齢:70歳代	受入人数:1人
活動期間等	期間:平成 18 年 9 月 20 日 ,回数;1 回 ,場所;体育館		
活動内容	講話 ・アカウミガメの生態について ・アカウミガメの保護の歴史について ・現在のアカウミガメの様子について		
成果・効果	児童がアカウミガメについて、より興味を持つことができた。環境教育に対する学習の意欲が高まった。		
問題点・課題	学校側のねらいを確実に伝えて、より事業の効果を上げていく。謝金等をどうするか。		

138	沖縄県那覇市	事例実施施設名	那覇市立城東小学校
サポーター名称	学習支援ボランティア		
制度名	城東小学習支援ボランティア		
背景・経緯	特別支援学級だけでなく、普通学級においても、特別に支援を必要とする児童がいるため、教育サポーターを受け入れた。		
受入時期	平成19年4月		
教育サポーターの属性等	属性:退職職員	年齢:60歳代	受入人数:3人
活動期間等	期間:平成19年5月14日～平成20年3月24日,回数:90回 場所:関係児童のいる教室		
活動内容	学級担任が一斉授業をする際や、個別に課題解決に当たる場面で、対象となる児童の支援を行う。		
成果・効果	普通学級で一斉授業を行う際、学習についてこれない児童に対し、支援ボランティアが対象児童を支援することにより、児童の学習意欲や、集中力の向上につながった。		
問題点・課題	特になし		

139	沖縄県多良間村	事例実施施設名	多良間村立多良間小学校
サポーター名称			
制度名			
背景・経緯			
受入時期			
教育サポーターの属性等	属性:公務員、会社員、主婦	年齢:30～50歳代	受入人数:10人
活動期間等	期間:平成19年5月8日～平成19年12月10日,回数:8回 場所:		
活動内容	野球、空手、料理、さんしんなどの8つの講座を開設し、地域と共に子ども達に生きる力を育む活動を行っている。		
成果・効果	児童の体験活動の機会が増えるとともに地域の興味関心が高まった。		
問題点・課題	・ボランティアに対する経費、保険費等の確保が難しい。 ・ボランティアに関する人材確保の為の情報不足。		

参考2 施設で活動する団体・グループ等に対する講師等の派遣事例

NO	自治体名	施設名	教育サポーターの名称/事業・制度名
1	北海道	北海道立青年の家	講師
2	栃木県	栃木県総合教育センター	栃木県メディアボランティア
3	北海道北見市	北見市立児童館・児童クラブ(19施設)	チャイルドアドバイザー
4	北海道南幌町	南幌町公民館	生涯学習サポーター
5	福島県いわき市	中央公民館	市民講座
6	栃木県大平町	大平町立大平南小学校	学校支援ボランティア活動
7	東京都中央区	築地社会教育会館	
8	東京都墨田区	すみだ生涯学習センター	人材・指導者情報登録者
9	東京都東村山市	東村山市立公民館	シニア学級講師
10	愛知県豊田市	豊田市生涯学習センター崇化館交流館	崇化地区「地域講師」
11	愛知県安城市	安城市青少年の家	安城市青少年奉仕活動・体験活動ボランティア講師
12	大阪府大阪市	大阪市立総合生涯学習センター	大阪市生涯学習インストラクター
13	兵庫県三田市	三田市中央公民館	生涯学習サポートクラブ
14	鳥取県岩美町	若美町中央公民館	指導者
15	山口県下松市	下松中央公民館	
16	福岡県北九州市	北九州市立高見中学校	スクールヘルパー
17	佐賀県佐賀市	佐賀市立富士公民館	
18	福岡県朝倉市	朝倉市立石公民館	有志指導者
19	福岡県粕屋町	福岡県糟屋部粕屋町立粕谷西小学校	粕屋町お話し会(ひまわり会)
20	鹿児島県垂水市	垂水市地区公民館連絡協議会	垂水市生涯学習人材バンクキリ人

1	北海道	事例実施施設名	北海道立青年の家
サポーター名称	講師		
制度名	ゆ～する協力会		
背景・経緯	少年団の合宿における補強プログラム実施のための講師として活用		
受入時期	平成19年8月		
教育サポーターの属性	属性:北海道山岳連盟会員	年齢:50～60歳代	人数:5人
利用者属性	アルペンスキー少年団	当該施設の役割	活動場所の提供及びプログラム及び講師の調整
活動期間等	期間:平成19年8月16日,回数:1回,場所:北海道立青年の家体育館		
活動内容	クライミング実技指導及びビレー		
成果・効果	プログラム活動に幅を持つことができ、少年団指導者の満足度はもとより団員自らが新しい自分の発見につながった。		
問題点・課題			

2	栃木県	事例実施施設名	栃木県総合教育センター
サポーター名称	栃木県メディアボランティア		
制度名	栃木県生涯学習ボランティアセンター		
背景・経緯	メディアボランティア養成研修塾生の成果発表の場の確保		
受入時期	平成18年10月		
教育サポーターの属性	属性:退職教育、エンジニア、主婦、IT企業社員	年齢:30～70歳代	人数:10人
利用者属性	栃木県視聴覚教育連盟	当該施設の役割	イベント会場の提供、広報
活動期間等	期間:平成18年10月29日,回数:1回,場所:栃木県総合教育センターパソコン室		
活動内容	とちぎ教育の日イベントに参加		
成果・効果	イベント参加者に好評であった		
問題点・課題	会場の確保		

3	北海道北見市	事例実施施設名	北見市立児童館・児童クラブ(19施設)
サポーター名称	チャイルドアドバイザー		
制度名	北見市チャイルドアドバイザー制度		
背景・経緯	受け入れ施設の近隣小学校の教師が科学実験ボランティアサークルの代表であり、受け入れ施設の利用児童を対象に科学あそびの教室を実施したいとの申し出があったため、チャイルドアドバイザーとして登録し、教室の実施にいたる。		
受入時期	平成18年6月		
教育サポーターの属性	属性:	年齢:50歳代	人数:3人
利用者属性	市立児童館	当該施設の役割	科学あそびプログラムの周知・広報。会場準備、参加者人数の把握。
活動期間等	期間:平成18年6月10日～平成18年9月2日,回数:8回,場所:北見市立三輪児童センター		
活動内容	6月10日「色水遊びをしよう」 6月24日「花の色水いろいろ」 7月8日「ソーラーカーを作ろう」 7月15日「模様の消えるコップ」「ベンハムの駒」 7月22日「お手玉のできるシャボン玉」 8月19日「見える光、見えない光」 8月26日「音が見えるオモシロスコープ」 9月2日「みわつこ実験祭り」		
成果・効果	日常活動として通常利用児童に提供しているプログラムとは違った活動を実施することにより、児童館活動の幅の広がりや、児童館の魅力が向上した。また、他の児童館の職員を見学させることで、今後の児童館活動に取り入れていける題材も発見できた。		
問題点・課題	講師が現職の教師であるため、活動日や場所が限定されてしまう。		

4	北海道南幌町	事例実施施設名	南幌町公民館
サポーター名称	生涯学習サポーター		
制度名	生涯学習サポーター		
背景・経緯	高齢者大学の研究講座内容として、七宝焼きの希望があったため、生涯学習サポーターとして登録されていた講師へ依頼した。		
受入時期	平成 19 年 1 月		
教育サポーターの属性	属性:元障害者施設職員の主婦	年齢:60 歳代	人数:1 人
利用者属性	高齢者大学(60 歳以上)	当該施設の役割	この団体の事業主体者で、紹介、手伝い等は職員で行っている。
活動期間等	期間:平成 19 年 1 月 17 日 ,回数;1 回 ,場所;南幌町公民館		
活動内容	高齢者大学の授業の一つとして、ブローチ等のアクセサリー品を七宝焼き作りの指導を受けながら、各自の作品を完成した。		
成果・効果	初めての体験の人も多く、自分の作品を完成させたことを喜んでた。しかし、人数が多すぎて指導が行き渡らない場面もあった。		
問題点・課題	特になし		

5	福島県いわき市	事例実施施設名	中央公民館
サポーター名称	市民講座		
制度名	市民講師活用事業		
背景・経緯	地域自治会からの派遣申請による。		
受入時期	平成 19 年 2 月		
教育サポーターの属性	属性:退職教員	年齢:70 歳代	人数:1 人
利用者属性	自治会、青年会、婦人会	当該施設の役割	講師の選定のために情報提供
活動期間等	期間:平成 19 年 2 月 4 日 ,回数;1 回 ,場所;自治会集会所		
活動内容	高齢化に伴う楽しい生き方と題した講和		
成果・効果	地区民への学習機会の提供ができたことと共に公民館と地域との連携が深まった。		
問題点・課題	特になし		

6	栃木県大平町	事例実施施設名	大平町立大平南小学校
サポーター名称	学校支援ボランティア活動		
制度名	ピッコロクラブ		
背景・経緯	児童が読書に親しむと同時に豊かな心の育成のために受け入れた。		
受入時期	平成 16 年 4 月		
教育サポーターの属性	属性:主婦	年齢:30 ~ 50 歳代	人数:15 人
利用者属性	小学校	当該施設の役割	打ち合わせ場所の提案
活動期間等	期間:平成 16 年 4 月 1 日 ,回数;25 回 ,場所;各教室		
活動内容	朝の自習時間(10 分間)に各学年(1 年 ~ 6 年)の教室にて教育サポーターが読み聞かせを行う。		
成果・効果	話を集中して聞くようになり、読書への関心が高まった。また落ち着いた気持ちで1時間目の授業を受けられるようになった。		
問題点・課題	学年の児童の発達段階に合った図書の選定やそれについての教員との打ち合わせ(話し合い)がなかなかできない。		

7	東京都中央区	事例実施施設名	築地社会教育会館
サポーター名称			
制度名	文化のリレー		
背景・経緯	学校週5日生への対応として、社会教育関係登録団体のボランティア活動により、子どもたちへの文化的・趣味的活動の機会を提供するとともに、世代間の交流を活発にして、生涯学習活動の充実を図るために、社会教育会館で実施してきた。		
受入時期	平成13年10月		
教育サポーターの属性	属性:在勤者、主婦	年齢:60歳代	人数:3人
利用者属性	小学校	当該施設の役割	講師派遣への仲介
活動期間等	期間:平成18年5月13日～平成19年2月10日,回数:12回 場所:築地社会教育会館、区立明石小学校		
活動内容	押し花教室、ジャズダンス教室、チェス教室、そば打ち教室		
成果・効果	和気あいあいと充実して実施された。		
問題点・課題	ボランティア講師は登録時にアンケートに回答してもらっているが、本会館の登録団体は在勤者が多く、昼間の時間帯での依頼が多少困難。		

8	東京都墨田区	事例実施施設名	すみだ生涯学習センター
サポーター名称	人材・指導者情報登録者		
制度名	すみだ生涯学習センター人材・指導者派遣登録		
背景・経緯	区民の生涯学習活動に関する相談を受け、必要に応じ指導者・講師・サークル等を紹介し、区民の生涯学習活動を援助するための学習相談で利用するため。		
受入時期	平成6年12月		
教育サポーターの属性	属性:色々なジャンルで活動している指導者・講師	年齢:	人数:人
利用者属性	ジャンル・性別に関係なく墨田区内で活動している団体	当該施設の役割	学習相談員が相談者と面接(電話も含む)による相談を受け、指導者や講師に連絡を取る。また区民に対する生涯学習のコーディネートも学習相談員が行っている。
活動期間等	期間:不定期,回数:必要に応じ,場所:不特定		
活動内容	あらゆる活動の登録を受けているため、個々の活動内容が異なるため表記できない。		
成果・効果	生涯学習の活動を始めようとする区民に対し色々な活動を紹介できる。		
問題点・課題	特殊なジャンルの登録者が少ない。そうしたものを区民に紹介すると特定の人だけになるため、斡旋に近くなってしまう。		

9	東京都東村山市	事例実施施設名	東村山市立公民館
サポーター名称	シニア学級講師		
制度名	東村山市人材バンク		
背景・経緯	専門分野の講師が必要となったため		
受入時期	平成18年11月		
教育サポーターの属性	属性:郷土研究会会長	年齢:70歳代	人数:1人
利用者属性	公民館市民講座	当該施設の役割	講座の企画・運営
活動期間等	期間:平成18年11月10日～平成18年12月15日,回数:1回,場所:		
活動内容	市内の史跡・文化財めぐりの講師として、郷土史の案内をお願いした。		
成果・効果	身近な史跡にふれ、参加者は史跡について学習した。		
問題点・課題			

10	愛知県豊田市	事例実施施設名	豊田市生涯学習センター崇化館交流館	
サポーター名称	崇化地区「地域講師」			
制度名	児の口愛護会			
背景・経緯	児の口公園にてホテル鑑賞会とコンサートを開催した折、日頃から児の口公園を管理したり事業を企画実施している関係からゲームと自然遊びを担当していただいた。			
受入時期	平成 18 月 2 月			
教育サポーターの属性	属性:主婦、会社員、退職者、じいちゃん、ばあちゃん	年齢:50~70 歳代	人数:10 人	
利用者属性	舞いホテル飛ばし隊	当該施設の役割	つなぎ、PR 活動、助言	
活動期間等	期間:平成 18 年 6 月 11 日 ,回数:1 回 ,場所:児の口公園			
活動内容	近自然型都市公園の説明 地域住民の交流 環境学習 「とよた学生プロジェクト」ボーイスカウト、自治区とのつなぎ 会場準備片付けの手伝い。			
成果・効果	各団体との連絡調整がスムーズにいった。危険が無いよう事前の環境整備を実施していただいた。児の口公園を有効に活用させてもらえた。導入部でうまく遊びを取り入れてよりよい事業展開が図れた。			
問題点・課題	児の口公園の維持管理をしている誇りを受け入れて、上手く活躍してもらえるよう対応。サポーターさんたちの企画事業を積極的にPRする姿勢をとる。			

11	愛知県安城市	事例実施施設名	安城市青少年の家	
サポーター名称	安城市青少年奉仕活動・体験活動ボランティア講師			
制度名	安城市青少年ボランティア活動支援センター			
背景・経緯	安城市子ども会育成連絡協議会に単位子ども会の新入会員の歓迎会やクリスマス会においてレクリエーションやマジック等の講師を依頼。			
受入時期				
教育サポーターの属性	属性:主婦及び下教員、会社員	年齢:50~60 歳代	人数:1~2 人	
利用者属性	安城市子ども会育成連絡協議会	当該施設の役割	取次ぎ、斡旋	
活動期間等	期間:平成 18 年 4 月 1 日~平成 19 年 3 月 31 日 ,回数:8 回 ,場所:各町内公民館			
活動内容	マジック、パルーンアート、腹話術、人形劇、クラフト、レクリエーションゲーム等			
成果・効果	打ち合わせのうえ、活動しているため相方における満足度は高く、好評である。			
問題点・課題	特になし			

12	大阪府大阪市	事例実施施設名	大阪市立総合生涯学習センター	
サポーター名称	大阪市生涯学習インストラクター			
制度名	大阪市インストラクターバンク			
背景・経緯	活動していたグループの講師が辞めることになり、代わりの講師が必要となったため。			
受入時期	平成 16 月 5 月			
教育サポーターの属性	属性:	年齢:40 歳代	人数:1 人	
利用者属性	センター利用グループ(主に成人)	当該施設の役割	インストラクターバンク登録者から適任と思われる講師の人選、グループへの紹介。	
活動期間等	期間:平成 16 年 5 月~平成 16 年 10 月 ,回数:20 回 ,場所:大阪市立城北市民学習センター			
活動内容	ハングルの指導			
成果・効果	グループ活動の継続につながった			
問題点・課題	特になし			

13	兵庫県三田市	事例実施施設名	三田市中央公民館
サポーター名称	生涯学習サポートクラブ		
制度名	生涯学習サポータークラブ支援事業		
背景・経緯	教育サポーターが実施するイベントに必要であったため		
受入時期	平成 19 年 8 月		
教育サポーターの属性	属性:退職教員、元エンジニア、元看護師	年齢:60 歳代	人数:18 人
利用者属性	特別支援教育実施	当該施設の役割	ボランティアルーム(団体室)の提供。 通信機器の貸与。
活動期間等	期間:平成 19 年 8 月 11 日 ,回数;1 回 ,場所;わくわく村		
活動内容	折り紙、紙飛行機、紙鉄砲、ハーモニカ、指導等。		
成果・効果			
問題点・課題			

14	鳥取県岩美町	事例実施施設名	若美町中央公民館
サポーター名称	指導者		
制度名	若美町人材活用事業		
背景・経緯	若美小中央公民館は派遣元であるが中央公民館で活動している同好会、団体も多く、これらのサークルからの活用申し込みを受けている。以前から高齢者人材活用事業として取組んできたが本年度は年齢枠をはずし、誰でも登録できることとした。		
受入時期			
教育サポーターの属性	属性:知識・技能・生活の知恵を持つ人であれば誰でも	年齢:60 歳代	人数:100 人
利用者属性	社会教育団体	当該施設の役割	登録者名簿の登載と配布及び使用団体からの活動計画、利用申し込み、実績報告に基づく謝金の支払い。
活動期間等	期間:平成 19 年 7 月～平成 20 年 3 月 31 日 ,回数;100 回 場所;地区公民館、保育所、中央公民館等		
活動内容	人材活用事業ではジャンルはそれぞれであるが活用する団体は趣味学習への派遣申請が殆どである。伝承行事への派遣や調理実習へ依頼、ものづくり(主として手芸)的なものが多い。一回に支給する学派交通費込みで 2000 円である。		
成果・効果	派遣先からは様々な技術が取得でき、生活にうるおいができたなど地域、グループから喜ばれている。		
問題点・課題	名簿登載者の中で活用されているものの数が少なく、多くのジャンルの人の活用が望まれるので活用される団体を増やす取組みを行う。		

15	山口県下松市	事例実施施設名	下松中央公民館
サポーター名称			
制度名	くだまつ市民ミニセミナー		
背景・経緯	制度の設立、地域への周知		
受入時期			
教育サポーターの属性	属性:多種	年齢:	人数: 人
利用者属性	子供会等	当該施設の役割	施設の提供
活動期間等	期間: ,回数; ,場所;		
活動内容			
成果・効果			
問題点・課題			

16	福岡県北九州市	事例実施施設名	北九州市立高見中学校	
サポーター名称	スクールヘルパー			
制度名	スクールヘルパー制度			
背景・経緯	開かれた学校づくりの一環として、学校を開いて訪れてもらう取り組みを進める一方学校の安全を守るため、保護者、PTA、地域住民の方々の有志にスクールヘルパーをお願いしている。午前又は午後それぞれ4時間単位の仕事(ボランティア)となるが、本校は校地内に市民の生活道路が通っているため、校門は施錠していない。一層生徒の安全確保のためにこの制度が有用である。			
受入時期	平成19年4月			
教育サポーターの属性	属性:主婦、保護者		年齢:30~40歳代	人数:4~5人
利用者属性	PTA、まちづくり協議会	当該施設の役割	仕事内容の整理と連絡。仕事分担の事務。スクールヘルパー会議の開催(PTA理事会での確認)	
活動期間等	期間:平成19年4月1日~平成20年3月1日,回数;15回,場所;学校施設、校地内での巡回、来訪者の確認(受付等)			
活動内容	学校の大きな行事等を含めて外部からの来校者が多いときに、スクールヘルパーに活動していただいている。特に生徒との接触には気を付けトラブルが発生しないように努めている。学校施設、校地内での巡回と併せて来校者(来訪者)を受付でチェックしている。			
成果・効果	本校は全生徒200名あまりの小規模校である。教員定数も少なく広い校地内での大人の目も行き届かない。スクールヘルパーに積極的に足を運んでいただき生徒の安全確保に成果を上げている。			
問題点・課題	受け入れについて大きな問題はないが、さらに増員を図っていくことが課題と考えている。			

17	佐賀県佐賀市	事例実施施設名	佐賀市立富士公民館	
サポーター名称				
制度名	佐賀地域人材バンク			
背景・経緯	新しい講師を探していたとき、人材バンク登録者の紹介を得たため利用したものである。			
受入時期	平成19年6月			
教育サポーターの属性	属性:生涯学習インストラクター・レクリエーションインストラクター		年齢:50歳代	人数:1人
利用者属性	公民分館 例会	当該施設の役割	講師との打ち合せ、当日の講師紹介、当日の視察(評価)	
活動期間等	期間:平成19年6月3日,回数;1回,場所;公民館分館			
活動内容	講義(講演) 地域づくりをテーマで依頼した。講師の経験談有、涙、笑い有。簡単な体操もあった。			
成果・効果	講座についてのアンケートの結果 50~70代の参加者が多かった。 男性の出席が多かった。 参加された感想は?…概ね好評であった。 良かった点…漢方に基づいた講師の話に興味を持たれた様子。 今後成人学級ではどのようなことをしてほしいですか?…健康についてが圧倒的に多く、次点が体を動かすことという結果になった。 もしも成人学級に参加費用がかかるとしたら、1回いくらまでなら負担できるか?…500円以下の負担。			
問題点・課題				

18	福岡県朝倉市	事例実施施設名	朝倉市立石公民館
サポーター名称	有志指導者		
制度名	お茶の間学習ネットワーク事業		
背景・経緯	地域住民より子ども達を対象としたエアロビクス指導の要望があり教室開設に至った。		
受入時期			
教育サポーターの属性	属性:元幼稚園教職員	年齢:30歳代	人数:1人
利用者属性	子ども(2歳~14歳)	当該施設の役割	
活動期間等	期間:通年,回数:5回,場所:朝倉市立石公民館		
活動内容	エアロビクス教室から開設し、その後、子ども達のニーズ・年齢などに応じ、現在リミックダンス(2歳~6歳)・ストリートダンス(6歳~14歳)・エアロビクス(小低学年・高学年・ハイレベル)と広がりを見せている。		
成果・効果	土曜日の公民館利用者の増大と、他事業(絵本の読み聞かせ会)への波及効果が見られる。又、その子ども達が地域行事(文化祭・盆おどり大会)で成果発表することにより地域行事の参加者の増大も見られている。		
問題点・課題	公民館利用者の低年齢化に伴い公共機関利用マナーの周知徹底が必要となっている。		

19	福岡県粕屋町	事例実施施設名	福岡県糟屋部粕屋町立粕谷西小学校
サポーター名称	粕屋町お話し会(ひまわり会)		
制度名	粕屋町人材派遣事業		
背景・経緯	低学年の児童に読み聞かせを行い、児童の読書に対する興味関心意欲を高めるため。		
受入時期	平成19年5月・10月		
教育サポーターの属性	属性:退職教員及び地域の方々	年齢:60~70歳代	人数:5人
利用者属性	小学校	当該施設の役割	連絡調整
活動期間等	期間:平成19年5月1日~平成19年10月31日,回数:2回,場所:粕屋西小学校多目的室		
活動内容	学年ごとに多目的室で読み聞かせを行う。		
成果・効果	子供達が読書に関心を持ち、よく本を読むようになってきている。		
問題点・課題	特になし		

20	鹿児島県垂水市	事例実施施設名	垂水市地区公民館連絡協議会
サポーター名称	垂水市生涯学習人材バンクキラリ人		
制度名	垂水市生涯学習人材バンク		
背景・経緯	垂水市内の団体、グループ等の活動の活性化と向上に役立てるため。		
受入時期	平成12年3月		
教育サポーターの属性	属性:市内の居住者	年齢:不問	人数:不問人
利用者属性	市内の団体、グループ、学校、公民館等	当該施設の役割	「キラリ人」の活用についての広報、啓発活動
活動期間等	期間:平成19年1月5日,回数:1回,場所:柘原地区公民館		
活動内容	柘原貝塚について。柘原の地名の由来について。		
成果・効果	地元の文化財、文化について、大変興味を持って講義を受け入れてもらった。		
問題点・課題	特になし		

団塊世代等社会参加促進のための調査研究 報告書

平成20年3月

財団法人 日本システム開発研究所

〒162-0067 東京都新宿区富久町16番5号

本件担当 TEL:03-5379-5914 FAX:03-5379-5924